

ペルー野菜流通改善計画巡回指導調査団 報 告 書

昭和57年8月

国際協力事業団

東京
1982年8月
13

167
RY

JICA LIBRARY



1035281[3]

圖書時代對齋園	
12-31	19.8.33 館
1003	20001 圖書

国際協力事業団	
輸入 月日 84.3.30	709
登録No. 02268	85.6
	ADD

序 文

日本国政府は、ペルー共和国政府からのリマ首都圏における野菜等の流通システム改善に関する技術協力要請に基づき、昭和53年11月に当事業団から「ペルー生鮮食品流通改善事前調査団」を派遣した。引続き、その調査結果に基づき昭和54年12月から5カ月間にわたり、協力の基本構想を固めるため3名の長期調査員を派遣した。この結果、段階的に協力するのが適当と判断され、昭和55年3月実施協議調査団を派遣し、同年3月16日に討議議事録が署名され、協力期間2カ年の計画で、生鮮食品流通改善のための計画作りのプロジェクトとして発足した。

当事業団は発足後1年を経過した時点で、プロジェクトの進捗状況を把握し、今後の運営の指導助言を行うため、海外農業開発協会参与、本橋馨氏を団長とする巡回指導調査団を昭和57年4月10日から4月24日まで15日間にわたって派遣した。

この報告書は同調査団の報告をとりまとめたものであり、今後、本プロジェクトの実施に関する参考資料として広く関係省に活用されることを願うものである。

おわりに今回調査の任にあられた本橋団長はじめ団員各位のご労苦に対し謝意を表するとともに調査にあたってご協力を賜りました関係各位に対し、厚くお礼を申し上げます。

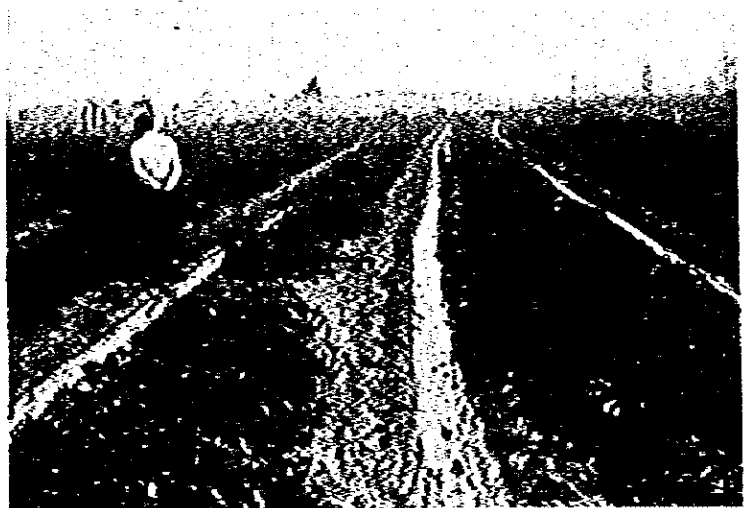
昭和57年8月

国際協力事業団
農業開発協力部長
村田 稔 尚

ペルー野菜流通改計画巡回指導調査団報告書用写真



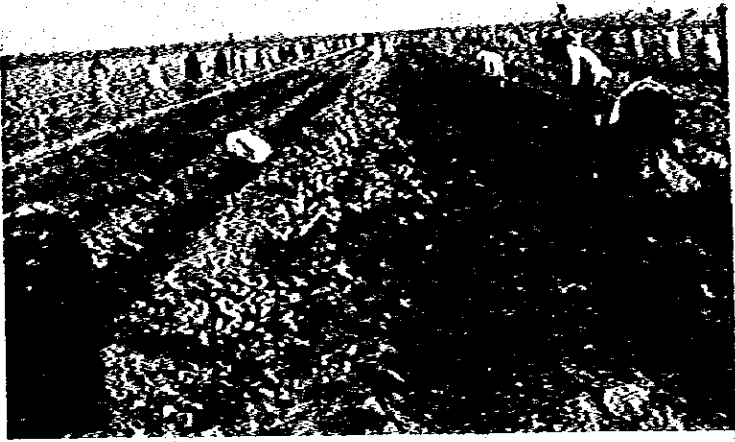
播種後の灌水状況（カヤオ地区）
リマ周辺は降水皆無のため発芽後も
定期的に灌水が必要



トマトの栽培状況（ウアラル地区）
生食用、加工用とも無支柱栽培



キャベツの栽培状況（カニエーテ地区）
中耕除草・消毒等の管理は全て
トラクターで行われる



サツマイモの収穫状況（カニエーテ地区）
トラクターにより掘出した後人力で袋詰め
する。普通この段階から仲買人の手で行わ
れ、ある程度選別しながら袋詰めされる



リマ第一中央卸売市場（野菜類が中心）
スペースも狭く非常に混雑している



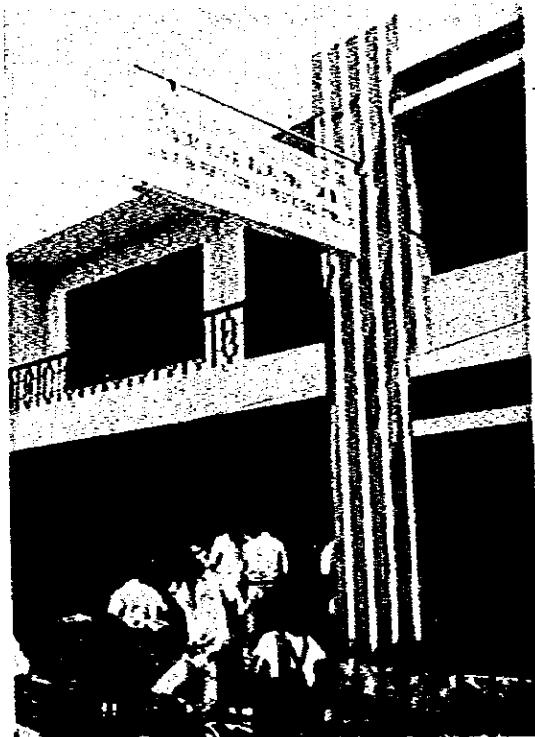
リマ第二中央卸売市場（果物が中心）
野菜の市場に比べるとかなり整然とし
ている



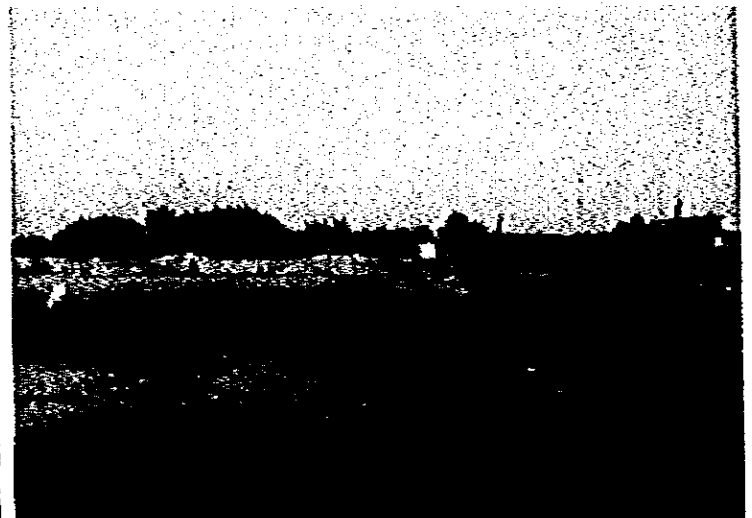
綿の収穫状況（カニエーテ地区）
リマ周辺における主作物であり、
農協も綿中心の経営を行っている



リンゴの栽培状況（カニエーテ地区）3年生
地力の衰えた土地に近年新しく導入されたもの



ウアラル中央連合農協



ウアラル中央連合農協所有地

目 次

I	調査団の派遣	1
1.	経緯及び目的	1
2.	団員構成	1
3.	調査日程等	2
4.	調査結果の要約	3
II	調査分析作業の進捗状況	7
1.	野菜流通の実態調査	7
2.	生産者、流通業者、消費者の流通改善に関する意識調査	9
3.	野菜の中・長期需給の見通し調査	11
4.	流通に関する政策及び行政機構	12
5.	外国の協力	15
6.	問題点の整理及び改善策等に関する勧告	16
III	モデル出荷システム事業計画作成作業の進捗状況	17
1.	対象地域	17
2.	対象品目	17
3.	施設	18
IV	合同委員会の開催	20
V	今後の展望と課題	24
1.	問題点	24
2.	今後の課題	25

別添 附 属 資 料

資料-1	リマ第一中央卸売市場概要	27
2	リマ第一中央卸売市場の構造と活動	30
3	中央卸売市場品目別月別入荷量	49
4	ペルーにおける農業生産物の市況放送について	53
5	リマ県における基礎的な施設の登録状況	56
6	首都圏小売市場数	57
7	流通段階別価格	58
8	米生産状況	59
9	地区別気象観測結果	60
10	地区別土壌調査結果	66
11	野菜栽培暦	70
12	全国野菜生産量及び1985年までの需要見通し計画量	71
13	プロコンブラに関する法令仮訳	72
14	検討の例示メモ	75
15	昭和56年度プロジェクトの実績	80
16	ペルー国農業省カウンターパートリスト	81
17	農産物の流通にかかるプロジェクト(プロコンブラ)	82

I 調査団の派遣

1. 経緯及び目的

昭和52年ペルー共和国政府からリマ首都圏の野菜・果樹栽培、流通システムの改善を目的とした技術協力を日本に要請してきた。この要請は生産・流通の実態が十分に把握されていない状況にあったため具体的な内容をもったものではなかった。このため日本国政府はこれらの実態と問題点の把握を目的とするコンタクトミッションを昭和53年11月に派遣した。このミッションによるこの分野における技術協力が可能であるとの提言を受けて、昭和54年12月～昭和55年5月にプロジェクト協力の基本的構想を固めるため、3名の長期調査員を派遣した。

これら調査団の調査及び構想を検討した結果、慎重な事前準備が必要であり段階的に進めて行くのが適当との判断がなされたため、「計画作り」のプロジェクトとして発足すべく、昭和56年3月に派遣された実務協議調査団により討議議事録が署名された。

本プロジェクトは、昭和56年3月16日からの2年間を協力期間とし、リマ首都圏における野菜の流通改善を図るため現状の調査分析を行い問題点を整理し、改善策を検討するとともに、モデル地区における集出荷センター等実行可能なモデル的集出荷システムの具体的事業計画を企画立案することとしている。今回本巡回指導チームは、R/D署名後1年経過した現時点において、プロジェクトの進捗状況を調査し、問題点を把握するとともに今後の運営についてペルー側関係者と打合せを行い、また専門家に対して運営・技術上の所要の指導助言を行うことを目的とした。

2. 団員構成

- | | | |
|----|--------|-------------------------------|
| 団長 | (総括) | 本橋 馨 |
| | | 海外農業開発協会 参与 (元JICA農林水産計画調査部長) |
| 団員 | (市場調査) | 篠原 久 |
| | | 農林水産省食品流通局市場課 中央卸売市場検査官 |
| 団員 | (流通計画) | 谷口 守昭 |
| | | 農林水産省近畿農政局野菜課 流通指導官 |
| 団員 | (協力企画) | 芦沢 和郎 |
| | | 農林水産省経済局国際協力課 |
| 団員 | (業務調整) | 青山 豪 |
| | | 国際協力事業団農業開発協力部畜産開発課 |

3. 調査日程等

- 4月10日(土) 東京発(20:20)
- 11日(日) ロスアンジェルス経由
- 12日(月) リマ着(6:30)
大使館, JICA表数, 日程打合せ
- 13日(火) 農業省表数(副大臣, 流通局長)
専門家・カウンターパートとの打合せ
- 14日(水) 中央卸売市場調査(第1, 第2, 魚)
カヤオ近郊産地調査
- 15日(木) チャンカイ ウワラル地区生産地調査
(ミラフロレス, サンホセ, エスキベル, チャンカイヨ)
- 16日(金) カニエーテ地区生産地調査
- 17日(土) 資料整理
- 18日(日) 専門家との打合せ
- 19日(月) 専門家との打合せ
- 20日(火) 合同委員会
専門家との打合せ
- 21日(水) 専門家・カウンターパートとの個別打合せ
- 22日(木) 大使館報告
帰国準備
- 23日(金) リマ発(1:30)
- 24日(土) 東京着(16:10)

面会者一覧表

- 在ペルー日本大使館
 - 大使 野田 英二郎
 - 公使 伊藤 忠一
 - 書記官 厚井 達夫
- JICA リマ事務所
 - 所長 平林 武尚
 - 職員 高木 繁
 - 協力隊調査員 高橋 臣夫

- ペルー国農業省
 - 副大臣 Alfredo Barreto Machiavelo
 - 流通総局長 Ricardo Port Larco
 - プロジェクトディレクター Orestes Gil Najarro
 - カウンターパート Leoncio Carranza Orbegoso
 - ” Arturo Soto Toledo
 - 流通総局次長 Jaime Angeles Munoz
 - 経済分析官 Julio Chavez Jaramillo

- 第5農政局
 - 局長 Eduardo Lago Bambaren
 - ウワラル支局専門官 Manuel Terez
 - カニエーテ支局 Soto

- チャンカイ ウワラル連合農協
 - 組合長 Juan Hermias Bustamante Ramos
 - 専務 Manuel Fiestas
 - 普及部長 Carlos Núñez Bedrinona
 - 水管理部長 Rosario

- カニエーテ地区連合農協
 - 専務 José Fidel Aguinaga Castro
 - 第5農協組合長 Luis

- カヤオ地区生産者
 - Manuel Higa
 - Kiyan
 - 他 4名

- 水産加工センター
 - 所長 José A. Ducato Backus
 - 日本人専門家 梅田リーダー 他6名

- リマ市中央卸売市場
 - 市場長 Crola Diza

4. 調査結果の要約

本巡回指導チームは、R/D署名後1年を経過した本プロジェクトに関し、協力業務の進捗状況等を調査しつつ要検討事項の整理を行い、また今後の進め方等に関し、必要に応じベル

一側関係者、専門家と協議、専門家に対し所要の助言を行なうことを目的とした。

(1) 協力業務の進捗状況

(1) R/D基本計画に定められた作業内容は次の3点である。

- (a) リマ県における野菜流通の現状調査及び分析と問題点の整理
- (b) 問題点の整理及び改善策に関する勧告
- (c) モデル集出荷システムの事業計画の作成

(1) (a)及び(b)について

資料の収集についてはある程度の進展がみられるが、一定の問題意識に立った体系的な分析、問題点の整理は今後に残されている。その結果として改善策に関するまとまった勧告も今後の課題となっている。

(1) (c)について

(1)の作業進展状況からもうかがえるように、流通システムとしての集出荷センターの機能、効果、費用、そしてそのペルー社会での定着性と条件、他の流通システムとの競争、補完の関係等流通改善の全体像の中での集出荷センターの位置づけ、役割に関する分析・検討がなお不十分であり、集出荷施設計画のみが先行している感みがある。

(1) 現地調査としては、リマの野菜、果物、魚の卸売市場及び集出荷センターの候補地とされているウワラル、カニエーテの両地域を訪れた。卸売市場では、とくに野菜市場の施設の不備、混雑振りが目立った。候補地域では両地域の間にも本プロジェクトに関する知識、熱意の濃淡が見られ、また総じて本協力の趣旨がなお十分伝っていない状況が見受けられた。

(1) ペルー側のカウンターパートの配置については、従来必ずしも十分であったとはいえないが、それなりの努力はうかがわれた。また、流通総局、農政局、関係農協等もプロジェクトの認識の仕方に問題はあるものの、ますますの動きを示していた。

なお、わが国への受入研修の効果は大きいように見受けられた。

(2) 改善を要すべき事項

(1) 今後改善を要すべき特徴的な事項は次の3点である。

- (a) 関係者の協調による問題の所在の体系的明確化
- (b) とくにペルー側関係者との接触度の増大
- (c) ペルー側へのプロジェクト推進比重の移動

(1) (a)及び(b)の事項については、(1)の作業を効果的に進める上でも基本的に重要なことである。とくに、下記理由により、ペルー側関係者との接触機会を増加させることが重要である。

(a) 「計画づくり」の本プロジェクトの性格にかんがみ、問題への接近、改善の方策、

集出荷システムの機能・効果等に関し、検討の進め方等も含め共同討議等を行うことが即大きな技術移転の場にもなる。

(b) 常時共同討議等の機会をもつことにより、共通の問題意識が生まれ、資料の収集、分析等についても合目的な効率化を図ることができる。

(c) 合同討議等の結果生まれた計画は、その実現性につき現実性をもちうる。

(d) 流通の問題はその地域の社会的土壌とのかかわり合いが大きいだけに、ペルー側関係者を中心に検討が進められることが、プロジェクトが現実性をもつ上からもとくに肝要である。集出荷施設に関する現場関係者への説明等を要する場合も、それがペルー側関係者によってなされることが、現実性、日系農家との関係等からも重要と思われる。

(3) 主要助言内容と第1回合同委の開催

(a) 上記(i)、(ii)の状況にかんがみ、(ii)の点を中心に、問題への接近及び整理の方法、ペルー側との関係のあり方、作業の手順とスケジュール等につき専門家と協議、必要な助言を行なった。

(ii) プロジェクト発足以来初めての合同委員会を開催し、3時間余にわたる協議等を通じ、日・秘双方の意志疎通の強化に努めた。主要議題(別章N参照)は、これまでの作業のレビューと今後の進め方及び双方の要望事項に関するものであったが、ペルー側発言のうち、注目すべき点は以下のとおりであった。即ち①流通の改善は、国情を勘案しつつ、息の長い多様な検討が必要である。②今後、情報交換、連絡を一層密にして欲しい。③日本の協力は、スペイン支援の総合的流通改善総策プロコンブラ(詳細別章IIの4及び別添付属資料17参照)とは重複ではなく補完の関係に立つものである。④具体的事業の実施主体は農協等民間であり、政府は責任ある「父親」の立場に立つ。⑤施設費についても日本からの協力を望みたい。といったものであった。

当方からは、①流通の改善には長期を要し、とくにそれぞれの国情にあった接近が肝要であり、この意味で、また、とくに今後の作業の重点が問題の整理、改善策等であることもあり、ペルー側関係者が中心になって事が運ばれることが重要であると基本的考え方を述べつつ、②カウンターパートの充実、機材受入手続の迅速化等に言及し、また、③施設に関するわが国への協力期待については、わが国のプロジェクトベース技術協力の一般的仕組みを説明し、そうした意味で困難な旨述べておいた。

(4) 今後の課題

(a) 野菜流通の問題点の整理と改善策のとりまとめ(当然複数もありうる)ならびにその改善策の中におけるモデル集出荷システムの可能性・位置づけと事業計画の作成とは、今後における緊急重要課題である。

(ii) 現地では、日・秘両国関係者の接点を深め、共通認識を高めつつ上記課題への早急な

とり組みを要請しておいたことは既に述べたところである。

- (2) 本プロジェクトは、農産物流通という協力経験も浅く、当該国社会のシステムとのかかわりの深い分野であるだけに、必要な専門家の短期派遣、できれば国内支援体制の強化等の措置が望まれる。その際、本プロジェクト終了後の協力のあり方等に関し、併せて広く検討が進められれば、本プロジェクトの効果的な終了にも資するものと思われる。

II 調査分析作業の進捗状況

専門家チームによる調査分析作業については、ペルーでは全般的に統計資料の整備が遅れていること、現地専門家の数が足りないこと、調査分析視点の調整が遅れていること、等から当初予定よりかなり遅れており、資料収集については70%程度まで進んでいるが、分析作業については、これからという状況である。

専門家チームが取組んでいる調査分析作業については、以下項目別に述べることとするが、今回巡回指導チームが作業方針等に関して若干の示唆を行ってきたことから、ここに紹介する以外にも今後調査が追加される可能性がある。

1. 「野菜流通の実態」に関する現状把握の状況

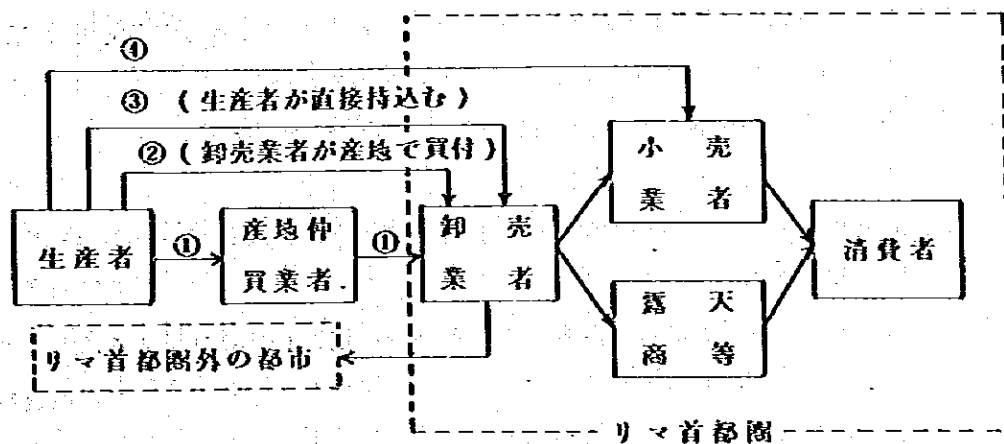
(1) リマ首都圏に搬入される野菜の流通経路

(a) リマ首都圏に搬入される野菜は、おおむね図-1のような経路によって流通している。

①の経路は産地仲買業者が産地において生産者から買付方式により集荷したものをリマ中央卸売市場に運搬し卸売業者に売渡すもの、②の経路は卸売業者が産地仲買業者を通さずに産地において直接生産者から買付方式により集荷するもの、③の経路はリマ市近郊の生産者が主として軟弱野菜をリマ中央卸売市場に運搬し直接卸売業者に売り渡すもの、である。④の経路はリマ市近郊の生産者が果菜類を直接リマ市内の小売業者に売り渡す形態であるが、全体の流通量からみれば微々たるものであろう。

なお、ペルーでは農協又は生産組合が個々の生産者の荷口をまとめて、産地仲買業者を通さず直接卸売業者に持込む共同出荷の形態は、野菜については現在のところ存在しないようである。

図-1 リマ首都圏における野菜の流通経路



(4) リマ中央卸売市場に搬入された野菜のうち大部分は、卸売業者から相対方式により小売業者に売渡されている。このほか、本市場は入場制限をしていないことから、露天商、リヤカー売り等が大勢入場しており、一部は彼等の経路に流れているが、彼等の存在は首都圏の人口急増により手狭となった本市場にさらに無秩序性、煩雑性を持込むものとして問題となっている。また、本市場に搬入された野菜の一部は、リマ首都圏の野菜供給産地の外周に位置するいくつかの地方都市に転送されているが、その実態を把握することは難かしいものとみられる。

(5) 以上のようなことから、専門家チームは流通過程における各業者、とくに生産者から野菜を集荷するだけでなく営農指導、農業用資材の販売、ときには金融行為までも併せて行い農家経営に深く食い込んでいる産地仲買業者、また産地仲買業者につながりリマ中央卸売市場を完全に牛耳っている卸売業者の活動実態の把握と機能解析に重点を置き、関係資料の収集に努めている。

この結果、彼等の実態については、かなり詳しく把握されているが、集出荷システムの事業計画に関連しての機能解析については殆んど手が付けられていないというのが現状である。

(2) 野菜流通に関する資料

前回、前々回の報告書に収録された以外に専門家チームが収集した資料は次の通りである。

(1) リマ中央卸売市場の概要(1982.4月 市場公社作成)

市場内の各施設の設置状況、卸売業者の登録状況価格調査委員会の構成状況等の資料である。 (別添資料-1)

中央卸売市場内卸売人の実態について、専門家及びカウンターパートにより調査された「リマ第一中央卸売市場の構造と活動」 (別添資料-2)
(この調査は本巡回指導チームが帰国後行われたものであるが参考となる点も多いと思われるので収録することとしたものである。)

(2) リマ中央卸売市場関係法規と遵守状況

(収集中)

(3) リマ中央卸売市場における野菜の入荷量と価格(1981.1982年)

(市場公社作成)

主要12品目について月別の入荷量と卸売価格を一覧にした資料である。

(別添資料-3)

(4) リマ中央卸売市場の転送量と地域別入荷割合

(収集中)

(4) ペルーにおける農産物の市況放送

リマ中央卸売市場における農産物の入荷量と価格については、農業省広報総室情報サービス部が調査し放送局に提供しているが、放送時刻の関係もあり生産者にはあまり利用されていないようである。

本資料は、専門家チームがこのシステムについて調査したものである。

(別添資料-4)

(5) リマ県における基礎的な施設の登録状況(農業省作成)

リマ県に設置されている保管倉庫、冷蔵施設等の収容能力を一覧にした資料である。

(別添資料-5)

(6) リマ首都圏小売市場数(市場公社作成)

市営、公営、組合経営、私営別、首都圏の地区別の小売市場数を一覧にした資料である。

(別添資料-6)

(7) リマ市内の野菜の流通段階別価格

専門家チームが、主要野菜21品目について卸売価格と小売価格(公設市場、公営スーパー、私営スーパー、一般小売店)を聞きとり調査した資料であるが、1982年4月に1回調査しただけのものであること、調査店数が少なかったこと等から近日中に再度調査を行いとりまとめるとのことである。

(別添資料-7)

(8) 各流通段階(産地仲買業者、卸売業者、小売業者)における価格形成と機能の分析

(専門家チーム調査中)

(9) その他関連資料

(a) 米生産状況(1967~1981年、農業省)

(別添資料-8)

(b) ワラル地区とリマ地区の気象観測結果(天然資源局)

(別添資料-9)

(c) ワラル地区、カニエテ地区の土壌調査結果(天然資源局)

(別添資料-10)

(d) 野菜栽培暦

(別添資料-11)

(e) かんがい用水の水質分析結果

(ラ・モリナ大学に分析依頼中)

2. 「生産者、流通業者及び消費者の流通改善に関する意識調査」の実施状況

(1) 調査の実施状況等

専門家チームは、生産者から消費者までの各関係者が野菜流通上の問題点はどこにあると考えているのか、その問題点解決のためには、どのような対応が必要であると考えているのか等を把握するため、アンケート調査を実施している。

調査は、ラ・モリナ大学の学生グループに委託しており、学生が2人1組となって聞取

方式により、1982年2月に実施している。

(7) 調査対象

(a) 生産者に対する調査

対象はワラル地区の農家100戸であって、それを耕地面積規模により大(15ha以上)、中(7~15ha)、小(7ha以下)の3段階に区分し、農協の協力を得て実施している。

(b) 流通業者に対する調査

対象は中央卸売市場の卸売人10人、市場外卸売人10人、小売市場、スーパー、一般小売人等60人、計80人である。

(c) 消費者に対する調査

対象は200戸であって、それを上流階層の地区、中流階層の地区、下流階層の地区に区分して調査を行っている。

(8) アンケートの内容

生産者に対しては、営農規模、栽培方法、販売方法等を中心に設問は18項目、卸売業者に対しては、営業規模、営業資金、量目・規格等を中心に設問は15項目、小売業者に対しては、営業規模、仕入方法、品質・規格等を中心に設問は15項目、消費者に対しては、消費量、購入金額、購入方法等を中心に設問は21項目である。(別添資料-12)

(2) 調査結果のとりまとめ状況

(7) 調査を委託した学生グループから専門家チームに対する最終報告書については、生産者、消費者分は提出されているが、流通業者分は未提出となっている。

(a) 野菜生産者に対するアンケート(最終報告)

(b) 野菜の家庭消費に対するアンケート(最終報告)

(8) 生産者から消費者までの各関係者の回答の一端を紹介すると、生産者の場合、野菜の品目と作付面積を決めるに当たって大部分の農家は従来の習慣、前年の相場等勘案して自分で判断しており、農協、農政局等の指導は全くといっていいほど受けていない。

また、緊急に解決すべき問題点としては、流通機構の欠陥を挙げる農家が一番多く5割弱を占めており、次いで肥料価格の高騰を挙げる農家が3割弱となっている。

卸売業者、小売業者の場合、野菜の需要の増加を図るには品質の良いものを提供すること、価格の変動をなくすことの2つの意見が圧倒的に多く、消費者の場合も野菜を購入する際に気をつけるのは鮮度が良いこと、品質が良いことの2点が圧倒的に多い。

また、消費者は2~3年前に比べて野菜の消費量が増えたという回答が5割弱、変わらないという回答も5割弱で、減ったという回答は1割弱である。

3. 「野菜の中長期需給見通し」の作成状況

(1) ベルギー農業省では農作物の中長期需給見通しに関する資料は作成していない模様で、これに類する資料として専門家チームが入手したのは「全国野菜生産量及び1985年までの需給見通し計画書(1982年4月農業省)」のみである。(別添資料-12)

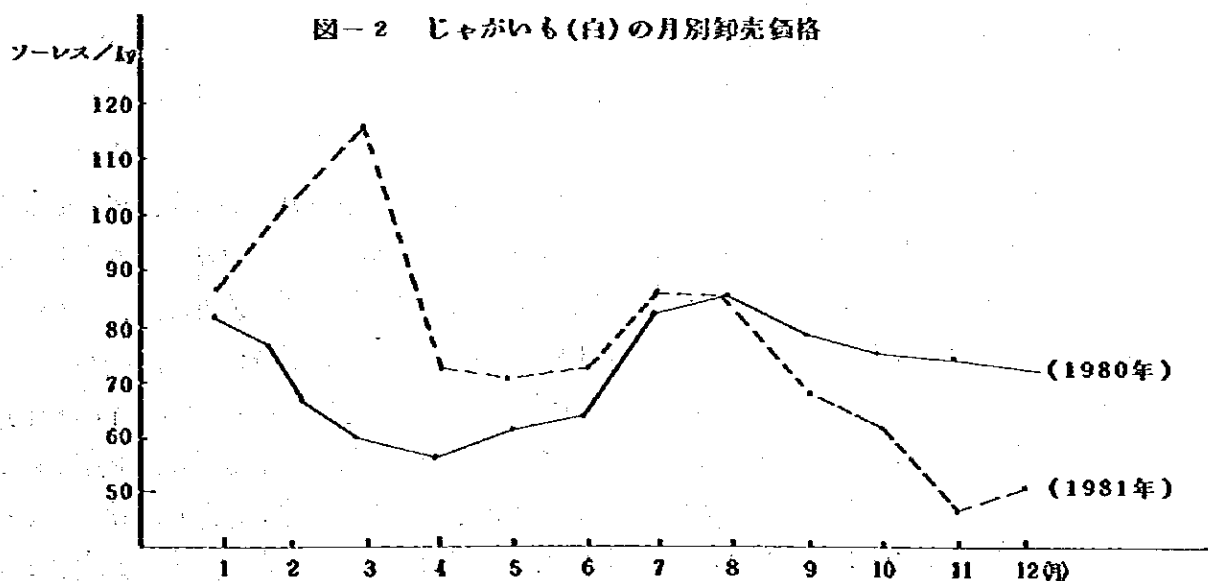
(2) 本資料については、標題は「需給見通し」となっているが、その内容は主要野菜17品目についての1985年までの作付面積を見通しただけのものであり、その算定方式も1971年から1981年までの年間平均増加率を用いたに過ぎない。

(3) 専門家チームは、「野菜の中長期需給見通し」に関する調査について本年6月以降本格的に取り組む予定としており、現時点で流通総局が需給見通し作成についてどのように対応する考えであるかは把握ができていない。

なお、このことに関して一言付け加えれば、流通総局が「野菜の中長期需給見通し」を作成するとしても、ベルギーの統計資料の整備状況等からみて各種の基礎データ(人口、1人当たり消費量等需要量算定に必要なデータ及び耕地面積、単位当たり収量、労働生産性等供給量算定に必要なデータ)を収集し、見通しを作成するには若干の日時を要するものと思われる。

(4) 「中長期需給見通しの作成」と併せて流通総局が早急に検討する必要があると思われるのは、「短期生産計画の作成」である。

(5) リマ中央卸売市場で入荷量をもっとも多いのはジャガイモであるが、そのうちの白ジャガイモについて卸売価格の推移をみると図-2の通りであってかなり変動が大きい。1981年の年間入荷量は1980年対比127%、とくに9月以降は130~140%となっていることから、卸売価格は暴落している。



現地調査の際、生産者はじゃがいもの価格を安定して欲しい、豊作で暴落した場合に国は輸出等何等かの対応を考えて欲しいと農業省の担当官に強く訴えていた。

- (d) アンケートの回答にもある通り、ペルーでは野菜の作付に関して農協、農政局とも生産者を全く指導していない。従って、生産者は産地仲買業者から意見を聞く場合もあるが、大部分の生産者は自分でデータを収集し、自分で判断せざるを得ない状況で、現地では何をどれだけ作付したらよいか、指導して欲しいという声が非常に強かった。
- (e) カニエテ中央農協組合長は、管内の作付動向は現る程度把握できるが、他地区の情報が入らないので生産者に作付指導をしようにもできないと述べている。

また、副大臣は野菜については、生産者が勝手に生産し生産してから市場を求めるといふ無計画性が、価格不安定に繋がる点に重大な関心をもっていると述べている。

- (f) 前回の調査団の報告書にもある通り、ペルーでは農政局がかんがい用水の配分計画書を作成するため、全農家から作物別（野菜については品目別）の作付計画書を提出させ作物別に集計しているが、野菜の作付指導には活用していない。また、集計された資料は農政局から本省に報告されているが農業用水は水利土地事務局の所管であるため流通総局はこのことについては関与していない。
- (g) 現在のところこの作付計画書については、生産者の協力度合、申告内容の正確度等に問題があるようで直に生産計画の作成に使用することは難かしいと思われる。しかし、折角このようなシステムが存在するのであるから、流通総局はこれを活用し、価格変動の著しい野菜を対象に主要産地についての生産計画を作成し、需要に見合った生産を確保するため、適切な作付指導を行うシステム開発を早急に検討する必要があるかと思われる。

4. 流通に関する政策及び行政機構

(i) PROCOMPRA（農産物流通総合計画）について

(a) 本計画の趣旨

現在のペルー国における農産物の流通機構は必ずしも整備されておらず、従って農産物の生産流通体制を整備することが農政上の緊急課題であるばかりでなく、国民生活にとって非常に重要な問題となっている。この認識のもとにペルー政府は農業省内に「農産物流通総合計画」"PROCOMPRA"と称する特別計画を設定した。

（別添資料－12,17参照）

国会令第2号は農業及び農業従事者の使命が国家建設に極めて重要な意義を持つものであるとの認識から、農業従事者が他の国民各層と均衡する生活をおくることができるよう農業分野における流通の改善の新たなみちを明らかにし、農産物流通に関する政策の

目標を示している。

この国会令第2号の第2章第5条で、農産物流通に関する政策目標を、農産物は生産組織を通じて流通させることを優先視し、農産物流通の改善、農産物の付加価値の増大、産地における加工施設整備のための助成等を図ることと定めている。

(f) 計画概要

(a) 期間；1976年から無期限

(b) 実施担当機関；農業食糧省流通総局

(c) 予算；

全体額は9000万ドル余とし、そのうち80%の7500万ドルをスペインからの20年間の借款で充当し、1982年から借入れを開始する。20%はペルー国が負担するが、特別な予算措置は講ぜず、農業食糧省に割当られた予算の中から支出する。

(d) 施設

① 生産地に農村流通センター(CCR)を12カ所設置する。これに要する建設費及び運営費は農民グループが負担するのが原則である。

② 消費地に都市供給センター(CDU)を80カ所(リマ地区に40カ所、その他の地方に40カ所)設置する。これに要する建設費及び運営費は小売業者が組織するグループが負担するのが原則である。

③ 貯蔵施設を消費地に7カ所設置する。これに要する建設費、運営費も②の小売業者グループが負担する。

(e) 実施の方法

農業食糧省流通総局はプロコンブラの全体計画(集出荷、規格、包装、保管、購買、運送等)を企画・立案し、新聞等を通じ生産者及び小売業者に計画参加を呼びかける。生産者及び小売業者をそれぞれグループに組織させ、計画を提出させ、適格な者に融資等による助成を行う。

(2) プロジェクトとの関係

プロコンブラをごく簡単に述べれば生産地における集出荷センターと消費地供給センターとを直結する流通システムであるといえよう。

初期段階では既存の流通システムと並行的に存在したり、プロコンブラの中に既存の仲介人、市場卸売商人等が存在するが、最終的には各種流通システムを競争させ、流通過程における中間のコスト・アップ要因を排除し、生産者及び消費者の利益並びに物価の安定等に寄与することを目的としているように思われる。

ペルー国では国家予算が少なく、強力な行政も行われておらず、プロコンブラに関しては政府は、計画作りと、若干の融資による援助のみを行っているようである。生産地に

おけるセンター施設は農民グループが、又、消費地における貯蔵施設、販売のための施設は小売業者の組織するグループがそれぞれ建設し、運営することが原則である。

これらが原因になっていると思われるが、プロコンブラは1976年から計画されているにもかかわらず、ようやく緒につこうとしている段階にある。

現在、日本が協力して計画作りを行っているモデル集出荷システムは異なった視点からのものとされているが、考え方によってはプロコンブラの一部となり得る性質のものであり、もし、日本の協力でモデル集出荷システムが導入され、的確に機能することが立証されるならば、パイロット事業として全国的に波及するきっかけともなり、ペルー国のプロコンブラの実態にも少なからず役立つものと思われる。

(3) 行政機構

(i) 農業食糧企画室

- a. 農業政策の作成に関し、大臣を補佐する。
- b. 省及び関係下部機関の予算割当並びに予算の執行評価
- c. 国際技術経済協力の計画、調整、評価を行う。

(ii) 広報総室

農作物の流通に関しては

- a. リマ首都圏の卸売市場における農産物の入荷量及び卸売価格等の情報収集
- b. ラジオ局、新聞社へ市況情報の提供
(この市況情報は内容的にあまり意味がなく、農家も存在を知らない)

(iii) 流通総局

- a. 野菜の流通に関する企画立案
- b. 地方農政局を通じ作付面積の調査、及び作付面積の指示
- c. 野菜流通量の把握

(iv) 地方農政局

- a. 農業銀行から農民への融資のあっせん
- b. 農家に対する栽培技術等についての普及活動
- c. 農家作付面積の調査、作付面積の指示

(委員、予算不足のため、あまり行政サービスは行なわれていないようである)

(v) 食糧価格調整委員会

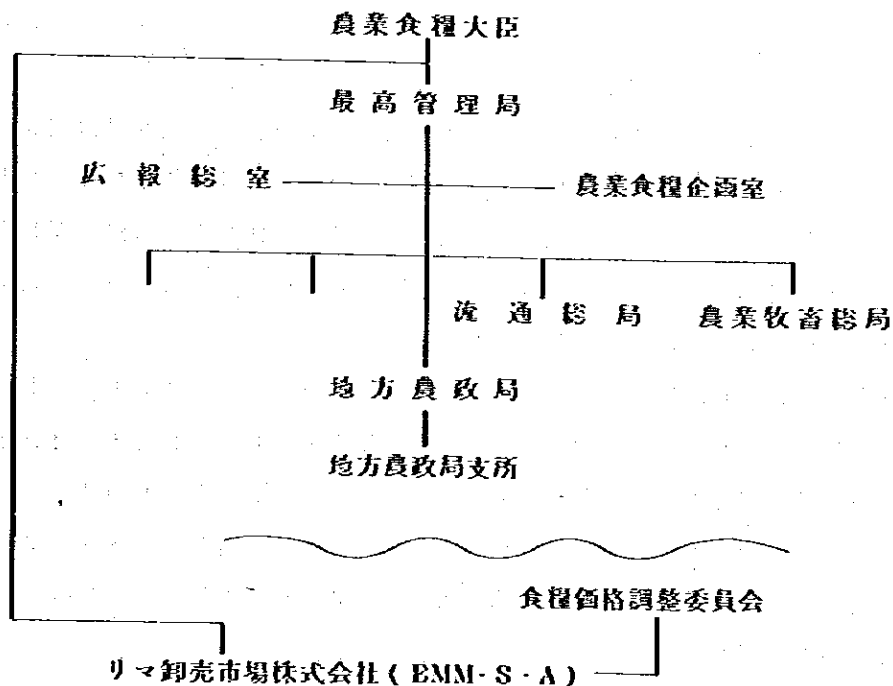
(業務) 食糧農産物の市場入荷量、生産コスト、及び実勢卸売価格等を勘案して卸売、小売別販売指示価格を決定、週に1回公表する。

(構成) 委員会は第5農政局職員を委員長とし、流通総局、リマ県庁、カヤオ県庁、リマ市役所の職員及び農家の代表等により構成されている。

(対象作物) 以前は32品目であったが現在は、にんじん、かぼちゃ、いも類、たまねぎ等7品目で、徐々に少なくなる方向にある。

(実態) ここで決定される野菜の指示価格は多分に人気とり政策的な性格をもち、取引実態は指示価格の不履行が黙認されているとの評もある。

野菜流通に関する行政機構図



5. 外国の協力

流通に関する協力は、プロコンブラに関するスペインの協力(前述)を除いては、FAOによるジャガイモの貯蔵に関するものが1件ある。

(1) 協力の背景

ペルー国はジャガイモの原産地であるが、種イモ及び収穫後のイモの保管状況が良くないためロスが多く、それを改善するためFAOに協力要請したものである。

(2) 協力内容

(イ) 期間 1981年5月～1983年5月の2年間

(ロ) 目的

産地での保管方法が、各戸で天目の下で行われているものを簡易な貯蔵施設に収容することにより、良品質な種イモの確保及び食用イモの出荷時期の調整を行う。

(イ) 専門家の陣容

- オランダ人専門家(ジャガイモ貯蔵) 1名
- カウンターパート(流通総局) 1名
- セクレタリー 3名

(ロ) FAOの協力内容

- 計画の作成, 設計図作成及び建築材料費の補助
- 無償供与 \$335,000-

6. 問題点の整理及び改善策に関する勧告

この点が当面の最大の課題である。これまでに見てきたように, また別添付属資料あるいは累次レポートの資料にもみられるように, 各方面の部分的資料は既にかなりのものとなっている。しかしながら, それらが現地関係者の間で統一的な問題意識の下に必ずしも総合的に収集整理されていない点もあって, 相当な努力が払われている割には十分な成果をあげるまでにはいたっていない, というのが現状である。

今後の対応策については, 「今後の展望と課題」のところで詳述するのでここでは深く触れないが, 合目的な問題点の整理とその上立った改善策(それが複数であれば比較優位の検討, あるいは一定の条件が必要であればその条件とその条件が満たされうる可能性といった検討を含む)の検討が, 関係者の十分な協調の上に, 早急になされることがとくに重要である。モデル集出荷システムの検討も, 当然のことながらこれらの検討の延長線上でなされなければならないからである。

なお, これら課題への接近方法に関し, 本チームがペルーに滞在中現地関係者との間でモデル的に一案を検討したので別添した。

(別添付属資料-14)

Ⅲ モデル集出荷システム事業計画作成作業進捗状況

このプロジェクトには、現在4名の専門家が派遣されているがリーダーが派遣されたのが昭和56年9月であり、現在の陣容がそろったのが昭和57年1月である等月日がたっていないこと、また、本野菜流通改善プロジェクトは他の農業技術協力プロジェクトと異なり、流通という協力経験の浅い分野であり、また計画作りのプロジェクトのためソフト面のウエイトが大きく、言葉の問題が大きな障害となっていること等により、プロジェクトの進捗状況は遅延しているように見受けられた。現状は次のとおりである。

1. 対象地域

集出荷センター設置候補地としては、カヤオ、ウワラル、カニエーテ、アレキエバ等が考えられてきたが、リマからの距離、栽培されている野菜の種類、量、農家の意欲等を勘案し、第1候補としてウワラルを、第2候補としてカニエーテを選定し、現地調査等が進められていた。

集出荷センターの運営に当たっては農民が運営経費を負担せねばならないことから、対象地区の選定理由として一番重視した事項は、農民の意欲と資質であるとのことであった。

2. 対象品目

リマ首都圏への野菜の入荷量は1976年の数字では419039トンであるが、このうち77%を占める重要野菜が次の10品目である。

1. タマネギ	254トン	6. キャベツ・カリフラワー	100
2. ジャガイモ	-	7. ニンジン	97
3. トマト	130	8. レタス	36
4. トウモロコシ	128	9. ニンニク	23
5. カボチャ	101	10. トウガラシ	15

もし、モデル集出荷センターが機能し得る見通しが立ち、それをウワラル地区に設置するとすれば、品ぞろえ、集出荷等がし易いこと、生産量がある程度あること等を勘案し、次の4品目をプロジェクト発足時の対象作物として候補に上げている。

- ① ジャガイモ
- ② タマネギ
- ③ ニンジン
- ④ トマト

3. 施 設

下記①、②について、別案のような1つの考え方もできてはいる。

- ① モデル集出荷センター 1カ所
- ② 簡易集出荷場 3カ所

しかし、重要なことは、これらの施設が他の流通システムと競争して十分に機能してゆけるかどうか、あるいはそのための条件等について、可能な限り検討を深めてゆくことである。

モデル集出荷センター設置実験事業構想図(試案)

モデル集出荷センター試案図(1)

場所 ワラル農協連合会

対象面積 1000ha, 対象農家数 285戸, 対象野菜数量 12200トン, 加工用 1300トン

集出荷場面積(野菜加工施設も含む) $70m \times 100m = 7500m^2$, 1日当り処理量 100トン

(1) 選果ライン 3セット

● 人員 15~20人

● 能力 1日当り100トン
1棟当り

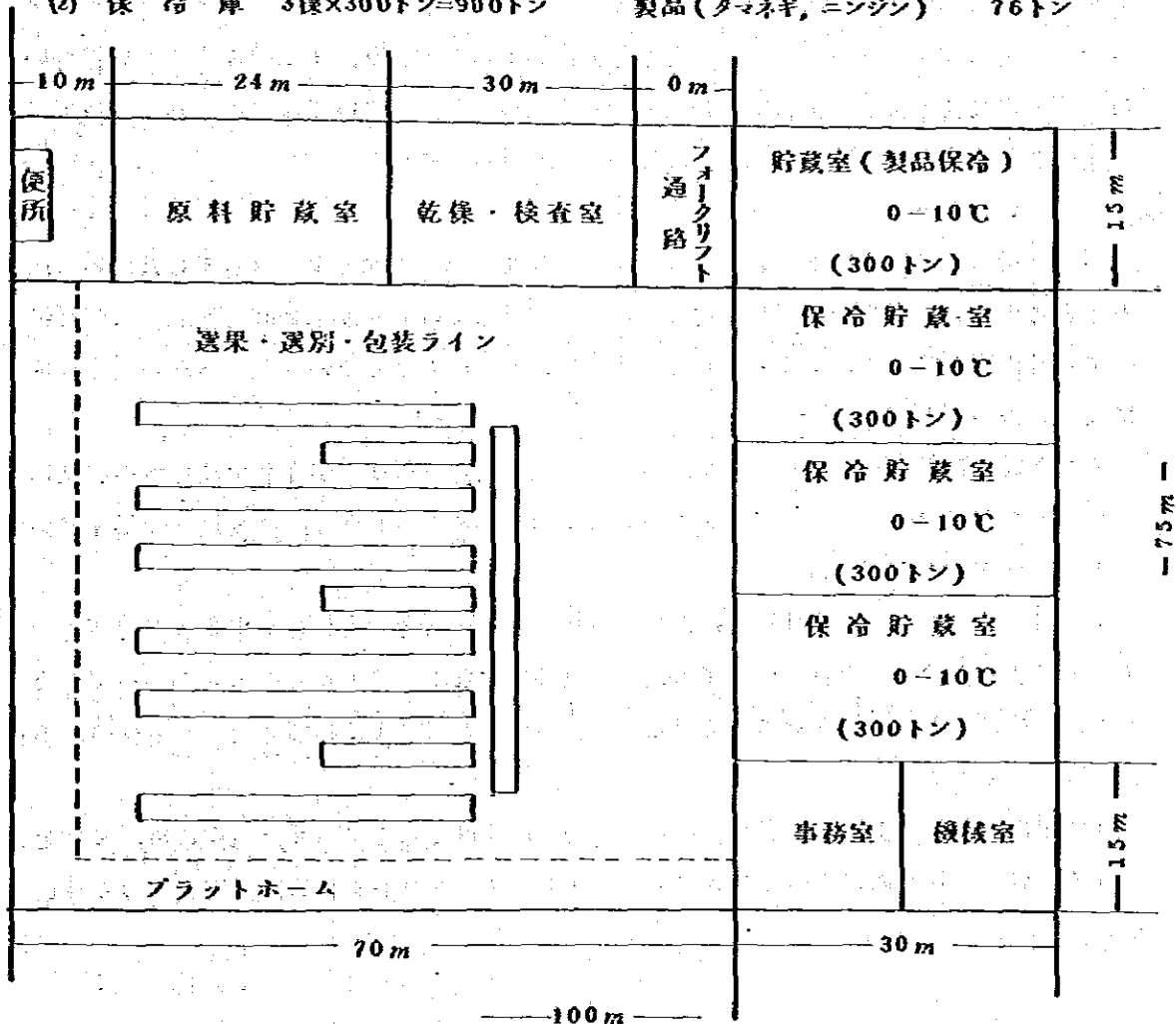
(2) 保冷库 3棟 $\times 300$ トン = 900トン

(3) 乾燥野菜施設

巾 長さ 高さ
建物 $15m \times 30m \times 35m = 450m^2$

原料処理量年間 1300トン

製品(タマネギ, ニンジン) 76トン



上記の他単独に建設計画中の施設

(4) 簡易集出荷場 3カ所
 $30m \times 40m = 1200m^2$

(5) ビニールハウス(パイプ式) 3棟
間口45m 奥行44mのパイプハウス
栽培品目 トマト, ビーマン, キュウリ

Ⅳ 合同委員会の開催

4月20日(火)午前10時より農業省会議室において、リカルドフォルト委員長(流通総局長)をはじめとするペルー側関係者と日本人専門家、大使館、JICA及び本巡回指導チーム団員の出席のもとに本プロジェクトに関する第1回の合同委員会が開催された。

議題および出席者名は別紙のとおりであるが、プロジェクトの進捗について現状報告があった後今後の運営について種々協議されたがその概要を要約すると次のとおりである。

(1) 日本側からの意見

資料は70%程度集まっておりこれから解析が行われ詳細な検討が必要であるが、これから作成される計画はペルー政府の計画であり、ペルー側が中心となり現在のプロジェクトディレクターとカウンターパートがもっと主体的に動くべきであり、また建物の建設費については日本側の技術協力システムでは対象外であるため、これについてはペルー側で手当てするというところで実施できる計画としてほしい旨の意見が出された。

(2) ペルー側の意見

ペルー国としては本プロジェクトはペルーの流通改善の糸口となる極めて意義深い計画であると考えており省内の限られた定員の内で苦慮はしているがカウンターパートの配置については計画に支障がないよう努力している。特に当初は十分でない点があったが現在は徐々に改善しつつある。

また今後の作業を進めて行く上で、ペルー側にも問題があったが今までは資料の収集に終始してただけで内容についてはよく熟知していない面があるため、今後解析の結果についてもっと教えてもらいたい。

集出荷センターについては運営は政府が直接行うことは考えておらず生産者が行うものであると思うし、建物建設費についても政府には予算はなく、日本からの援助が期待できないとなれば生産者側の負担とせざるを得ない、従って生産者によく理解させ、やる気のある農協を選ぶ必要がある。

今後生産者側の調査と消費者(販売)側の調査に分けて考えていき、現在の専門家はそれぞれの分野で優れた人達なので良きアドバイスを得て、8月頃を目途に計画の概要を作成したいと思う。

ペルー野菜流通改善計画合同委員会

REUNION DE LA COMISION MIXTA PARA EL PROYECTO: "MEJORAMIENTO DE LA PRODUCCION Y COMERCIALIZACION DE HORTALILIAS EN EL PERU"

(Convênio: Gobierno Peruano - Gobierno japonés)

Lima, 20 de Abril, 1982

リカルド・フォルト委員長あいさつ

1. Presentacion por Ing. Ricardo Fort Larco, Director General de Agroindustria y Comercializacion.

三井リーダーあいさつ

2. Palabras del Ing. Yoshihiro Hitsui, Lider del Equipo Tecnico del Proyecto.

本橋団長あいさつ

3. Presentacion del Jefe de la Mision de Evaluacion, Eco. Kaoru Motohashi.

議題

4. AGENDA.

実施した調査について

- 4.1 Evaluacion de las Investigaciones realizadas.

集出荷センター構想について

- 4.2 Centro de Acopio: Reconocimiento de su necesidad.

ペルー側予算について

- 4.3 Presupuesto de la Parte Peruana.

プロコンブラ計画の概要について

- 4.4 Informacion General de PROCOMPRA.

供与機材の保管・管理について

- 4.5 Almacenamiento y custodia de materiales y equipos donados por el Gobierno del Japon.

今後の作業計画

- 4.6 Programa de Trabajo para el cumplimiento del Proyecto durante 1982-83.

その他

- 4.7 Otros:

ペルー側の要望

- Sugerencias y/o requerimientos de parte del Gobierno Peruano.

日本側の要望

- Opinion o sugerencias de la Mision Japonesa.

**MIEMBROS DE LA COMISION MIXTA PARA EL PROYECTO: "MEJORAMIENTO DE LA
PRODUCCION Y COMERCIALIZACION DE HORTALIZAS EN EL PERU"
(CONVENIO: GOBIERNO PERUANO -- GOBIERNO JAPONES)**

CONTRAPARTE PERUANA

1. Ing. Ricardo Fort Larco
Director General de Agroindustria y Comercializacion
2. Ing. Orestes Gil Najarro
Jefe del Proyecto
3. Ing. Eduardo Lago Bombaren
Director de la Region Agraria VI-Lima
4. Ing. Gonzalo Silva Santisteban
Director de la Oficina de Desarrollo Agroindustrial - OSPA

OBSERVADORES

5. Eco. Julio Chavez Jaranillo
Director de la Oficina de Programacion
6. Ing. Leoncio Carranza Orbegoso
Especialista de la Oficina de Programacion
7. Ing. Arturo Soto Toledo
Especialista de la Direccion de Productos Agricolas

CONTRAPARTE JAPONESA

Equipo Tecnico del Proyecto:

1. Ing. Yoshihiro Mitsui
2. Ing. Tetsuya Tamaki
3. Ing. Kenji Katsumata
4. Lic. Kenji Ikuno

OBSERVADORES

5. Eco. Kaoru Motohashi
6. Ing. Hisashi Shinohara
7. Ing. Moriaki Taniguchi
8. Ing. Kazuo Ashizawa
9. Ing. Suguru Aoyama
10. Lic. Tatsuo Atsui
(Embajada del Japon)
11. Lic. Takehisa Hirabayashi
(JICA)

INTERPRETE

Sra. Chieko Noguchi

V 今後の展望と課題

1. 当面の問題点

- (1) 本協力は、我が国にとって協力が浅い流通分野における計画作成に関する協力であること等から、現地の作業進捗状況を十分見極めつつ、将来の対応振りについて検討していく必要がある。
- (2) いうまでもなく流通問題は、農民、産地仲買人、卸売商人、仲卸商人、小売人、消費者等の利害が複雑に絡み合っており、またすぐれて対象国の風土と深いかかわりをもつものである。こうした意味で本協力もできる限り「ベ」国の政府関係担当者が中心となり、日本側は、それを支援する形の協力を行うことが望ましい。しかし、現時点では日本側専門家とベルー国関係者相互の意志疎通がなお十分でない面がみられる。
- (3) プロジェクト進捗状況をR/Dにそって見てみよう。
 - (1) リマ県における野菜流通の現状調査及び分析と問題点の整理・資料の収集は、ある程度の進展が見られるが、体系的な計画に基づいた資料の収集、分析、整理がなお十分なされていない。
 - (2) 問題点の整理及び改善策に関する勧告
R/Dの(1)の作業が不十分なため、まだ「ベ」国に対する具体的な問題点の整理及び改善策に関する勧告はなされていない。
 - (3) モデル集出荷システムの事業計画の作成
流通改善に関する全体構想がなく集出荷施設の物的計画の検討のみが先行しているきらいがある。集出荷センターについて考えるならば、集出荷センターの機能、その効果と費用、それが「ベ」国において適確に作動しうるか、他の流通システムに対し競争力をもちうるか、もしそのために必要とされる条件があればそれは何か、その実現可能性はどうか、といった検討が重要である。換言すれば、この国の全体の流通合理化システムの中での本プロジェクトないし集出荷センターの位置付け等につき早急に検討を深める必要があるということである。
 - (4) ベルー国カウンターパートの配置については、これまで不十分な面もあったが、一応の配置はなされている。今後、配置の充実を期待しつつも、日本人専門家がベルー国カウンターパートと意志疎通を十分に行いながら作業を進めることが必要である。
受入研修の効果は高いように見受けられた。
 - (5) 本協力の趣旨が対象地域の農民等へ必ずしも正確に伝わっていない感みも見受けられた。
- (3)の(1)(2)(3)の作業を早急に進め、それらとの関連で、関係農協等に対して「ベ」国政府関係者を通じ、本プロジェクトの趣旨を十分に理解してもらい必要がある。

2 今後の課題

- (1) 本プロジェクトの実施主体は本来「ベ」国であるとの立場に留意しつつ、「ベ」側関係者と十分な意思疎通を行い、流通合理化の構想、さらにはあり得べき協力構想作成等の作業を進める必要がある。
- (2) 難しい側面を有する本プロジェクトの性格にかんがみ、協力成果をあげるため、現地の活動を中心としつつも国内でも協力作業の所要の支援を強め、また、必要に応じ短期専門家の派遣により作業を補完することも肝要かと思われる。
- (3) 上記の観点から、国内的には支援委員会を作り、現地を支援することも一案であろう。

附 属 资 料

資料-1 リマ第一中央卸売市場概要

1981年12月31日現在

1. 業務開始 1970年4月

塊根類、野菜類、レモン、その他穀物類の卸売市場としたもので、1940年まで集出荷が行われていた所で、1969年より1970年に改築したものである。

2. 位置 当市場はリマ県ビクトリヤ地区に位置し、アピアシオン、サンボルオ、パウサテ、メサの道路に面し南側には「2月3日」の名称で呼ばれる小売市場と隣接している。

3. 施設
- (1) 敷地面積 36,200 m^2
 - (2) 建築物延面積 16,720 m^2
 - (3) 通路面積 19,480 m^2
 - (4) 主要施設の内容

① 店舗数	各店舗面積	計	棟数	計
500店	168 m^2	8,400 m^2	10棟	6,077.50 m^2
120 "	118 m^2	1,416 m^2	10 "	3,867.50 m^2
100 "	264 m^2	2,640 m^2	2 "	1,859.00 m^2
24 "	185 m^2	444 m^2	2 "	1,183.00 m^2
744店舗		12,900 m^2	24棟	12,987.00 m^2

② サービス部門建築物

倉庫	1,920 m^2	銀行	150 m^2
衛生サービス	480 m^2	喫茶	280 m^2
塵埃収集場所	288 m^2	管理事務所	390 m^2
運搬具倉庫	312 m^2	計	3,820 m^2

③ 施設サービスについて

- A. 車輛計量機は4箇所各1基あり現在2基だけ使用している。
- B. 保管 保管料は前払いで余剰品を保管できる。
- C. 店舗の提供（用間使用料）

1981年	A = 25 m^2	A = S/6,300	1ヶ月	} + 727 ϕ	1982年 S/11,225
	B = 17 m^2	B = 4,450	"		7,340
	C = 11 m^2	C = 2,800	"		4,950

1981年より各店舗との契約は5ヶ年毎に更新されている

- D. トイレ及びシャワーの施設
- E. 商業銀行, 国立銀行, 民間銀行は市場に店舗を設置しており卸売業者及びその他の人々にも銀行取引が行なわれている。
- F. カフェテリア(喫茶)年中無休
- G. 荷上入夫 主に車輛からの荷おろしをする仕事で40多組合組織でグループで働き, その他は小売業者の品物を市場外に運ぶ仕事をする。
- H. 荷車引き 主に市場外にヤレティヤー(一輪車)で運び出す仕事である。
- I. 三輪車引き 約80人程で連合グループを作り, 仕事は車引きと同じである。
- J. 清掃 ゴミ収集場へゴミの運搬, 市場内の清掃と洗浄
- K. 照明 店舗及び市場内通路の照明
- L. 保安 交替制で企業の従業員が当り施設の安全及び流通統制を行なう。

4. 市場営業

荷受時間	16:00 ~ 03:00
準備時間	03:00 ~ 04:00
商業時間	04:00 ~ 12:00
清掃時間	12:00 ~ 16:00

5. 管理事務所

卸売市場の管理については当初EPSA(農牧供給公舎)が管理運営をしていたが, 1980年以來EMMSA(卸売市場会社)に運営が委任され, 新しい市役所組織法により現在リマ卸売市場の管理を担当することになった。

6. リマ加工食糧品価格調整委員会の規則(JURPAL)

市場入荷量, 生産コスト, 生産者価格, 実勢卸売価格等を勘案してリマ・カヤオ地区の卸・小売別の販売指示価格を調整決定し, これを公表する。

構成員, 委員長	農業省第5農政局	1名	委員	市場サービス公社(SENAMBR)	
委員	リマ市役所	1名	・	農家生産者代表	
・	リマ県庁	1名	・	産業観光通商扶合省	1名
・	農業省農産加工流通総局	1名	以上8名で構成されている。		

7. 年間取扱数量及び取扱額 (1981年)

数量 81985トン

金額約 73億2471オソールレス (35億1586円)

1日当り入荷量 約3490トン (リマ全消費量の約70%)

8. リマ、首都圏の小売市場設置状況

市営	区営	組合経営	私営	その他	計
11	69	61	143	2	286

9. リマ中央卸売市場第1市場の卸売人について

1981年より1985年の5ヶ年間にリマ中央卸売市場第1市場との契約をした卸売人店舗数及び取扱品目別卸売人店舗数

- ① A店舗 = $25m^2 = 1$ ヶ月賃借料 $S/6500 + 72.7\% = S/11225 = 104$ 店舗
 B店舗 = $17m^2 = 1$ ヶ月賃借料 $S/4450 + 72.7\% = 7340 = 550$ 店舗
 C店舗 = $15m^2 = 1$ ヶ月賃借料 $S/2800 + 72.7\% = 4950 = 87$ 店舗
 計 741 店舗

② 野菜 (葉茎類) 278 店舗 (キャベツを含む)

キャベツ	1 店舗
トウガラシ	14 店舗
塊根類	14 店舗
カリフラワー	19 店舗
青豆類	85 店舗
乾燥豆類	5 店舗
ユカ	17 店舗
トマト	79 店舗
カボチャ	51 店舗
玉ネギ	90 店舗
レモン	62 店舗
未成熟トウモロコシ	26 店舗

は取扱金額は大きい

計 741 店舗 741 業考

出所 リマ中央卸売市場

744 店舗

資料-2 リマ第一中央卸売市場の構造と活動

この報告はリマ卸売市場において農業生産者と共に活動している市場卸売業の構造、組織、関係を卸売業者に重点をおきながら調査したものである。

A. 調査の目的と成果

1. 卸売市場における生産物流通に関する完全な認識を得ること。当市場で活動する卸売業者の構造、組織に関することである。
2. 卸売りと小売りの間に存在する流通関係を知ること。
3. 卸売市場内での流通機構の改善の可能性について卸売業者より聞きとり調査をすること。

これらの目的を達成するため、調査は次の点に関する資料を得ることとした。

- ① 卸売業者の一般的特徴
- ② 卸売市場における売買形態
- ③ 卸売業者の供給方法
- ④ 卸売市場で行なわれる流通業務
- ⑤ 商業活動のための資金調達方法
- ⑥ 市場で活動する卸売業者間の団結程度
- ⑦ 価格決定について 等である。

当調査にあたっては農業省流通事務局よりの資料、卸売市場管理事務所（EMMSA）職員、カウンターパート、等の協力を得ると共に生野調整員、及びリマ、カトレク大学森本教授の御援助により聞きとり調査をしたものである。

B. 卸売市場の概要と働き

1. 当市場は1970年4月に“La parada”と呼ばれる食料品の販売場所を改善することによって開設された。これは塊茎、野菜、レモン、穀物の卸売市場として活動している。場所の改善は1969年から1970年の間に行なわれた。

2. 場 所

第一卸売市場はリマ県ビクトリア区にあり、アビシオン、サン・パブロ、パウサテ、メサの各通りと面しており、南側は「トレス・デ・フェブレロ」小売市場と接している。

3. 店舗数 744 店舗 現在営業店舗数 741 店舗

その741店舗の生産物によると次の様な配分になっていた。

塊 茎	219	からし	14	ユカ	17	合計 741店舗
トマト	79	チョコロ	26	緑葉の野菜	73	
緑の豆	85	ニンニク, 玉ねぎ	90	キャツ, カリフラワー	20	
カボチャ	51	乾 燻 豆	5	レモン	62	

4. 流通生産物

塊茎, 野菜, レモン, 穀物

面積と配置は第一卸売市場は36200m²の土地を占め次の様な配置になっている。

取引用地	12900m ²
業務用地	3820m ²
流通用地	19480m ²
全用地	36200m ²

この市場は次のような広さをもつ店舗を全部で744店かかえている。

店舗	面積1店舗	計
500	168m ²	8400m ²
120	118m ²	1416m ²
100	264m ²	2640m ²
24	185m ²	444m ²
744		12900m ²

取引場所の面積は次の通りである。

palellon	場 所	計m ²
10	7150 X 850	6,077.50
10	4550 X 850	3,867.50
2	7150 X 1300	1,859.00
2	4550 X 1300	1,183.00
24		12,987.00

業務部はアピアシオン, サン・パブロの通りに当たるところを占めており, 2階建てになっており, 階下は次の通りになっている。

倉庫 20棟	1920m ²	銀行	150m ²
便所 5カ所	480m ²	喫茶店	280m ²
ごみ集積所	288m ²	事務所	390m ²
仲仕, 荷車入詰所	312m ²		

中央の建物の上階はEMMSAの管理事務所が占めている。流通部は横15、縦3の道路があり、それらの道路は6m～11mの巾のちがいがある。生産物搬入のための出入口2つはサン・パブロ通りに面しており、搬出のための出口2つはアビシオン通りに面している。これら4つの出入口にはトラックの計量用のはかりが設けられている。その上、バイヤーの出入りのために使われる側面の3つのドアが開く。出入りのドアは常にEMMSAの職員によってコントロールされている。

5. 業 務

卸売市場は次の時間表に合わせて1週7日休みなしに活動している。

- a. 産物の受入れ 16:00～03:00
- b. 産物の準備 03:00～04:00
- c. 産物の取引 04:00～12:00
- d. 市場の清掃 12:00～16:00

生産物の受け入れは、各該当コントロール所で計量をうけ産地、生産物、風袋ごみ重量などをとどけてトラックが入場することによって行なわれる。トラックは卸売業者の店舗へ荷下ろしするだけの時間は充分にある。トラックの荷台から自由に販売をすることを許可されているものは別である。

販売のための産物の準備は卸売業者の店舗に販売のために商品を並べることである。

午前4時にバイヤーの為に市場のドアがあげられる。そしてバイヤーは取引を行ない、市場内にいる荷車人を使って生産物を持ち出す。この作業は12時迄行なうことができ、その時刻以後は市場の清掃が行われる。店舗の清掃は業者自身が行ない、その他の施設では委託業者が通路の洗浄やゴミの掃除を行なう。

卸売市場では現在741の卸売業者が活動している。トラックの荷の積下ろしをやる仲買店舗から場外へ生産物を運ぶ荷車人がそれぞれ働いている。

6. EMMSA (EMPRESA DE MERCADOS MAYORISTAS SOCIEDAD

ANONIMA) (卸売市場有限会社)の名称である。EMMSAの目的は次の通りである。

- a. 卸売市場を組織し卸売販売が順調に行くようにという目的で定められた規程にあわせて、市場内で農作物の流通をコントロールすること。
- b. 農業省並びに関係機関が指示する食用農産物の流通を容易にするのが目的の卸売市場を管理すること。
- c. その目的を一番うまく達成するのに必要な卸売市場を計画、提案、組織すること等である。

リマ中央卸売市場における卸売業者の全般的な特徴

1. 卸売業者と供給者の関係

a. 供給形態

(1) どの様に供給されるか

第一中央卸売市場においては野菜、塊茎、レモン、乾大豆が取引され、卸売業者は次の二通りの供給をうける。

- ① 生産物代金を支払って現物を購入する。
- ② 委託販売をする。

すなわち所有者から生産物を受取り、売れたとき手数料を引いて金銭を送る。同時に農民でもある卸売業者には委託販売の形式をとる。

表1. 品目別支払い方法と供給形態による量の配分

生産物	現金払い供給形態	委託販売供給形態
塊茎	750%	250%
トマト	270	730
野菜	575	425
かぼちゃ	750	250
チョコクロ	1000	—
にんにく—玉ネギ	711	289
乾大豆	1000	—
キャベツ, カリフラワー	500	500
ユカ	1000	—
レモン	33	966

この表でチョコクロ、ユカについて業者はそれを買うことによって供給をうけている。塊茎、かぼちゃ、にんにく、玉ネギの供給形態も買取りである。野菜キャベツでは特定の供給形態はなく、現金買いも委託販売も同じ位である。トマト、レモンは委託販売である。品目別に特徴が見られるが、これにはもちろん仲介業者の取引慣習や、伝統的供給地の現在まで比較的安定していた条件などが影響している。

(2) 卸売業者について

卸売市場の卸売人は色々な中間業者による供給をうけている。その中間業者とは、生産者、仲買人、他の卸売業者、その他の業者(卸売業者からコミッションをとって買付

をする業者)らである。

次の表は卸売業者が市場で取引される産物をどこから入手するかで表わしたものである。卸売業者に対する主な供給者は生産者自身であることが解る。というのは生産物の主なもの(塊茎、トマト、野菜、カボチャ、チョクロ)においてその大半は農民との直接的接触からきているからである。レモンの場合、たとえ卸売業者への主な供給者が生産者であることが確かであっても、一部の卸売業者は他の商人から生産物を入手していると考えられる。ユカとキャベツ、カリフラワーの業者は生産者と買付業者という二者から供給をうけている。乾燥穀物については業者は他の卸売業者から買っているものであって、生産者からは直接生産物を受けとっていない。

その上、カボチャ、にんにく、玉ネギ、塊茎においては少数ながら産地から生産物を持ち込む他の卸売業者から入手している。

表2 卸売業者が市場で取引される生産物入手先を表わしたもの 源は買付業者

品 目	生 産 者	産地仲買人	卸 売 業 者	そ の 他
塊 茎	97.5%	—	2.5%	—
ト マ ト	100.0%	—	—	—
野 菜	93.7%	6.3%	—	—
ち ぼ ち ゃ	91.5%	—	8.4%	—
チ ョ ク ロ	100.0%	—	—	—
に ん に く	83.0%	—	—	16.7%
乾 燥 穀 物	—	—	100.0%	—
ユ カ	50.0%	—	—	50.0%※
キャベツ、カリフラワー	50.0%	—	—	50.0%※
レ モ ン	83.3%	—	—	16.6%※

野菜においては、少量は生産者の農場から産物を集める産地仲買人から入手している。この場合の卸売業者と産地仲買人のちがいは、卸売業者の方が大量に買うことである。(少なくともトラック1台分を産地で、生産者からであろうと、産地仲買人からであろうと買取る)。一方、産地仲買人は(1袋又は1籠までの)少量の買付をやり、それを市場に持ち込んでくる。

卸売業者は主として、生産物をリマ県以外(アレキッパ、イカ、フニン)から産物を買出し、産地仲買人はリマ、カヤオ地区から野菜を買う。

得られた結果から、たとえ生産物のレベルでは(市場外では生産者—買付業者—中間

業者（卸売業者、市場内卸売業者）という。取引業者の多様さがみられても、取引量の大半は直接生産者から市場の卸売業者にきていることを示している。他方たとえ直接経路が生産者－市場の卸売業者ということが確かであっても、この経路は次の様な方式をとるのである。

- a. 卸売業者が生産地へ買付に行く。
- b. 生産者が市場へ生産物をもってくる。
- c. 生産者が直接委託して生産物を送ってくる。

卸売市場の組織自身がこの供給システムを許してきた。それは生産者あるいは他の業者が特定の時にどこへ生産物を出せばいいか知っているからである。

塊茎において、生産物を買う卸売業者は生産地へ出かける。そしてその他のものは委託し生産物を自分の倉庫で受取る。卸売業者の店舗に生産物を運ぶ人は運送業者である。トマトにおいては生産者が生産物を売りに市場までくる。併し、その大半の量は委託によるのである。

野菜においては、卸売業者は生産地へ買いに行く場合もあるし、市場の周辺で買う場合もある。委託によって市場までくる生産物はかなりの量である。かぼちゃにおいては、そのほとんど全部を生産地で買い、委託販売する人は時には自分で直接運んだり、また時には市場で生産物をうけとったりする。これは生産地が近い（リマ、カヤオ）ことからみて可能である。

チヨクロ、ユカにおいては、商人は全員生産地で生産物を買っている。

にんにく、玉ネギにおいては、生産者が生産物を売りに市場に来る。相当量の買付が市場の周辺で行なわれる。

キャベツ、カリフラワーを扱う商人は生産地で買い乾燥穀物業者は市場の周辺で買うのが他の卸売業者から買うのである。レモンの業者は中間業者を通じて主として委託販売する。

以上から、塊茎、カボチャ、チヨクロ、ユカ、キャベツ、カリフラワーでは産物を求めに生産地へ行くのは卸売業者であり、トマト、にんにく、玉ネギの場合は生産者が市場に来ることがわかる。

野菜（緑の豆類、緑葉の野菜）においては、ときには卸売業者が生産地に出かけ、ときには生産者が生産物をもってやって来る（レモンでは卸売業者は中間業者から生産物を受取る）。

b. 購入頻度

卸売業者は毎日か隔日に購入を行なうことが多い。したがって、週一回供給をうける乾

大豆の業者を除いて市場のほぼ全部の卸売業者がこの購入方式によっていると考えられる。

他方生産物が大変いたみやすく、そのため毎日販売分だけ見積って購入しているところを見て毎日卸売業者が購入を行なうと解釈することができる。大抵の場合、生産物の運ばれる距離は50~250キロメートルで産地から2-10時間を要する。

c. 支払方法

中央卸売市場の卸売業者は、いろんな形で生産物の支払を行なっている。すなわち、現金払い、後払い、先払い、あるいは融資などであるが、一番よく行なわれる方式は現金払いである。

表1に見られる通り、生産物の最大量が卸売業者によって、現金払いで取得されている。併し、他の支払方法もあり、乾燥豆、ユカ、カボチャ、トマトを取扱う卸売業者は後払いを行なっている。

先払いの行なわれる塊茎、トマト、チヨクロは明らかに生産物の供給を確保させており、チヨクロにおいては一番よくみられる。融資は塊茎、トマトでも行われるが一番多いのはチヨクロ、キャベツ、カリフラワーである。

現金払い以外の、支払方法は業者グループと供給者の間に特別な関係のあることを示している。先払いや融資を行なう卸売業者にとって、上述の供給者との関係が取引により、大きな力を維持させてくれるものであり、農民との交友を促進、強化すると同時に農民が金銭を必要とするときには援助を申し出ることにもできる。後払い方法は、この場合、一番相手を信頼しているのは生産者の方である。なぜなら卸売業者にサービスを常駐しているからであると思われる。

塊茎、トマト、チヨクロ、キャベツ、カリフラワーの取得において卸売業者の一部は生産者に対して、大きな取引を行ない、価格や品質を指示指導し無理なおしつけを行なうこともある。

トマト、カボチャ、乾燥豆、ユカ、レモンの卸売業者のある者は購入する生産物に対して、後払いという利点を生産者から得ている。

d. 供給者との高関係

卸売業者が供給者との間には公式、非公式の関係があり、公式関係とは口頭または、文書によるかを問わず契約を通し行われるものであり、非公式関係とは、なんらの契約もなく、売値に合わせて供給者から生産物を買うことを云う。以上の定義のもとに、第一市場の卸売業者は供給者と公式関係を進んで維持している。又公式関係をもっている人の大半は口頭での契約を行ない、塊茎、トマト、野菜、玉ネギ、にんにく、ユカにおいて、

そうである。キャベツ、カリフラワーとレモンの場合は口頭でも文書でも行なわれる。そしてチョコロ、乾燥豆類の場合は文書での契約の方が主である。口頭での契約をする卸売業者は生産者に大きな信頼感をもっている人であり、文書で契約する人は、あまり信用していないか、生産者に前金を貸している卸売業者であるとみなすことができる。したがって、トマト、野菜、塊茎の業者は生産者を大いに信用している人等だと言える。

表3. 卸売業者と供給者との関係

卸売業者	公式関係	非公式関係
塊 茎	664	336
ト マ ト	875	125
野 菜	750	250
か ぼ ち ゃ	830	170
チ ヨ ク ロ	500	500
玉 ネ ギ	555	445
ユ カ	500	500
乾 煨 豆	1000	—
キャベツ・カリフラワー	1000	—
レ モ ン	1000	—

e. 供給者との非商業的關係

第一卸売市場の卸売業者は供給者との商的關係以外に友情とか親戚といった非商業的關係をもっている。表4はこういった関係をパーセンテージで示している。みられる通り、商人の大半は供給者中に友人をもっている。この関係は卸売業者の方からすすんで求められる。というのはそうすることによって、供給を確実なものにするからである。その上、供給者の中に肉親のいる卸売業者もあり、その事は、卸売業者が生産物の少い時期に生産者の選択をするようになる事を示す。

供給者、卸売業者間の友人関係の多いことから、これからすすめようとする流通システムを妨害することもあり得ると推察できる。というのは、つねに両者の間では友人が優先するからである。

第4表 生産物品毎の供給者・卸売業者間の非商業的關係

品目	友人	肉親	その他
	全体中の%	全体中の%	—
塊茎	905	238	—
トマト	750	250	—
野菜	625	125	—
かぼちや	500	—	—
玉ネギ・ニンニク	880	120	—
乾燥豆	1000	—	—
ユカ	500	—	—
キャベツ・カリフラワー	500	—	—
レモン	750	—	—
チョコクロ	1000	—	—

2. 卸売業者間の關係

a. 組合レベル

第一卸売市場の商人たちはその大量購入をやるための組合、組合(シンジケート)への加入に関しては、ちがった姿勢をとっている。

第5表は卸売業者のこうした形態のちがいを示している。大半の業者が大量購入のため団結をのぞんでいないことは明らかでも、卸売業者のかなりの人がたしかにこのタイプの組合を望んでいると考えられる。トマト、野菜、ニンニク、玉ネギ、レモンの卸売業者は、多くのパーセンテージの人が大量購入のために団結しようとしている。ところが、かぼちや、塊茎ではそのパーセントが下がる。一方、チョコクロ、乾燥豆、ユカ、キャベツ、カリフラワーでは零である。他方、業者の大半はシンジケートの会員である。

第5表 シンジケートの加入業者と大量購入のための団結をのぞむ人のパーセンテージ

品目	シンジケート加入%	団結希望%
塊茎	714	286
トマト	1000	500
野菜	870	500
かぼちや	330	330
チョコクロ	—	—
にんにく・玉ネギ	440	560

品 目	シンジケート加入%	団結希望%
乾 燥 豆	1000	-
ユ カ	1000	-
レ モ ン	660	500
キャベツ・カリフラワー	500	-

かぼちゃ、チョコロ、にんにく、玉ネギの場合二つの特徴（シンジケートに所属することと団結希望において多かれ少かれ同じような関係があるが、他の品目においてはちがった態度がみられる。

こうしたシンジケート所属と団結希望との間のちがった態度は理解することが出来る。それは、一方において卸売業者は市場の管理部に対し、あるいは規制機関に対し、自分たちの権利を守り、要求を実現するためにシンジケートにおいて団結し、一方、他方、卸売業者は大量購入のためには団結しようとしなないのは取引における独立を好むからである。

b. 卸売業者間の協調

これは、卸売業者間で市場内で生産物の貸借する非公式関係が存在するかどうかということである。業者の大部分がこのタイプの関係をもたないことは明らかではあるが、こうした協調を行なっている卸売業者はいくらかいる。チョコロのような産物の場合には、こうした協調がこの品目の業者の大半によって行なわれている。同じように、にんにく、玉ネギ、野菜、キャベツ、カリフラワーの業者の何%かは自分たちの内部で行なっている。

塊茎、トマト、カボチャ、レモンの場合、これらの協調は行なわれるが、パーセンテージは低くなり、乾燥豆、ユカでは行なわれない。

これ等の協調を行なう卸売業者は主として店舗への供給を維持し、顧客を失わないようにそうするのだと表明した。このことは、確実な供給をもたない卸売業者が存在し、彼らは仲間に頼らざるを得ないことを示している。

3. 卸売業者、小売業者の関係

a. 顧客

第一卸売市場で生産物を買う顧客は小売業者、行商人、セルフサービス店、他の卸売業者、および消費者（団体、レストラン、個人）である。

次の第6表は生産物の行先と生産物毎の各顧客に流れる量のパーセンテージを示している。表で見られる通り、食品市場または一定の場所に店舗をもつ小売業者はその主なものを市場で購入している。

6表 第一卸売市場で取引される商品の全体量の配分(%)

品目	小売業者	行商人	セルフサービス	個人	他の卸売業者	不明
塊 菜	840	51	58	20	28	005
ト マ ト	575	75	-	-	-	312
野 菜	660	125	15	18	18	72
か ぼ ち ゃ	450	333	15	33	33	166
チ ョ ク ロ	600	100	100	100	100	-
にんにく・玉ネギ	650	-	37	37	37	30
乾 煨 豆	700	-	-	-	-	-
ユ カ	325	75	83	230	230	280
レ モ ン	750	250	-	-	-	-
キャベツ・カリフラワー	750	250	-	-	-	-

生産物毎の結果を分析すると、塊菜の卸売業者はあらゆる代理業者に販売しているし、また同様に直接消費者に販売されるパーセンテージもある。トマトの業者は主として小売行商人、消費者に販売している。そして高パーセンテージの量が卸売業者の知らない人のところに流れて行く。それは個人消費者であるかも知れないし、行商人であるかも知れず、彼等は散発的に市場に行くか、他の人を購入しに送ったりする。

野菜卸売業者は主として小売業者、行商人、個人に販売し、わずかながら、セルフサービス業や卸売業者に流す。

かぼちゃ業者は主として小売業者、行商人に販売し、わずかながらセルフサービス、あるいは他の卸売業者に流す。

チョコロ業者はあらゆる代理業者に販売し、一方ニンニク、玉ネギ業者は行商人に販売する。

乾燥した豆の場合は小売業者と消費者に売られるだけであり、ユカの場合は小売業者とセルフサービス、同様にレモンの卸売業者は主として、他の卸売業者や知らない人に売っている。この最後の方は個人であるかも知れない。

キャベツ、カリフラワーの場合、小売業者と行商人に販売される。したがって、各品目毎にちがった姿勢がみられ、各品目毎に、多分、習慣または生産地の距離によって決まった流通経路をもっている。

他方、卸売業者は、主としてトマト、レモンのようないくつかの例外を除いて、売る相手の大部分の人を知っていると考えられる。

第一卸売市場の高人は自分のもっている顧客に関してちがった姿勢を示した。この姿

勢のちがいは生産物レベルでも、一品目を構成する業者間でもみられる。だから例えば、塊茎、野菜、ニンニク、玉ネギの場合、卸売業者の大半は固定の顧客をもたず、一方、かぼちゃ、チヨクロ、ユカの場合小売業者の半分が固定客をもち、あとの半分がもたない。トマト、レモン、キャベツ、カリフラワー、乾燥豆の場合は、業者の大半が固定客をもっている。

みられる通り、ちがった品目の卸売業者間には同じ姿勢はみられない。それは多分、各生産物はその生産物の一定の流通形態をもっているためである。

7表 次に固定客をもつ卸売業者のパーセンテージを示す

卸 売 業 者	固定客をもつパーセンテージ (%)
塊 茎	28.6
ト マ ト	75.0
野 菜	43.7
か ぼ ち ゃ	50.0
チ ヨ ク ロ	50.0
ニ ン ニ ク ・ 玉 ネ ギ	33.0
乾 燥 豆	100.0
ユ カ	50.0
キャベツ・カリフラワー	100.0
レ モ ン	67.7

b. 支払形態

第一卸売市場の卸売業者は、すすんで掛け売りをしているが、このやり方が市場での一般的販売形態のようである。そのことは卸売業者と購買者間の信頼関係を示している。

チヨクロと乾燥豆の場合だけ主に現金による販売である。

主に掛け売りする卸売業者はレモン(100%)、トマト(88%)、塊茎(85%)、かぼちゃ(83%)、野菜(68%)であり、一方、ユカ、キャベツ、カリフラワー、ニンニク、玉ネギでは掛け売りする卸売業者と現金で売る業者が実際にバランスがとれている。

c. 値 引

第一卸売市場の業者の大半は顧客が大量に買うときに値引きする。より短期間に売るか店舗内に必要以上置いて産物がいたむのを避けるため、卸売業者の方から値引きを行なう。値引きはその業者によって異なる。したがって、より大量の生産物を動かす人は他の動き

の小さな卸売業者よりも大きな値引きを行なっていると考えられる。

4. 機能と業務

a. 貯蔵

市場内でのこの機能はある品目のある卸売業者によってだけ行なわれる。次のものだけ貯蔵が行われる。

品 目	卸売業者の%
塊 茎	28.6
ト マ ト	34.5
野 菜	12.5
チ ヨ ク ロ	50.0

使用されている倉庫は主として市場が提供しているもので貯蔵用に20の倉庫からきている。倉庫を使用している商人の大半は一時的に、特に生産物が多いときに貯蔵に使っている。

卸売業者が貯蔵する産物はトマト、チョコロ、野菜のような一番いたみやすいものであることが注目される。塊茎業者だけが市場外に倉庫を持っていると表明した。

b. 選別

卸売業者のほとんど全員が生産物の「健全化」作業を行なっている。それは良い産物を悪い産物から選別することで、そうすることによって生産物全部がだめになるのを避けるのである。

他方、生産物の選別はときには農民によって行なわれ、またときには卸売業者によって行なわれることがわかる。次の様な結果が得られたのである。

8表

品 目	生産者による選別 %	卸売業者による選別 %
塊 茎	70.0	30.0
ト マ ト	100.0	—
野 菜	50.0	50.0
か ぼ ち ゃ	25.0	75.0
チ ヨ ク ロ	—	100.0
にんじん・玉ネギ	78.0	22.0

乾 燥 豆	5 0 0	5 0 0
ユ カ	1 0 0 0	--
レ モ ン	1 0 0 0	--
キャベツ・カリフラワー	--	1 0 0 0

この表でわかるように、トマト、ユカ、レモンの卸売業者は畑で行なり選別を尊重している。塊茎、ニンニク、玉ネギの場合は、生産物の選別を行なり卸売業者もいるが、大半の人は畑で行なわれたものを受け入れている。

チョコロ、カリフラワーでは選別するのは卸売業者である。かぼちゃでは、たとえ一部の卸売業者が畑で行なわれた選別を受け入れても、大半の人は自分で選別を行なり。

野菜、乾燥豆の場合、選別を行なり卸売業者と選別されたものを受け入れる人とのパーセンテージは同じである。選別に関してみると、どの品目も経験にたよっている。生産物の大きさ、外見が考慮される。此の選別は普通特等から3等迄の等級があり、時には塊茎のように4等すなわち“chancho”(きたない)まである。

c. 輸 送

生産物の輸送はときには農民が負担し、ときには卸売業者が負担し、またときには仲買人が負担する。それが仲介業者でもある。輸送業者が負担することもある。輸送に関して得たことは、生産者が予想以上に大きな市場取引のリスクをおかしていることを示している。というのは、かなりの生産者が卸売市場で取引される生産物の輸送を負担しているからである。一般に輸送費を払う生産者は委託販売するために、生産物をもって市場へ行く。輸送費を払う卸売業者は産地へ出かけて行って、そこで生産物を買付ける。

輸送費の実際の支払いは、生産物が委託販売するため送られるときは、卸売業者が輸送費を負担し、あとで清算するときその分を割引いて生産者に支払う。ときには、卸売業者は市場内の店舗で産物を買ひそのときには生産者の方が輸送費を負担する。

トマト、野菜、ニンニク、玉ネギ、レモンの品目で生産者が一番輸送費を負担することが多い。トマトの場合はその大半を委託販売にする点からも説明できる。

同様に、野菜(青葉野菜、ニンジン、緑の豆)の場合、かなりの生産物が委託輸送され、その上、生産地が近いところから市場内で買付ける卸売業者も多い。ニンニク、玉ネギに関しては、当然の結果がでていいる。というのは、生産者が市場まで生産物をもってきて、市場のまわりで取引する習慣をもっている。また一部の生産物は委託輸送される。レモンの場合は委託輸送され、当然輸送費は生産者が支払う。

かぼちゃ、チョコロを除いて、その他の品目では、輸送費の支払いはバランスがとれて

いる。というのはそれら品目の業者の50%が輸送費を払っているからである。かぼちゃ、
 チョクロでは卸売業者が生産物を農場で買付けているためである。

d. 資金調達

第一卸売市場の商人は自己資金で取引にあたることが多い。しかし、ときには商業銀行の融資、親戚からの借金その他の調達によることもある。自己資金以外に卸売業者は商業銀行にたよっている。大半の品目において銀行融資を使っている業者が存在する。かぼちゃ、レモンの場合、そうした業者が一番多い。ある商人にとっての重要な資金源は自分からの借金である。チョコロ、野菜、乾大豆で一番それが多い。資金調達の一形式として生産者によって与えられ、かぼちゃの卸売業者によって進んで利用される信用貸しもある。商人は自分のもっている資金を使って産物の買付けをやり（貯蔵をする卸売業者は）、貯蔵費を払い（自分が負担するときは）、輸送費を払い、その他の費用にあてる。

9表 卸売業者が取引にあてる資金源(%)

品目	商業銀行	自己資金	親戚からの借金	その他
塊 基	70	760	110	60
ト マ ト	60	940	-	-
野 菜	62	762	175	-
か ぼ ち ゃ	330	500	70	100
チ ョ ク ロ	-	750	250	-
ニンニク・玉ネギ	130	870	-	-
乾 豆 腐	-	800	200	-
ユ カ	-	1000	-	-
レ モ ン	230	770	-	-
キャベツ・カリフラワー	-	1000	-	-

10表 卸売業者の資金の利用状況(%)

品目	買付	貯蔵	輸送	掛売り	その他
塊 基	886	33	81	33	-
ト マ ト	950	10	30	10	-
野 菜	880	30	70	20	-
か ぼ ち ゃ	930	-	50	-	20
チ ョ ク ロ	900	-	100	-	-

10表(つづき)

品目	買付	貯蔵	輸送	掛売り	その他
ニンニク・玉ネギ	980	-	05	10	05
乾燥豆	1000	-	-	-	-
ユカ	1000	-	-	-	-
キャベツ・カリフラワー	950	-	50	-	-
レモン	900	-	20	30	-

c. 掛け売

このやり方はこの市場で働いている大多数の商人によって行なわれている。卸売業者が出す掛け売りの期間は1, 2日から15日にわたる。しかし一番よく行なわれる方式は1週間、その中間から1日である。同品目内で期間のちがう業者がいる。そしてこれは疑いもなく、卸売業者の顧客に対する信頼度によっている。卸売業者たちが掛け売りにおいてほとんど同一の態度を示す、この市場での唯一の品目はトマトである。ここでは卸売業者はほとんど全員小売業者に対し、代金支払の最小限度として1週間の期限を与えている。塊茎、レモンにおいては、卸売業者はちがった態度を示す。というのは1日から15日にわたるちがった期限が無差別にみられるからである。

かぼちゃ、ユカの卸売業者は1日の期限を出す傾向があり、ニンニク、野菜の卸売業者は1日から1週間にわたる期限を示す。

5. 商人に関する情報

a. 教育程度

この市場の卸売業者はいろんな教育程度の人があり、初等教育を充分うけていない人から高等教育をうけた人もいるが、大多数の人は初等教育は受けたが、中等教育は終えていないという人たちである。すなわち、一般にこれらの商人の教育程度は中間といえる。

b. 経験期間

この市場で働く商人の大多数はその取引にかなりの期間の経験がある。そのためはっきりした商習慣をもっており、かえることはむずかしいかも知れない。

その取引経験とは最小限11年間商人であるというものである。

新しい商人は少数で、レモン、野菜、トマト、塊茎、乾燥豆にだけみられる。

一番経験のある商人をかかえている品目はニンニク、玉ネギ、ユカ、キャベツ、カリフラワーで、その卸売業者全員が11年以上の取引経験をもっている。トマト、かぼちゃの業者がそれにつづいている。塊茎、野菜でもその経験度に商人によってばらつきがみられる。

c. 市場における助手の数

商人の大多数は市場において助手をもっている。この統計は、これらの卸売業者が自分の取引を行なうために自由に動きまわることができることを示している。

助手をかかえている卸売業者は生産地へよりたやすく出かけられし、一方助手をもたない業者は生産物を委託して受けとりがらである。

他方、市場外に助手をもつ卸売業者がいく人かおり、それらの助手が卸売業者の買付代理人または市場の周辺での集荷人として働く事が出来る。

6. マージンと価格

a. 目減り

第一卸売市場の商人は生産物に目減りがあると表明した。その目減りは取扱い生産によって変化する。

目減りは主として生産物が水分を失うためであり、また取扱いの上でおこる悪化、または生産によっては湿気によって腐敗をおこすためである。

得た結果からおおよそ、その産物が市場にある間におこる目減りが平均してどの位になるか決定したが次の通りである。

11表

品 目	目 減 り	1 日 の う ち
馬 鈴 薯	13 Kg 1袋	80 Kg (1日のうち)
さ つ ま い も	13 Kg 1袋	80 Kg "
オ ユ コ	13 Kg 1袋	80 Kg "
玉 ネ 芋	23 Kg 1袋	75 Kg "
ニ ソ ニ ク	15 Kg 1袋	50 Kg "
野 菜	36 ㉮	重量 (1日のうち)
(レタス, ホーレン草, さやえんどう, 人参, すずめのえんどう等)		
特 大 型 か ぼ ち ゃ	45 ㉮	重量 (1日のうち)
ユ カ	20 ㉮	" "
キャベツ・カリフラワー	40 ㉮	" "
レ モ ン	30 ㉮	" "

他の生産物では卸売業者が目減りがどれだけになるか正確に知らないために目減り量を得ることが出来なかった。

他方、これらの目減りが卸売業者から出された資料にだけ依っていることをおことわりしておかねばならない。

b. マージン

卸売業者が実際に得たマージン、彼らが得ようとするマージンについて調査した結果12、13表はこれらの特徴のため得た結果を示している。塊茎、トマト、野菜、ニンニク、玉ネギ、レモンにおいて、卸売業者の大半は10%以下のマージンで、残りの人が10%以上を得ている。かぼちゃ、チヨクロ、キャベツ、カリフラワーの場合、業者の半分の人が10%のマージンがあり、残り半分は答えない。同様に、乾いた豆、ユカの業者も得たマージンについて答えない。他方、トマト、野菜、かぼちゃ、にんにく、玉ネギの卸売業者は大半の人が15%かそれ以上のマージンを上げようとしている。一方、塊茎の業者はほぼその半分の人が5~10%、残りの半分の人が5~10%、残りの半分のが15%以上を求めている。

チヨクロ、キャベツ、カリフラワーの卸売業者は50%の人が15%以上のマージンを希望すると答えた。残り50%の人は答えなかった。レモン業者の場合、現状のマージンで満足していると考えられる。

マージンについては品目別又は季節的にも価格の変動もありそれによって卸売業者のマージンにも変動があるとの事である。

12表 得たマージンによる卸売業者の分類(%)

品名 マージン	塊茎	ト マ ト	野 菜	か ぼ ち ゃ	チ ヨ ク ロ	ニ 玉 ニ ネ ク ギ	乾 燥 し た 豆	ユ カ	カリ フ ラ ワ ー キ ャ ベ ツ	レ モ ン
1 - 5%	350	125				110				
6 - 10%	550	625	560			450				1000
11 - 15%	100	250	130	160		110		500		
15%以上			310	340	500	330				

500% 500%

500%

※※は答えない人

品名 マージン	塊 茎	ト マ ト	野 菜	か ぼ ち ゃ	チ ヨ ク ロ	玉 ネ ニ ク ギ	乾 燥 し た 豆	ユ カ	カリ フラ ワ ー キ ャ ベ ツ	レ モ ン
5%	5.0	125								
10%	47.0	125	125			200				100.0
15%	11.0		250			222			50.0	
20%	21.0	50.0	125	160		110				
20%以上	16.0	125	50.0	67.0	50.0	45.0				
		125		170	50.0				50.0	

※ 知らない ※※ 答えなかった

c. 価格

第一卸売市場の業者はその大半の人が取引時に産物の買値を決定する。チヨクロ、かぼちゃ、トマト、レモンの場合、かなりのパーセンテージの卸売業者が畑から出る前に買値を決めており、塊茎業者は市場に合わせて買値を決め、野菜の卸売業者は産物を売ってから価格を決めている。

資料一三 中央市場に於ける品目別月別入荷量

VOLUMENES PROMEDIOS DE INGRESO DE PRODUCTOS AGRICOLAS ALIMENTICIOS
A LOS MERCADOS MAYORISTAS (TM)

ANO 1980

単位: t

PRODUCTO	1980												TOTAL ANUAL	PROMEDIO MES - DIA
	ENE.	FEB.	MAR.	ABR.	MAY.	JUN.	JUL.	AGO.	SET.	OCT.	NOV.	DIC.		
カシ	29	26	19	25	18	25	16	17	25	30	30	26	286	24
エシ	30	35	51	66	39	29	29	35	32	37	32	40	455	38
サシ	183	127	118	120	146	188	97	116	122	142	140	145	1,644	37
カ	44	38	61	59	60	52	57	53	33	30	38	34	559	47
カシ	403	343	350	330	336	274	221	234	222	279	302	306	3,600	300
セシ	23	20	23	26	17	22	20	21	2	10	16	17	217	18
レシ	113	113	107	92	99	130	77	87	82	73	77	83	1,133	94
オシ	20	20	34	39	33	35	26	35	29	22	22	18	333	28
シヤガイ	20	10	11	15	9	15	14	15	14	19	28	36	206	17
シヤガイ	260	322	391	447	411	374	403	493	460	494	499	492	5,046	421
シヤガイ	223	216	279	302	245	240	225	147	206	215	201	237	2,736	228
ト	-	65	63	66	56	75	65	72	69	80	87	94	792	72
ト	151	48	42	38	37	54	54	72	76	69	62	53	756	63
カ	82	49	46	38	33	34	31	36	36	47	50	51	533	44
人	102	107	99	109	104	91	83	90	78	77	94	97	1,131	94
カ	90	98	108	96	85	110	95	94	106	107	108	101	1,198	100

中央卸売市場に於ける月別品目別入荷量

VOLUMENES PROMEDIOS DE INGRESO DE PRODUCTOS AGRICOLAS ALIMENTICIOS
A LOS MERCADOS MAYORISTAS (TM)

ANO 1981

単位: (平均)

PRODUCTO	M E S S E S												TOTAL ANUAL	PROMEDIO MES - DIA
	ENE.	FEB.	MAR.	ABR.	MAY.	JUN.	JUL.	AGO.	SET.	OCT.	NOV.	DIC.		
エシユク	26	16	13	13	17	14	16	30	31	21	22	18	237	20
エシユク	53	41	37	53	39	32	37	42	35	26	33	31	459	38
マシユク	129	145	159	353	175	170	161	164	144	147	147	147	1,960	163
"	36	62	67	61	51	64	71	73	47	52	36	34	654	55
JK *	312	242	316	353	293	216	221	262	254	269	275	324	3,337	278
セシユク	25	19	23	28	27	23	21	12	7	10	12	24	236	20
レシユク	127	111	130	127	104	98	98	108	93	88	100	106	1,290	108
オシユク	30	26	44	54	49	36	24	23	22	13	5	6	332	28
シヤガイキ	42	42	14	14	16	13	10	13	12	26	30	35	266	22
シヤガイキ	472	324	399	465	513	463	522	588	682	619	651	716	6,414	535
シヤガイキ	236	197	236	296	308	280	276	196	168	228	207	185	2,813	234
ト	94	51	75	93	75	99	97	53	89	102	108	103	1,039	87
"	48	61	50	59	61	43	47	67	29	38	36	47	586	49
"	60	49	51	42	46	43	39	43	42	48	52	59	574	48
人	110	101	102	131	144	116	117	108	107	103	105	99	1,343	112
カ	109	116	113	85	107	134	141	121	125	120	134	140	1,445	120

中央市場に於ける品目別月別価格

PRECIOS PROMEDIOS DE la. CALIDAD DETECTADOS POR ENCUESTAS EN LOS
MERCADOS MAYORISTAS (S/. x Kg.)

ANO 1981

PRODUCTO	M E S												TOTAL ANUAL	PROMEDIO MES - DIA
	ENE.	FEB.	MAR.	ABR.	MAY.	JUN.	JUL.	AGO.	SET.	OCT.	NOV.	DIC.		
ニシキ	45.56	59.40	88.65	140.17	143.59	223.06	327.50	301.60	303.02	245.00	198.31	191.59	2,267.45	188.95
ニンニク	45.40	111.65	90.85	71.65	124.65	200.62	132.12	159.64	156.82	120.81	159.66	163.08	1,641.95	136.83
ナツメ	23.55	25.55	25.10	25.84	28.80	29.48	31.03	40.32	41.67	44.74	42.40	42.35	403.83	33.65
"	26.25	27.00	26.45	26.75	30.10	30.34	30.95	44.63	41.89	45.53	41.26	45.16	426.31	34.69
系	22.55	23.25	22.35	28.25	47.09	66.56	65.67	64.06	71.48	74.85	54.50	44.50	585.11	48.76
セ	72.10	75.30	71.05	64.89	76.62	85.40	78.85	94.26	126.48	163.98	140.00	98.33	1,157.26	96.44
レ	81.59	89.05	137.35	132.80	87.37	96.43	103.27	119.70	136.07	195.65	204.72	173.60	1,557.40	129.78
オ	94.40	84.05	63.25	52.26	41.31	36.26	49.15	52.94	59.98	67.02	77.65	110.90	789.17	65.76
ジャガイモ	106.80	112.20	113.10	99.42	101.00	102.51	107.10	135.04	138.60	142.00	126.65	113.06	1,397.48	116.46
ジャガイモ	80.15	67.65	60.35	57.10	61.65	64.22	80.90	83.35	79.25	75.40	73.21	70.95	854.18	71.18
ジャガイモ	85.85	72.60	66.45	61.93	66.40	68.65	82.79	88.27	83.45	79.44	80.34	83.68	919.85	76.65
ト	52.10	54.35	73.35	103.00	89.38	67.55	67.08	55.01	62.92	58.10	61.72	61.66	806.22	67.19
"	39.21	54.40	73.45	98.80	89.24	66.53	68.37	55.01	61.00	58.46	67.21	69.78	801.46	66.79
カ	54.55	50.60	58.60	61.07	57.91	50.43	55.65	58.59	59.98	56.66	61.19	60.43	685.66	57.14
人	29.55	32.00	40.75	46.80	54.69	43.29	46.63	59.50	45.79	52.58	52.46	53.52	557.56	46.46
カ	54.90	40.10	35.03	42.96	61.78	44.33	53.17	73.45	69.71	64.16	61.45	66.24	667.28	55.61

中央市場に於ける品目別月別価格

PRECIOS PROMEDIOS DE LA CALIDAD DETECTADOS POR ENCUESTAS EN LOS
MERCADOS MAYORISTAS (S/. x Kg.)

AÑO 1981

PRODUCTO	AÑO 1981												TOTAL ANUAL	PROMEDIO MES - DIA
	ENE.	FEB.	MAR.	ABR.	MAY.	JUN.	JUL.	AGO.	SET.	OCT.	NOV.	DIC.		
カシメク	309.29	371.22	518.35	637.06	897.35	987.54	947.44	600.79	444.58	530.47	564.19	587.20	1,415.48	617.96
カヤエンク	133.66	134.82	161.66	143.09	202.10	224.42	205.81	196.13	186.96	211.40	220.00	353.04	2,372.89	197.79
カシヤイキ	42.63	44.96	40.77	43.55	44.50	39.85	40.33	40.52	48.09	47.62	47.30	53.09	533.21	44.
"	47.00	49.88	47.42	45.52	51.32	43.93	42.42	42.36	42.64	45.38	40.66	60.50	5559.03	46.59
カシヤ	56.60	58.92	78.92	138.77	190.08	224.78	241.41	133.17	133.57	67.14	55.58	52.27	1,431.21	119.2
カシヤ	157.71	128.83	158.22	102.22	106.31	131.90	137.98	188.00	285.52	257.10	170.00	117.82	1,941.61	
カシヤ	150.40	116.66	105.45	97.87	95.96	99.03	108.37	104.92	200.85	406.46	298.15	196.36	1,980.48	
カシヤ	91.81	101.54	98.58	51.60	60.28	76.36	84.91	107.77	130.30	208.75	300.00	275.45	1,587.35	
カシヤ	109.38	138.08	163.33	168.17	158.85	167.18	161.66	230.63	257.06	222.27	189.35	158.18	2,124.14	
カシヤ	87.62	109.35	115.64	72.73	70.73	72.69	85.06	83.35	68.15	61.33	47.24	50.36	929.25	
カシヤ	85.77	120.50	122.19	78.35	78.31	81.94	95.31	97.62	81.37	73.73	62.79	64.70	1,042.48	
カシヤ	70.42	93.22	99.62	99.52	95.64	88.63	115.54	185.69	200.37	177.19	157.27	128.00	1,511.11	
"	71.33	85.42	97.06	93.01	100.31	98.46	130.93	196.69	207.35	203.56	172.70	123.92	1,580.44	
カシヤ	65.93	84.10	118.18	99.70	94.82	97.29	96.84	96.90	100.70	95.24	98.00	140.09	1,187.79	
カシヤ	54.79	62.33	107.85	44.97	45.09	48.89	45.13	44.26	41.50	44.18	44.00	69.07	652.06	
カシヤ	56.92	61.24	73.09	117.22	107.19	68.19	68.04	73.61	80.13	80.36	78.44	45.00	920.03	

資料-4 ペルーにおける農産物の市況放送について

農業食糧省広報総室市場情報サービス部は、リマ首都圏の卸売市場における農業生産物の入荷量及び卸売価格の市況等情報収集の為、早朝5時30分より、農業食糧省職員をリマ中央卸売市場第1、第2市場に出動させ、8時30分迄に情報を収集し農業食糧省広報総室に報告し各ラジオ局、及び新聞社に市況等情報を提供をしている。

放送については各ラジオ局共放送時間4分で午前6時に前日の市況(卸売価格、入荷量、主要品目の見通し等)、午後5時~5時30分の間に別紙記載のラジオ局より、当日の市況が放送される。新聞掲載については週一回(木曜日)情報を提供している。

なお放送については国際開発銀行との契約のもとに新聞、ラジオ局に情報を提供している。

ラ ジ オ 放 送 例

「農業省、農工業、流通総局市場情報サービス部は、リマ首都圏の卸売市場における、木曜日本日早朝記録されて市民及び一般品の卸売価格の報告を致します。

野菜、塊根、穀類の卸売市場では、主要品目の入荷状況正常です。主要なる種類のジャガイモの入荷量は775トンでした。

ワンカイヨ、タルマ産の白色ジャガイモの入荷量はキロ当たり平均73ソーレスで取引され、前日比安値でした。ワンカイヨ、タルマ産の有色ジャガイモはキロ当たり85ソーレスの売値で取引され、前日比同値であった。ワヌコ産黄色ジャガイモはキロ当たり260ソーレスで前日比同値でした。

リマ、カニエテ産のさつまいもは197トンの入荷量が記録され、売値は55ソーレスで、前日比同値でした。ブカルバ産・ユカの売値は平均キロ当たり110ソーレスで前日比安値で、入荷量リマ市の需要を満たしています。

アレキーバ産玉ネギはキロ当たり85ソーレスで取引され、前日比同値でした。入荷量は計174トンでリマ首都圏の必要需要量を十分に満たしています。

ルモン、サンロレンソ産のレモンはキロ当たり180ソーレスの価格で、前日比同値で入荷量は85トンです。これは卸売市場の必要量を満たしております。

果物卸売市場ではウワラル、カニエテ産の国産リンゴの売値はキロ当たり188ソーレスで売られました。チャンチャマヨ産オレンジはキロ当たり平均125ソーレスで売られました。

放送局と周波数等

IDENTIFICACION DE FRECUENCIAS Y POTENCIA DE EMISORAS NACIONALES

<u>Emisoras</u>	<u>Sona</u>	<u>Frecuencia (周波数)</u>		<u>Potencia</u>	
<u>Radio America</u>	Lima	1,010	Kilociblos	50	Kilociblos
"	"	6,010	"	50	"
"	"	9,510	"	5	"
"	"	94	"	5	"
"	"	3,240	"	1	"
<u>Radio Agriculture</u>	"	1,590	"	5	"
<u>Radio Panamericana</u>	"	960	"	20	"
"	"	5,980	"	5	"
"	"	101	"	1	"
<u>El Sol</u>	"	900	"	20	"
"	"	5,970	"	10	"
<u>Radio Victoria</u>	"	790	"	10	"
"	"	6,020	"	1	"
<u>Radio Excelsior</u>	"	1,360	"	2	"
<u>Radio Central</u>	"	930	"	50	"
"	"	9,545	"	0.5	"
<u>Radio Cien FM</u>	"	100	"	5	"
<u>Radio Continental</u>	"	1,440	"	1	"
<u>Radio La Cronica</u>	"	1,320	"	10	"
"	"	9,520	"	5	"
<u>Radio Nacional</u>	"	855	"	10	"
"	"	15,150	"	15	"
"	"	6,082	"	15	"
"	"	1,120	"	20	"
"	"	11,914	"	40	"
"	"	21,600	"	50	"
"	"	9,562	"	50	"
<u>Radio Raloi</u>	"	1,520	"	1	"
<u>Radio Continental - Arequipa</u>	"	740	"	10	"
"	"	6,055	"	1	"
<u>Radio Arequipa</u>	"	5,950	"	0.2	"
<u>Radio Landa</u>	"	6,035	"	0.2	"
"	"	1,400	"	0.2	"
<u>Radio Huancayo - Junin</u>	"	1,470	"	1	"
"	"	5,955	0.5	0.5	"
<u>Radio Junin</u>	"	1,370	"	1	"
"	"	3,300	"	1	"
<u>Radio San Juan - Tarma</u>	"	1,400	"	0.5	"
"	"	4,940	"	0.5	"
<u>Radio Delcar - Chiclayo</u>	"	6,140	"	0.2	"
"	"	1,520	"	1	"
<u>Radio Herorica</u>	"	920	"	5	"
<u>Radio Chiclayo</u>	"	3,380	"	1	"
<u>Radio Atlantica - Iquitos</u>	"				
<u>Radio Tropical</u>	"				
<u>Radio El Pueblo</u>	Ica	1,380	"	1	"
<u>Radio Ica</u>	"	1,270	"	1	"
"	"	9,590	"	0.2	"

EMISORAS DE LA ZONA DE IQUITOS - PUCALLPA - TINGO MARIA

<u>Emisora</u>	<u>Localidad</u>	<u>Frecuencia</u>	<u>Potencia</u>
Huanuco	Huanuco	1460-3360	0.25-0.50
Ondas del Huayoga	Huanuco	1350-3330	1 - -0.50
Horizonte	Tingo Maria	1060-4785	1 - -1
Tingo Maria	Tingo Maria	1080-3325	0.50-0.50
Selya	Tingo Maria	800	1
La Merced	La Merced	1270	0.50
La Montaria	Satipo	870	0.25
Chanchamayo	La Merced	1130-4895	0.40-0.40
San Juan	Tarma	1400-4940	0.50-0.50
Tarma	Tarma	1510-5058	0.10-0.33
Selecciones	Tarma	1230	0.40
Amazonas	Iquitos	1080-4815-9770	1 - -1
Atlantica	Iquitos	4840-1490-9625	1 - - 1 - 1
El Eco	Iquitos	1270-966505010	1 - - 1 - 0.40
La Hora	Iquitos	1470-4855	0.45-0.50
Loreto	Iquitos	1150-9504	10 -1
Nacional	Iquitos	1120-6028-9610	10-1-1
Pucallpa	Pucallpa	1250-6155	1 - -1
Sargento Lores	Iquitos	1370	0.50
Sideral	Pucallpa	9750	2.10
Telexs	Pucallpa	6062	0.25
Oriente	Yurimaguas	1420	1
Madre de Dios	Pto. Maldonado	4950-1230	0.50-0.50
Maldonado	Pto. Maldonado	1520-4980	0.25-0.30
Oxapompa	Oxapompa	1580	0.05
Tropical	Tarapoto	1340-9710-4935	1 - 1 - 1

注 s 放送局で農業関係放送を行っている（アンダーラインを記してある）。

資料 - 5 リマ県における基礎的な施設の登録状況

CONSOLIDADO DEL REGISTRO DE INFRAESTRUCTURA DEL DEPARTAMENTO DE LIMA

OCTUBRE 1980

保安倉庫	保安能力	トン	バラシカ	ワチ	ワウル	マツカサ	カシタ	カキユウサ	サン・バルサシ	カヤサ	リマ州都	合計												
保安倉庫	数	保安能力	41	56	23	-.-	-.-	21	30	36	222	429												
			6,360	13,029	3,304	-.-	-.-	5,162	2,740	166,329	27,850	224,774												
浄水施設	数	収容能力	03	04	02	-.-	-.-	04	01	05	17	36												
			124	59	38	-.-	-.-	12,500	80	3,505	36,578	52,864												
貯蔵場	数	収容能力	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}												
													牛	03	02	02	01	01	07	02	02	04	24	
													草	59	45	63	15	03	144	276	276	660	674	1,939
													山草	177	160	65	30	-.-	150	200	200	4,000	3,600	9,382
													豚	175	160	60	30	-.-	155	-.-	-.-	-.-	-.-	580
			60	56	80	10	-.-	135	-.-	1,200	360	2,406												
粉砕サイロ(とりもろこと等)	数	収容能力	04	05	02	-.-	-.-	03	03	05	24	46												
			-.-	-.-	-.-	-.-	-.-	-.-	550	26,100	102,520	129,170												
日用品市	数	店舗数	08	06	03	01	01	10	76	-.-	185	290												
			138	1,470	150	15	25	607	8,932	-.-	11,600	22,937												

資料-6 首都圏小売市場数

地 区	市 営	区 営	組合経営	私 営	その他	計
01. LIMA	11		9	21		41
02. ANCON		1				1
03. ATE		2	2	3		7
04. BARRNCO		2		1		3
05. BRENA		4	2	4		10
06. CARABAYO		4	2			6
07. COMAS		1		17		18
08. CHACLACAYO		1	3			4
09. CHÓRRILLOS		3	2	6		11
10. EL AGUSTINO		1	3	2	-	6
11. JESVS MARIA		1	2	1		4
12. LA MORLINA			1			1
13. LA		5	4	10		19
14. LINCE		3		3		6
15. LURIGANCHO CHOSICA		5				5
16. LURIN		1				1
17. MAGDALENA DEL MAR		1		3		4
18. MIRAFLORES		1				1
19. PACHACAMA		1	1	1		3
20. PUCUSANA		1				1
21. PUEBLO LIBRE		1	2	6		9
22. PUENTE PIEDRA		1		2		3
23. PUENTA NEGRA		1				1
24. PUNTA HERMOSA		1				1
25. RIMAC		6		6		12
26. SAN BARTOLO		1				1
27. SAN ISIDRO		1				1
28. SAN JUAN DE LURIGACHO		1	5	9		15
29. SAN UAN DE MIRAFLORES		5		6		11
30. SAN LUIS			5	1		6
31. SAN MARTIN DE PORRES		3	9	4	2	18
32. SAN MIGUEL		2	2	3		7
33. SANTIAG DE SURCO		2		1		3
34. SURQUILLÓ		3	2	3		8
35. VILLA MARIA DEL TRIUNFO		2	2	24		28
36. CIENEGUILLA		1				1
37. INDEPENDENCIA			3	6		9
	11	69	61	143	2	286

資料-7 流通段階別価格

	リマ市内野菜の市場取引価格		流通段階別価格			
	卸売価格	場外小売市場価格	通常小売市場価格	小売店価格	私営スーパー価格	公営スーパー価格
Aji escabeche	\$100 Kgr.	\$140 Kgr.	\$250 Kgr.	-	\$195 Kgr.	\$165 Kgr.
Apio	350 Atado	450 Atado	400 Atado	-	500 Atado	600 Atado
Beterraga	100 Atado	120 Atado	150 Atado	-	130 Atado	120 Atado
Cebolla	120 Kgr.	160 Kgr.	190 Kgr.	\$200 Kgr.	-	-
Col Crepsa	200 c/u	250 c/u	350 c/u	-	-	-
Coliflor	200 c/u	250 c/u	250 c/u	-	-	-
Espinaca	200 Kgr.	300 Kgr.	400 Kgr.	-	405 Kgr.	-
Lechuga	70-90 c/u	100 c/u	150 c/u	150 c/u	-	140 c/u
Maiz Choclo	80-90 c/u	120 c/u	125 c/u	130 c/u	150 c/u	100 c/u
Nabo	100 Atado	-	150 Atado	-	115 Atado	160 Atado
Pepinillo	18-20 c/u	50 c/u	80 c/u	-	80 c/u	70 c/u
Pere	100 Atado	200 Atado	250 Atado	-	300 Atado	300 Atado
Tomate	200 Kgr.	250 Kgr.	300 Kgr.	280 Kgr.	280 Kgr.	250 Kgr.
Zanahoria	130-120-80 Kgr.	200 Kgr.	220 Kgr.	-	150 Kgr.	200 Kgr.
Zapallo	200-180-150 Kgr.	200-250 Kgr.	260 Kgr.	-	230 Kgr.	280 Kgr.
Arveta	250-200 Kgr.	300 Kgr.	360 Kgr.	400 Kgr.	340 Kgr.	300 Kgr.
Vainica	100- 80 Kgr.	300 Kgr.	340 Kgr.	400 Kgr.	360 Kgr.	-
Habas	100 Kgr.	200 Kgr.	260 Kgr.	-	300 Kgr.	-
Alcachofa	100- 90 c/u	180-200 c/u	220 c/u	250 c/u	220 c/u	190 c/u
Beqengena	70 c/u	-	-	-	100 c/u	-
Zapallito-Italiano	60 c/u	-	80 c/u	-	90 c/u	-

資料-8 米生產狀況

Años	全國合計			海地			山岳地			森林地		
	收穫面積 Ha.	ha 收穫量 Kg/Ha.	生產量 TM.	收穫面積 Ha.	ha 收穫量 Kg/Ha.	生產量 TM.	收穫面積 Ha.	ha 收穫量 Kg/Ha.	生產量 TM.	收穫面積 Ha.	ha 收穫量 Kg/Ha.	生產量 TM.
1967	106,690	4,325	461,420	76,070	4,840	368,178	230	4,365	1,222	30,340	3,035	92,020
1968	75,975	3,765	286,195	36,715	4,485	464,745	230	4,445	1,022	39,080	3,035	120,428
1969	102,855	4,045	444,432	62,765	4,950	310,591	1,100	4,800	5,280	45,990	2,795	128,561
1970	140,395	4,180	586,721	84,240	4,995	420,680	225	5,000	1,125	55,930	2,750	164,916
1971	147,340	4,010	591,111	88,370	4,850	428,491	230	4,500	1,035	58,740	2,750	161,585
1972	118,055	4,086	482,326	69,310	4,909	340,223	300	4,400	1,320	48,445	2,906	140,783
1973	117,805	4,104	483,471	73,705	4,775	351,923	300	4,600	1,380	43,300	2,972	130,168
1974	115,755	4,270	494,237	75,645	4,825	364,959	300	4,700	1,410	39,810	3,212	127,868
1975	122,480	4,383	536,835	80,240	5,056	405,696	300	4,530	1,352	41,940	3,094	129,780
1976	133,165	4,284	570,415	87,305	4,884	426,431	350	4,550	1,593	45,510	3,129	142,391
1977	134,356	4,421	594,010	93,157	5,207	459,018	400	4,572	1,829	45,799	2,908	133,163
1978	114,274	4,093	467,758	61,547	5,140	316,340	430	4,960	2,133	52,297	2,855	149,285
1979	131,445	4,263	560,399	69,410	5,544	384,809	450	5,000	2,250	61,585	2,815	173,340
1980*	95,939	4,382	420,371	39,119	6,089	238,184	--	--	--	56,820	3,206	182,187
1981*	149,699	4,757	712,086	81,185	6,074	493,148	--	--	--	68,514	3,195	218,938

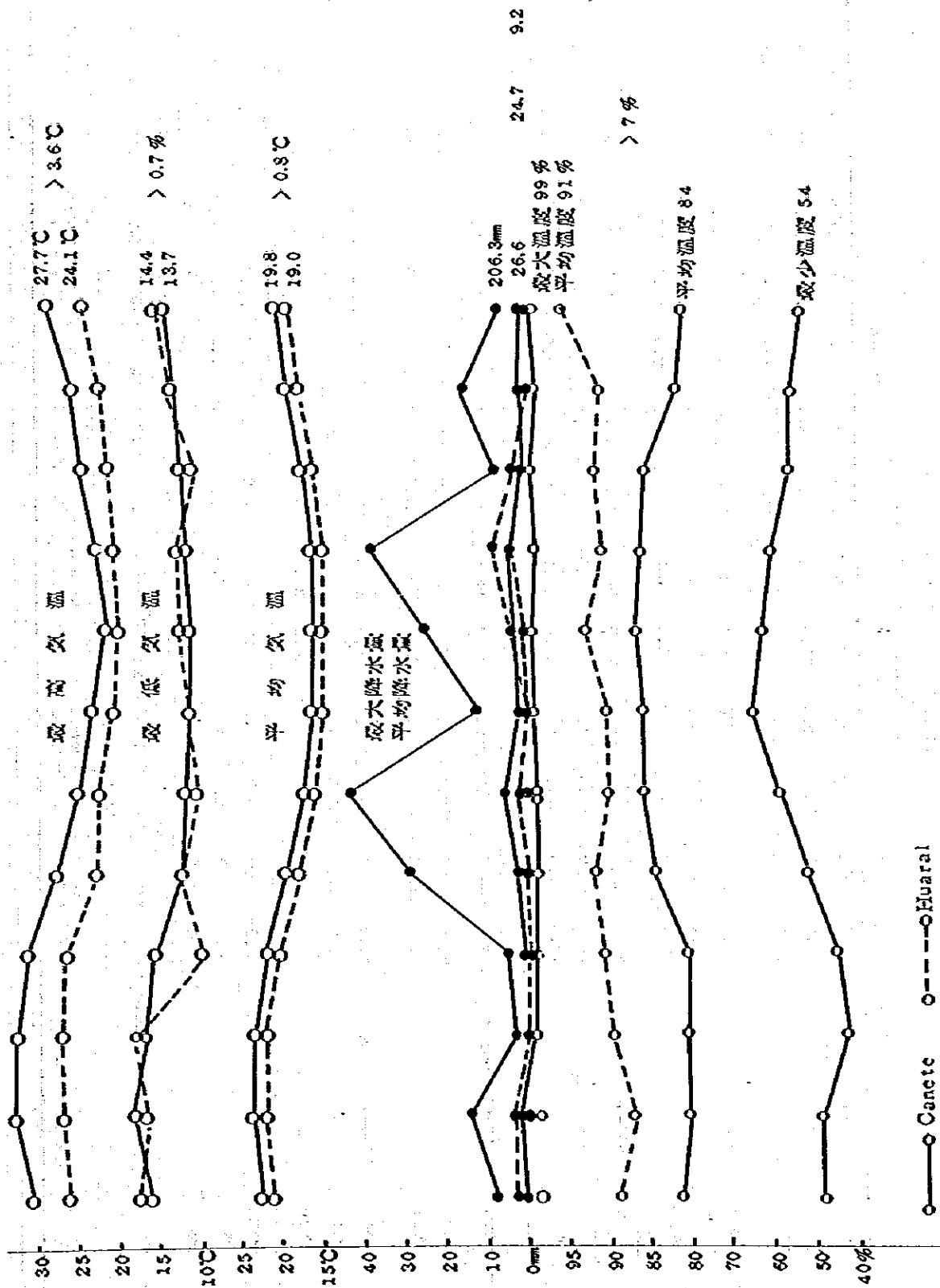
* Cifras del Boletín Estadístico de la Producción Agropecuaria 1980-1981.

Nota : En los años de 1980 y 1981 no figuran datos para Sierra, debido a que su poca superficie cultivada de arroz se encuentra en zonas bajas que actualmente se las considera como pertenecientes a Costa. Anteriormente se le reportaba como Sierra (hasta 1979).

/srda.

資料-9 地区別気象観測結果

1. Huaral 地区アンダワシと Lima 地区ラ・モリナの気象表を入手したが、アンダワシの海拔 470 m, ラ・モリナの海拔 238 m のものにつき参考程度に止めることにした。
2. Huaral 地区は 1964 年~67 年の資料(海拔 182 m)
3. Cañete 地区は 1950 年~68 年の資料(海拔 104 m)
4. 資料は Cañete の方が期間も長く、項目も詳細であった。
5. Lima Y Callao は両地区数値の中間程度と理解して大差ないものと思われる。
6. 特徴的に現われた数値の違いは次の通りである。
 - (1) 最高気温 C.(カニエテ) 27.7℃~H.(ウアラル) 24.1℃でカニエテが 3.6℃高い
 - (2) 最低気温 C.(カニエテ) 14.4℃~H.(ウアラル) 13.7℃でカニエテが 0.7℃高い
 - (3) 平均気温 C.(カニエテ) 19.8℃~H.(ウアラル) 19.0℃でカニエテが 0.8℃高い
 - (4) 降水量はカニエテの方が多く、最大値=年間で C.206 mm : H.247 mm である。
 - (5) 平均湿度はウアラルが 7% (H.91% : C.84%) 多い。
 - (6) 最高と最低の温度差はカニエテ 13.3℃, ウアラル 10.4℃でカニエテの方が大きい。
7. 以上の点を総合的に判断すると次のようである。
 - (1) 最高気温は作物の生育適温内で両地区共に問題はない。
 - (2) 最低気温の低下するウアラル地区では、場所によって霜害の発生する危険性がある。
 - (3) 最高最低の温度較差が大きい点では、カニエテの方が良品を産する可能性が大きい。
 - (4) 降水量の点では、数値の大きいカニエテの方が塩類集積が少なくて好結果が期待できる。
 - (5) 平均湿度の高いウアラル地区では、将来細菌性の病害発生等には警戒を要する点と思われる。



Canete と Huaral の気象の比較

LAT 13°04'S Departamento LIMA
 Long 76°21'30"W Provincia Cuzco
 ALIORA 104 m.s.n.m Distrito Cuzco

1936-68

Cuzco

	1950-68	31.8	32.9	32.2	27.9	25.7	23.6	22.5	23.8	24.8	25.9	28.8	29.7	
TEMP. PROME														
" PM		22.9	23.6	22.1	19.5	17.6	16.7	16.3	16.7	17.9	19.3	21.3	19.8	
" Pmme		17.0	17.6	16.2	13.1	12.4	12.1	12.2	12.5	12.9	13.9	14.3	14.4	
PRECIP. TOOTE	1950-58	8.0	2.3	6.0	29.0	43.0	12.0	24.0	38.0	18	16.0	7.0		206.3
" TFM		0.6	0.5	0.5	2.5	7.1	1.9	3.0	4.4	1.6	2.0	1.1		26.6
" Pmme		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
HUM. PLAT														
TIME	1958-68	98.0	99.0	99.0	98.0	98.0	99.0	99.0	98.0	99.0	98.0	99.0	99.0	
" PM		82.0	81.0	81.0	84.0	86.0	86.0	87.0	86.0	85.0	82.0	81.0	84.0	
" Pmme		49.0	42.0	46.0	52.0	58.0	63.0	61.0	59.0	56.0	56.0	52.0	54.0	
SOL														
TIME	1950-68	254.0	242.0	272.0	229.0	98.0	86.0	88.0	109.0	136.0	186.0	274.0		2.218
" TFM		191.0	190.0	200.0	145.0	66.0	52.0	51.0	64.0	100.0	128.0	169.0		1.536
" Pmme		141	146.0	144.0	79.0	29.0	24.0	15.0	23.0	69.0	86.0	116.0		989
EVAP. TIME	1950-68	193.9	205.1	183.1	149.6	104.9	95.0	114.6	103.8	121.4	141.4	173.8		1.779
" TFM		151.3	151.6	134.0	91.1	53.9	48.7	56.2	68.5	92.8	105.6	131.7		1.227
" Pmme		115.0	75.0	70.0	54.0	36.0	29.0	22.0	38.0	57.0	78.0	105.0		769
VUB. PMME	1950-68	8.0	6.0	7.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	7.0	7.0	7.0	7.0	
" PM		6.0	5.0	5.0	6.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	6.0	6.0	6.0	
" Pmme		5.0	4.2	2.0	5.0	5.0	7.0	6.0	6.0	6.0	5.0	4.0	5.0	
VIENTO														
		Km/Hora	NE	NE	NE	E	E	SW	SW	SW	SW	SW	SW	53
		11.1	11.1	11.1	11.1	9.3	8.4	8.4	8.3	8.1	9.0	8.9		43
	Huatal					Altura			Lima		Chancoz		Huatal	
						182m.s.n.m.								
						Long								
						77°14'								
						Lat								
						11°29'								

EMP.	1964-67	26.9	27.4	27.4	27.0	23.2	23.3	21.4	21.0	21.2	22.2	23.0	24.9	24.1
TEMP														
"		22.0	22.8	22.9	21.6	18.6	16.8	15.9	15.3	15.4	16.9	18.6	20.0	19.0
"		17.8	17.9	17.8	10.0	13.0	11.5	12.2	12.6	12.7	11.0	14.0	14.7	13.7
DRECIPI. TEMP		2.9	3.7	0.0	0.0	0.0	1.5	1.2	3.9	9.0	2.3	0.2	0.0	24.7
"		0.6	0.7	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5	1.7	4.2	0.9	0.1	0.0	9.2
"		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
H. Rel. PM		88	87	89	91	92	90	90	93	91	92	92	95	91

Observatorio Meteorologico

Alexander von Humboldt

- LA MOLINA -

Lat 12°55'S

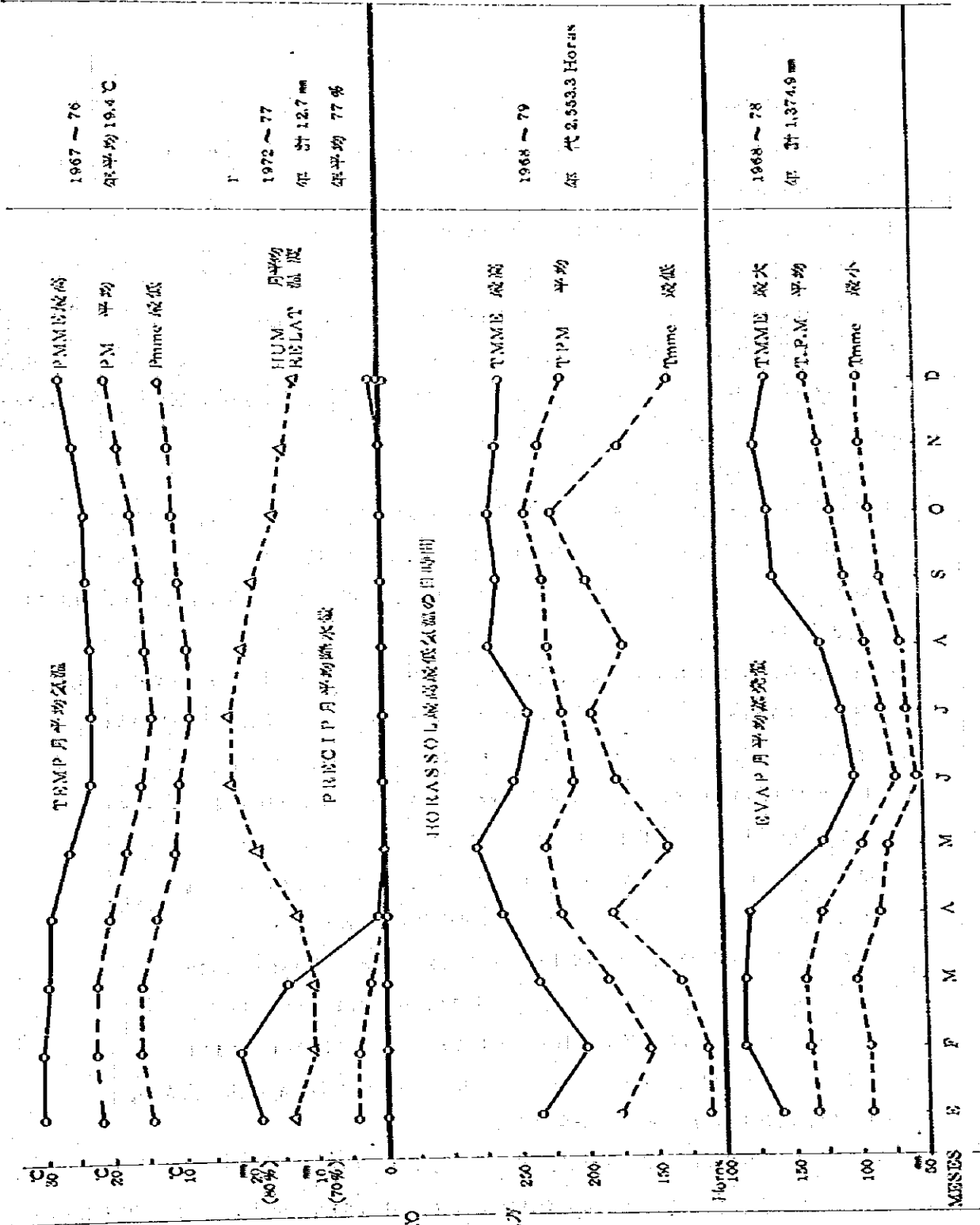
Long 76°57'W

Alt. 238 m

	JAN.	FEB.	MAR.	ABR.	MAY.	JUN.	JUL.	AUG.	SEP.	OCT.	NOV.	DEC.	NOV.
TEMP													
Maxima	25.9	27.2	27.6	25.9	22.4	19.5	18.5	18.9	19.1	20.5	22.0	24.3	22.7
Promedio	21.4	22.5	22.8	20.6	17.9	16.1	15.3	15.6	15.6	16.5	17.7	19.8	18.5
Minima	17.7	18.7	19.0	16.8	14.5	13.8	13.3	13.6	13.4	14.3	14.9	16.6	15.6
HUM													
Maxima	95	96	95	96	97	96	96	95	96	95	94	94	95
Promedio	80	80	80	82	87	87	88	88	88	86	84	82	84
Minima	60	58	57	60	67	73	74	73	72	70	67	64	66
PONT													
Rocio	17.9	18.6	19.1	17.4	15.4	13.9	13.3	13.5	13.6	14.2	15.0	16.6	15.7
NOBUCIDAD													
Promedio	6	6	5	4	5	6	7	6	6	6	6	5	6
PRECIPITACION													
1978-81	1.3	0.3	0.8	2.5	2.1	1.6	2.7	3.8	2.2	1.2	1.3	0.4	20.2

	1978 ENERO	FEBRERO	APRIL		MAYO	SUNIO	SULIO	AGOSTO	RE SETEMB	OCTUBRE	NOVI- EMBRE	DICIEM- BRE
KP	°C											
Maxima	25.5	26.7	33.7		22.4	18.7	37.7					
Prozedio	21.2	22.3	19.9		17.5	15.3	14.5					
Minima	17.5	18.6	16.6		13.7	12.8	12.4					
	2											
Maxima	97	97	97		97	97	97					
Prozedio	82	81	83		85	88	89					
Minima	60	59	62		63	73	74					
UNIO DE Rocio	°C											
	18.1	18.8	16.9		15.0	13.3	12.8					
VBOSIDAO Prozedio	2-8 6	3-8 7	2-8 5		6-8 4	3-8 6	1-8 7					
RECIP	1.0	0.0	2.0		1.9	12	5.2					
	26.0	26.8	26.7	25.5	21.3	19.1	18.8	19.3	18.8	19.8	21.7	24.2
	21.6	22.2	22.6	20.3	17.4	16.3	15.7	16.2	15.8	16.5	17.8	20.2
	17.6	18.5	19.3	15.9	14.5	14.5	13.6	14.1	13.8	14.5	15.1	16.9
	97	96	96	96	96	94	93	94	94	94	92	91
	80	80	81	82	88	87	85	87	87	86	82	80
	58	56	59	62	72	75	72	73	75	71	66	63
	18.0	18.5	19.2	17.2	15.4	14.0	13.2	13.9	13.6	14.2	14.7	16.7
	0-8 5	2-8 6	0-8 5	0-6 3	0-8 5	2-8 7	3-8 6	1-8 5	2-8 6	2-8 6	2-8 6	0-8 5
	0.2	0.0	1.9	1.0	1.1	1.3	1.6	1.9	0.9	1.6	0.8	0.5
	26.6	27.2	27.8	27.2	23.1	20.1	18.6	18.4	18.5	20.6	21.7	23.4
	21.9	22.3	22.8	21.8	19.3	16.9	16.1	15.2	15.5	16.6	17.6	19.6
	18.2	18.2	18.4	10.8	15.8	14.9	14.5	13.2	13.5	14.4	14.6	16.2
	92	95	95	95	97	96	98	95	97	95	95	95
	78	81	80	79	86	88	88	88	89	85	84	83
	60	60	56	58	68	73	75	74	73	70	66	66
	17.8	18.2	19.1	18.1	16.3	15.0	14.0	13.2	13.5	14.2	14.9	16.6
	2-8 6	2-8 6	2-8 5	0-6 3	0-8 4	1-8 6	4-8 7	3-8 6	4-8 7	3-8 6	3-8 6	2-8 5
	0.1	0.2	0.5	1.6	2.4	2.3	1.9	4.0	4.2	0.8	3.2	0.6
	25.51	28.0	28.3	26.1	22.6	19.9	18.8	19.0	20.0	21.0	22.5	25.3
	20.9	23.1	22.9	20.5	17.5	15.7	15.0	15.3	15.6	16.5	17.7	19.5
	17.3	19.5	19.4	17.0	14.0	12.8	12.5	13.4	13.0	13.9	14.9	16.6
	95	94	95	96	97	96	97	96	97	96	96	97
	83	77	79	82	88	86	88	88	88	87	86	83
	61	56	56	59	65	69	74	73	69	69	68	63
	17.8	18.9	18.9	17.3	14.8	13.4	13.1	13.3	13.6	14.2	15.4	16.6
	3-8 5	2-8 5	0-8 5	0-8 4	1-8 6	2-8 6	2-8 7	2-8 6	0-8 5	2-8 6	2-8 6	3-8 6
	3.9	0.9	0.1	5.3	2.9	1.7	1.9	5.4	1.5	1.1	0.0	0.0

1982年度/作図



1967 ~ 76
年平均 19.4 °C

1972 ~ 77
年平均 12.7 mm

1968 ~ 79
年代 2,553.3 Horas

1968 ~ 78
年平均 1,374.9 mm

LAT 南緯
11° 08' 9"

LONG 西經
77° 14' W

ALTITUD
470m 5. mm

DEPARTAMENTO
: LIMA 界

PROVINCIA
: CIANCAY 地方

DISTRITO
: SAYANIK

資料-10 地区別土壌調査結果

1. Huaral と Cañete を対比して数値を検付した。
2. Lima Y Callao については業者(肥料研究室)の成績につき、参考に止めた。
3. 特徴的に言える点は次のようである。
 - (1) 両地区共に P.H. が非常に高く、アルカリ土壌である。
 - (2) 耕土は概して Cañete の方が深い傾向があり、Huaral の方が隙が多い。
 - (3) 両地区共に塩類の濃度が高く、水不足の場合はその影響が出易い。
 - (4) 上記(3)の関係で相当に多量の灌水が必要となる。
 - (5) Huaral に不良土壌が多い。これは耕作してからの時間経過が少いか、或は降水量を含む灌水の不足に起因するものと思われる。
4. 数値の違いについて
 - (1) PH関係、Huaral 845(33点) Cañete 83(31点)でHuaralが平均で0.15高い。
 - (2) 地層別に見たPHでは、第1層H.822~C.727, 第2層H.857~C.732, 第3層H.851~C.83である。従って、作物根に影響のある範囲内(第2層)はHuaral 84, Cañete 73で顕著な開きがある。
 - (3) 塩基置換容量ではHuaral(以下H)1453, Cañete(以下C)1686でCañeteの方が地力が高い。
第1層H.1446~C.1773, 第2層H.1454~C.1702, 第3層H.1460~C.1554
 - (4) 水溶性CaではHuaral 1238, Cañete 1244で大差は認められない。
第1層H.1241~C.1279, 第2層H.1277~C.1244, 第3層H.1190~C.1197
 - (5) 水溶性MgではHuaral 128, Cañete 272でCañeteの方が高い。
第1層H.120~C.293, 第2層H.108~C.264, 第3層H.160~C.254
 - (6) 水溶性KではHuaral 038, Cañete 093でCañeteの方が高い。
第1層H.044~C.083, 第2層H.035~C.152, 第3層H.036~C.029
 - (7) 水溶性NaではHuaral 051, Cañete 110でCañeteが2倍以上である。
第1層H.048~C.117, 第2層H.045~C.100, 第3層H.061~C.113
 - (8) PH分布の両極はHuaral 50~104, Cañete 51~90でHuaralの方が大きい。
5. 以上を総合的に判断すると次のようである。
 - (1) Cañeteの方がHuaralよりも熟畑化が進み地力が大である。
 - (2) 植物根に影響のある第3層までのPH値ではHuaralの0.15高い点は(-)に作用するものと思われる。
 - (3) Cañeteの耕地の方が平均的に熟畑化して居り灌漑水の豊かさを思わせる(降水量も多い)
 - (4) 従ってCañeteの方が良質のものを多量に生産する可能性がある。

N 2787 33=84.45
C 2571 31=82.94

82.20 72.67
85.70 73.22
85.11 83.00

254.1 31=

Huaral

SUELOS

Cunese

Horizonte	Profundidad	PH	CATIONES CAMBIABLES				Capacidad de Cambio	Horizonte	Profundidad	PH	Capacidad de Cambio	CATIONES CAMBIABLES			
			Ca	Mg	K	Na						Ca	Mg	K	Na
AP	0-20	8.0	12.8	2.6	0.56	0.9	AP	0-20	8.1	12.6	10.8	1.2	0.3	0.3	
AC1	20-40	8.4	13.0	2.5	0.60	0.8	AC1	20-65	8.0	14.0	13.6	0.4	0.2	0.3	
AC2	40-65	8.5	16.0	2.8	0.26	1.0	AC2	65-135	8.0	13.0	10.8	0.4	0.1	0.3	
AC3	65-95	8.5	16.0	2.9	0.26	0.8	AP	0-20	8.5	13.6	12.2	0.8	0.3	0.3	
C	95-125	8.5	17.6	3.0	0.24	1.2	AC1	20-65	8.6	14.2	12.7	0.8	0.2	0.5	
AP	0-25	8.3	13.8	2.8	0.7	0.8	AC2	65-135	8.6	13.8	8.4	4.4	0.1	0.4	
AC1	25-50	8.3	14.4	2.4	0.2	0.5	AP	0-20	7.0	9.0	8.1	0.4	0.2	0.4	
AC2	50-80	8.4	15.0	2.8	0.2	0.6	C1	20-45	8.9	8.8	8.0	0.4	0.2	0.3	
C1	80-90	8.5	12.0	2.4	0.2	0.8	C2	45-95	8.4	14.8	12.0	2.4	0.2	0.4	
C2	90-200	8.4	8.2	1.2	0.1	0.6	C3	95-120	9.0	12.6	11.9	1.2	0.1	0.4	
AP	0-20	8.3	7.7	3.4	1.6	1.1	AP	0-20	8.2	22.4	18.9	2.0	1.0	0.56	
AC1	20-60	8.3	9.3	2.3	0.3	0.8	AC	20-95	8.4	20.0	17.7	1.6	0.26	0.52	
AC2	60-160	7.7	14.4	2.5	0.3	0.9	C1	95-180	8.1	22.0	18.9	1.6	0.18	1.48	
AP	0-20	8.0	19.8	3.1	0.8	1.2	AP	0-20	8.1	16.0	13.1	2.0	0.38	0.66	
AC1	20-50	7.9	18.2	2.9	0.4	1.2	AC	20-60	8.6	16.4	15.4	0.4	0.26	0.48	
AC2	50-100	8.3	19.0	3.0	0.4	1.5	C1	60-105	8.5	18.4	17.4	0.4	0.12	0.54	
AP	0-20	8.3	28.4	3.5	1.1	2.8	C2	105-170	8.3	6.4	5.4	0.8	0.08	0.24	
AC	20-100	8.7	29.8	3.7	0.9	2.4	AP	0-20	8.5	19.2	16.8	1.2	0.78	0.58	
AP	0-20	8.2	17.4	3.2	0.6	1.3	AC	20-70	8.8	19.0	13.4	3.6	1.60	0.40	
AC1	20-40	8.5	13.6	2.3	0.4	0.8	C1	70-190	8.6	21.4	17.2	2.0	1.70	0.50	
AC2	40-60	8.5	11.0	1.6	0.3	0.6	AP	0-20	8.5	15.4	13.9	0.8	0.34	0.40	
AP	0-20	8.1	17.4	2.8	0.3	0.9	AC	20-110	8.6	16.6	13.6	0.4	0.20	0.44	
AC1	20-70	8.2	19.0	2.9	0.2	0.7	AP	0-15	8.0	15.4	13.9	0.8	0.34	0.40	
AC2	70-80	8.9	11.6	1.7	0.2	0.7	AC	15-50	8.0	16.6	15.6	0.4	0.20	0.44	
AC3	80-110	8.9	9.8	1.6	0.1	0.6	C1	50-100	8.2	16.8	14.2	1.2	0.64	0.88	
AP	0-20	8.2	12.0	2.4	0.6	0.4	C2	100-125	8.3	12.8	10.5	1.6	0.58	0.32	
AC	20-60	8.0	10.6	1.7	0.2	0.4	AP	0-20	8.6	13.2	10.6	1.6	0.48	0.62	
AP	0-20	8.3	18.2	2.6	1.2	1.1	AC	20-55	8.8	10.0	8.5	0.8	0.25	0.54	
AC1	20-35	8.3	18.0	3.1	1.3	1.4	C1	55-110	9.1	5.2	3.5	1.2	0.14	0.48	
AC2	35-100	7.8	11.7	3.4	0.4	2.4	C2	110+	8.6	10.2	10.2	0.4	0.24	0.52	
AC3	100-150	7.9	16.8	3.0	0.2	2.4	AD	0-20	8.7	7.8	5.8	1.2	0.20	0.60	
Coro Azul															
Al	0-20	6.7	14.5	2.9	0.9	2.5	AC	20-160	9.0	9.8	7.2	2.0	0.14	0.58	
AC	20-160	8.2	11.9	6.0	1.3	2.2	C	160-180	9.1	6.0	4.7	0.8	0.10	0.48	
San Pedro							Batro								
AP	0-20	8.0	16.5	3.0	0.8	2.7	A	0-15	10.4	5.0	0.6	2.2	1.82	0.40	
C1	40-60	9.0	11.1	2.5	0.4	1.3	Setic								
C2	60+	8.5	10.3	1.6	0.2	0.9	Al	0-20	5.0	21.6	4.0	3.0	0.34	0.16	
							A3	20-35	5.0	16.6	0.6	0.2	6.24	0.08	

		Horizonte	Profundidad	PH	Capacidad de Combic	Cationes Cambubles				Kg/ha P ₂ O ₅
						Ca	K	Na		
Canete	PARAMO	A11	0-10	5.4	Ml/100gr 32.0	ml/100gr 12.0	0.8	0.34	0.24	23.0
		A12	10-25	6.1	20.8	11.0	0.5	0.12	0.20	6.0
		BC	25-60	6.6	10.6	7.0	0.5	0.10	0.18	6.0
	XEROSOL LUVICO	A1	0-30	6.9	15.4	11.8	2.2	1.12	0.32	57.5
		A3	30-60	6.7	12.6	10.2	1.7	0.50	0.24	69.0
		B	60-100	6.5	15.2	12.2	2.4	0.28	0.46	97.8
	CASTANOZEM LVVICO	A1	0-15	5.6	36.2	13.0	1.6	1.94	0.28	115.0
		B21	15-40	6.9	36.0	34.8	1.2	0.96	0.96	63.2
		B22ca	40+	8.4	26.4	24.4	0.7	0.58	0.88	11.5
	CRIOCREPT (PARAMO EVTRICO)	02/A1	0-15	6.4	40.0	23.0	2.8	0.92	0.50	23.0
		A3	15-35	5.1	28.0	5.0	1.14	0.34	0.18	6.0
		B	35+60	6.5	27.0	23.0	1.5	0.42	0.42	23.0
Huaral	CASTANO CALCICO	A1	0-40	6.0	39.2	17.0	9.0	2.04	0.18	17.2
		B2	40-80	6.0	30.4	22.0	9.8	0.34	0.46	5.7
		B3ca	80-100	8.3	24.0	22.4	1.0	0.22	0.48	5.7
	PARAMO (PARAMOSOL)	A1	0-20	5.0	21.6	4.0	3.0	0.34	0.16	80.5
		A3	20-35	5.0	16.6	0.6	0.2	0.24	0.08	92.0
		(B)	35-70	5.4	9.8	0.6	0.2	0.18	0.12	5.7
		A1	0-20	5.3	35.2	16.0	2.0	1.18	0.12	253.0
		(B)	20-50	5.0	19.8	5.0	1.0	0.64	0.08	138.0
		C	+50	6.6	13.2	6.9	6.0	0.36	0.04	28.7

		Ca		Mg	
		H	C	H	C
集計結果 PH関係		全層 Huaral Canete			
Huaral 2787-33=84.45(84.31)		1層	21.38 12.44	1.28	2.72
総体	Canete 2571-31=82.94(82.56)	2層	12.41 12.79	1.20	2.93
		3層	12.77 12.44	1.08	2.64
	Huaral	Canete			
第1層	82.20	72.67			
第2層	85.70	73.22			
第3層	85.11	83.00			
			K	Na	
			H.	C.	
置換容量	Huaral 14.53	Canete 16.86	全層	0.38 0.93	0.51 1.10
第1層	14.46	17.73	1層	0.44 0.83	0.48 1.17
第2層	14.54	17.02	2層	0.35 1.52	0.45 1.00
第3層	14.60	15.54	3層	0.36 0.29	0.61 1.13

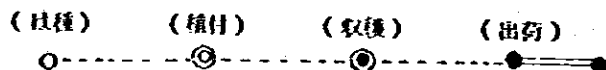
番号	月 日	P.H(%)	E.C	
1	3. 15	7.75	$\frac{45}{22} \times \frac{10}{102}$	0.20
2	"	7.72	$\frac{50}{20} \times \frac{10}{102}$	0.25
3	"	7.56	$\frac{70}{15} \times \frac{10}{102}$	0.47
4	3. 16	7.90	$\frac{35}{300} \times \frac{103}{1}$	1.167
5	"	7.92	$\frac{80}{12} \times \frac{10}{102}$	0.67
6	"	7.87	$\frac{30}{34} \times \frac{10}{102}$	0.09
7	"	8.02	$\frac{50}{20} \times \frac{10}{102}$	0.25
8	3. 24	8.04	$\frac{70}{15} \times \frac{10}{102}$	0.47
9	3. 20	8.06	$\frac{90}{11} \times \frac{10}{102}$	0.82
10	"	8.11	$\frac{18}{55} \times \frac{10}{102}$	0.03
11	3. 24	7.85	$\frac{75}{13} \times \frac{10}{102}$	0.58
12	3. 20	6.96	$\frac{45}{12} \times \frac{10}{102}$	0.38
13	"	7.76	$\frac{25}{100} \times \frac{103T}{1}$	1.32
14		7.48		
15		7.65		
平均		7.78		

資料-11 野菜栽培暦

(カキオ地区)
マヌエル、ヒガ氏提供

	夏			秋			冬			春		
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
タマネギ	●		●	○		◎				○		
トマト	◎		◎					○		◎	○	◎
カボチャ		◎						○		○	◎	
ズクモロコシ												
ニンジン				○			○		◎			◎
キャベツ												
レタス												
トウモロコシ		◎			◎			○		○		◎
カリフラワー			○	◎		○	◎	◎			◎	
ニンニク				○		○		◎				◎
ホウレンソウ				○		◎		○			◎	
カボチャ												
セリ	◎			○			◎		○	◎		◎
アカカブ				○			◎		○			◎
ダイコン				○		◎	◎		○			◎
リーキ			○		◎		◎		◎			◎
カイワツウリ			◎						○		○	◎
アスパラガス												
ミズバ												
食用アザミ					○	◎			◎			◎
キュウリ	◎		◎							○		○
ハクカダイコン												
フダンソウ												
メゴキ												
その他				○		◎			○		◎	
				○		◎			○		◎	

- 加工用トマト(イタリブーノ)は、ほとんど直産、本表はマルグローベス(巻袋栽培)を記す。
- 周年栽培が可能なもの(セリ、アカカブ、リーキ(ゴーロ)、クレンソウ、ワケギ(セボイーナ)、ダイコン(ハクカダイコン)
- 直接栽培のもの(カボチャ、ニンジン、ホウレンソウ、アカカブ、ダイコン、カイワツウリ、キュウリ、クレンソウ)
- ニンニク、ワケギは球根種
- 食用アザミは山岳地帯から品を移入栽培後2~3年は収穫可能



PRODUCCION NACIONAL DE HORTALIZAS T.M. Y PROYECCIONES HASTA 1985

資料 - 12 全国野菜生産(トン)及び1985年までの需要見通計画量

PRODUCTOS	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985
1) Aji	19,443	15,802	14,738	14,255	13,288	14,604	11,464	10,417	11,365	11,082	12,345	11,873	11,419	10,982	10,562
2) Ajo	7,458	10,002	10,051	10,369	11,285	12,730	9,165	11,790	13,184	11,380	12,677	13,559	14,502	15,511	16,590
3) Apio	5,112	7,350	7,212	6,358	8,654	10,075	8,564	9,216	9,094	8,958	9,979	10,814	11,720	12,702	13,766
4) Betarraga	5,217	4,833	4,466	4,622	8,213	8,766	7,745	6,586	7,308	7,213	8,035	8,584	9,170	9,796	10,465
5) Cebolla	137,737	149,947	136,347	148,768	141,594	153,902	157,403	140,876	146,935	148,495	165,323	166,554	167,795	169,044	170,304
6) Col	47,607	43,495	39,138	45,146	34,931	34,477	32,896	31,769	31,149	31,938	35,579	34,751	33,942	33,152	32,381
7) Coliflor	17,904	16,455	11,246	13,145	12,460	14,548	13,064	12,719	12,559	12,781	14,238	14,064	13,891	13,721	13,553
8) Espinaca	7,963	5,763	5,513	12,621	11,801	11,580	4,175	3,500	2,703	3,459	3,853	3,950	4,049	4,150	4,254
9) Lechuga	21,082	18,493	18,681	24,970	23,205	24,829	13,175	14,922	14,899	14,332	15,966	15,904	15,842	15,780	15,718
10) Choclo	136,947	144,878	148,811	151,799	137,799	145,168	134,330	135,182	129,034	132,849	147,984	149,391	150,801	152,225	153,661
11) Nabo	3,212	3,040	2,419	2,196	4,037	4,044	3,831	3,837	3,755	3,808	4,242	4,475	4,721	4,981	5,255
12) Porro	2,458	3,066	2,372	2,586	3,436	3,385	4,080	3,449	3,275	3,601	4,012	4,268	4,541	4,831	5,140
13) Tomate	60,793	69,835	65,177	69,955	70,469	69,468	75,479	63,091	62,360	66,977	74,612	76,457	78,349	80,286	82,272
14) Zanahoria	24,537	25,462	25,731	28,358	36,240	38,198	27,770	24,463	29,505	27,246	30,332	31,365	32,412	33,494	34,612
15) Zapallo	63,554	52,399	49,145	48,186	51,529	51,746	53,412	50,428	55,787	53,209	59,275	59,078	58,883	58,687	58,493
16) Arveja verde	31,822	35,159	34,265	35,314	29,995	27,442	32,049	29,667	30,342	30,686	34,184	34,580	34,381	35,387	35,797
17) Vainita	3,475	5,517	4,877	4,542	5,084	5,410	5,177	5,112	4,828	5,039	5,613	5,856	6,110	6,374	6,650

1977, 78, 79 年と同じく 1980 年も平均増産だったため、77 年、78, 79 年の平均増産である。

Ano 1980: 1980 年 Estimado promediando 1977, 78 y 79 que es igual que 1980 fueron años de sequia.
 Ano 1981: 1981 年 El Ministerio ha calculado un crecimiento de la Agricultura en general en un 11.4% con respecto al año anterior, este factor se ha aplicado en el caso de las hortalizas. 前年比 11.4% の増加分を計算し、野菜の場合に適用する。

Periodo 82-85: Se ha encontrado la tasa de incremento anual promedio desde 1971 hasta 1981 y luego se ha proyectado con esta tasa.
 82 年～85 年 1971 年から 81 年までの年間平均増加率からの推算。

資料-13 プロコンブラに関する法令仮訳

1981年11月12日

大統領令 第0295-81-AQ/PROCOMRA

公文書番号 第4040-81-OGA - OAD - UT

大統領令第156-81-AQにより、農業分野の特別計画として“農産物流通総合計画” - PROCOMRAが設定された。

上記特別計画の実施統括を当該大統領令並びに国会令第217に則り、

下記の通り定める：

本日以降より、農産業・流通総局システム業務局第Ⅱ、P/C(a)農業計画課長Jorge Oswaldó Wong Luck 技官を、“農産物流通総合計画” - 農林省 - PROCOMRA と称する特別計画の実施統括担当として、現職保留で任命する。

以上記録の上布告のこと

農林大臣兼任

厚生大臣

DR. URIEL GARCÍA 署名

ペル - 共和国

大統領署名

大統領令 第 156-81-AG

公文書 第 3961-81-OBA-OAD-UT

当共和国憲法に則り、農業の振興と開発を認める国会令第二号により、当国における農村の興隆を図ることを目的として、農業分野に第一優先位が与えられた。

上記国会令第二号、第二章、第五条では農産物生産者の組織する機関を通して流通を行なうことが優先視され、農業分野における流通の改善、国の発展に寄与する一つの方法として、農産物の付加価値の増大を図ること、生産地域を重点とする農産物加工のための工場の設立の助成を図ること等を目標として定められている。

農産物の流通機構は、生産と消費を結ぶ、農業発展のために最も重要な経済機構であること。現在の流通機構は農業の発展と振興に最も適切なものではないこと。

当国における新しい農産物流通機構を設けることの国家的重要性に鑑み、下記の通り定める。

第1条 農業省内に農産物流通総合計画“PROCOMPRA”と称する特別計画を設定する。

第2条 農産物流通総合計画は、農産物流通のための総合システムを設定し、下記の達成を目標とする。

- a. 農村での農産物供給の組織化をはかる。
- b. 卸し売を合理化する。
- c. 農産物の都市供給の合理化をはかる。
- d. 農村と都市間の収入の不均衡を少なくすることに助力する。
- e. 生産者と消費者のために公正な価格の確立を達成する。

第3条 前条項の定める目標を実施に移すために、本計画は下記を組織、振興、運営のために必要な行為を行なうものとする。

- a. 生産者によって組織されることが優先され、企業形態を持った農村流通センターで次の流通業務を行なう。
 - 集出荷
 - 選別と分類
 - 包装
 - 入庫と保存
 - 購入-露売
 - 運 搬
 - 事業化

b. 小売業者によって組織されることが優先され都市供給を行なうセンターで、下記を業務とする。

- 購入-販売
- 製品の準備
- 入庫、保存
- 配給
- その他商業上の業務

都市供給センターは市場及び加入を希望する一般小売業者と相互関係が持たれる。

c. 農産物の流通企画のための中心機関としては、農村流通センター、都市供給センター、各市、区役所、食品加工業者、農林省等の代表によって構成された「流通委員会」の設立。

d. 流通機構の運営のために不可欠である流通業務を行なうための施設を提供するための特別計画の作成。

第4条 農産物流通総合計画と称される特別計画は、農林省に割当てられた予算内に考慮された計画とする。

第5条 当該特別計画は、国家予算内よりの割当て分、寄付、計画助成のための協定によってもたらされた資金等を自己資金とする。

第6条 当該特別計画は管理上、技術上、経済上の独立性を持つものとする。

第7条 農林省に省令により、特別計画を組織し、運営に必要な資金の割当を行なう権限を付与する。

第8条 本大統領令は大蔵及び農林大臣が署名する。

1981年11月6日

大統領官邸に於いて

大統領署名

農林大臣署名

大蔵大臣兼任

動力・鉱業大臣署名

資料-14 検討の例示メモ

以下は考え方の整理の一助にもと、とりあえず気付いた要検討事項の例示を参考までに行ってみたものである。「何がどういう意味で検討されなければならないか」ということ自体、本プロジェクトのような「計画づくり」プロジェクトの場合ほとくに重要な1つの技術移転の内容ともなると思われる。このような意味で、カウンターパートを含め関係者が常時議論することが大切であるし、またそうすることにより共通の問題意識が醸成されて作業能率も高まるものと思われる。

〔ペルー国における野菜の流通における問題は何か。〕

1. 野菜の品質が良くないことか。
2. 野菜の生産性が低いことか。
3. 野菜の生産量が需要に見合っていないことか。(供給不足か)
4. 野菜の需給状況がわからず、むやみな作付による供給過剰か。
5. 仲介業者の中間マージンが大きすぎることに、消費者にとって価格が高く、農家にとって所得が少ないことか。
6. 季節的な需給の不均衡等による価格変動が大きいことか。
7. 物流過程に問題があるのか。(例 道路、貯蔵施設、冷蔵車等)
8. 消費量が少ないことか。(高所得者と低所得者問題も?)

1. 野菜流通問題解決のためにどのような対応があり得るか。

1. 上記1より野菜流通上解決されるべき点は何か。
2. 野菜の流通に関して、この国での改善対策とその効果はどうであったか。成否があればその理由。
3. プロコンブラの狙いと実績、応募の状況。
4. 外国の各種レポート(例 FAOのじゃがいもの調査、米州開銀、スペインの協力等)は、どういう狙いをつけているか。
5. 以上1~4等より考えて専門家、カウンターパートは流通合理化のための対策としてはどんなものが幾通りあると考えるか。
6. 5のそれぞれの対策の効果と費用及び実現の可能性はどうか。
他の流通経路と競争して存続し、発展しうるか。
7. 6の結果の青写真のどこに、集出荷センターは如何なる機能をもつものとしてその設置計画が入り込むのか。

8. 集出荷センターの固有の機能のみではその設置が困難な場合、その他のものを導入する可能性はあるのか。

例えば、人材養成、加工施設、貯蔵施設、栽培指導等の導入はどうか。

II. 集出荷センターシステムのために検討すべき事項

1. 集出荷センターを設置することによるメリットは何か。

(1) 生産者サイドについていえば、

ア. 農家の手取額が全体として増えることか。

イ. 安定的に売れるということか。

ウ. 販売代金の回収が改善されることか。

(2) 消費者サイドについていえば、

ア. 高所得者層が良い品質のものを購入できることか。

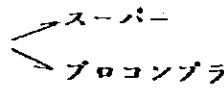
イ. 価格の変動が少くなることか。

ウ. 低所得者層が下位等級の品を安く購入できることか。

エ. ア～ウとも関連するが、全体として従来より安く購入できて消費の拡大につながる
ことか。

(3) 政府サイドとして

例えば、

集出荷センター  等のルートの開発により流通合理化の刺激を与えることか。

2. 集出荷センターはどこが事業実施主体となり、どこが運営主体となるのか。

農協連合会が事業実施主体となり、運営主体となった場合に、その能力を具え得るか。

例えば、

(1) 建設資金の手当能力はもっているか。

(2) 集荷機能をもつことができるか。

(3) 営農指導能力をもつことができるか。

(4) 販売能力をもつことができるか。

(5) 販売代金の前払い又は立替払い等の資金能力はあるか。

(6) 参加農家に対する営農資金の融資能力はあるか。

(7) 販売代金を農家の口座に迅速に振り込む計算事務能力をもつことができるか。

(8) (2)～(5)及び(7)とも関連するが集出荷センターの運営管理のための職員を確保できるか。

3. 集出荷センターは適確に稼働し得るか。

(1) 集荷は確実にできるか。

(上記2以外の問題として)

ア. 農家が従来とのつながりを断ち切れるか。

イ. 農家が品質のよいものは産地仲買人へ、品質の悪いものは集出荷センターへということにはならないか。

また、市場価格が高いときは産地仲買人へ、安いときは集出荷センターへということにならないか。

ウ. 共同出荷体制を確実に仕組むことができるか。

(1) 産地仲買人より高い価格で売ることができるか。

(2) 産地仲買人より早く代金が支払えるか。

(3) 産地仲買人は品質の悪いものは買付けしない場合があるが、集出荷センターでは品質の悪いものでも工夫して売る努力をするか。

(2) 販路を確保できるか。

ア. リマ市中央卸売市場の卸売人に売却できるか。

イ. 卸売人に売却できない場合

(1) 高～中所得者層を対象とするスーパーに上位等級のものを売却できるか。

(2) 低所得者層を対象とする小売市場に下位等級のものを売却できるか。

(卸売人に売却できる場合でも、中間業者を排除する流通経路の一つとして本方式の可否を検討すること)

4. 集出荷センターの機械、施設の機能はどのようなものを考えているのか。

(1) 選果機

ア. 対象品目は何か。

イ. 選果することによるメリットは何か。

(2) 貯蔵施設

ア. 対象品目は何か。貯蔵期間はいつか。

イ. 貯蔵能力はどれだけか。

ウ. 貯蔵することによるメリットは何か。

(3) 加工施設

ア. 対象品目は何か。

イ. 果実の加工が主体である理由は何か。(野菜の流通改善に果実の加工が必要か)

ウ. 原料野菜の供給はどうするのか。

- (f) 価格低落時のみを対象とするのか。(稼働率が低くコスト的に引き合わないのではないか)
- (g) 市場等に販売できない不良品を対象とするのか。(製品の品質低下を招くのではないか)
- (h) 当初から加工向けに契約栽培したものを対象とするのか。(農協が加工に乗り出すことが野菜の流通改善にどのような面で寄与するのか)
- エ. イ及びウとも関連するが、加工することによるメリットは何か。
- (4) 乾燥施設
- ア. 対象品目は何か。
- イ. 乾燥処理の方式は。
- ウ. 乾燥することによるメリットは何か。
- (5) 簡易集荷所
- ア. 必要とする理由は何か。
- イ. 簡易集荷所の機能は何か。
- ウ. 集出荷センターとどのように機能分担をさせるのか。
5. 共同出荷体制を確立するため農協は生産面のどこまでタッチするのか。
- (1) 農家への栽培指導についてはどの範囲か。(品種、作付計画、土壌改良、施肥、防除、等栽培一般か)
- (2) モデル展示圃設置の必要性は何か。
- ア. 展示の内容は。
- イ. 運営はどうするのか。(農家又は普及所に委託するのか、農協直営で行うのか。また、運営費はどこが負担するのか)
- ウ. 管理はどうするのか。(農協の営農指導員か、普及所の職員か)
- エ. 展示することの効果は何か。
- (3) 農協の営農指導員は確保できるか。
- 2の(8)とも重複するが(1)及び(2)のため営農指導員を確保できるか。
- (4) 加工業者と農家の契約栽培の場合、農協は農家サイドの窓口となることができるか。
6. 農協の人材養成はどのように組み込むのか。
- (1) 集荷機能
- (2) 販売機能 代金計算、集出荷センター運営

7. このシステムがよりよく動くためにペルー政府に要請できることがあるのか。あるとすれば何であり、その可能性はどうか。

- (1) 一般指導か。
- (2) 人材研修か。
- (3) 関係普及所の充実（普及員の適正配置、機材及び機動力の充実）か。
- (4) 建物、機材等の補助か。
- (5) 売先のあっせんか。
- (6) 金融のあっせんか。
- (7) 市場情報システムの強化か。
- (8) 規格化の推進か。
- (9) 他の流通システムとの連動あっせんか。

8. 以上1～7を検証した結果、あり得るべき集出荷センターのタイプはどのようなものか。検討した各タイプを挙げ、各タイプ別に所要金額、運営管理に要する農協職員数、運営収支の試算等を算出し、それらを総合勘案すると最も効率的なタイプはどのようなものか。

(注) 集出荷センターのタイプとは

- 例えば、① 選果機、貯蔵施設、計算センター、モデル圃場を設置したタイプ
② 選果機、加工施設、簡易集荷所を設置したタイプ

9. 集出荷センター設置の可能性が高い場合、現地に對し誰が、何時、どのように話を煮つめるのか。

資料-15 昭和56年度プロジェクトの実績

1. 専門家派遣

- 長期 (1) 三井義博(リーダー流通) 昭和56年9月28日~58年9月27日
元農水省食品流通局野菜振興課 流通指導官
- (2) 玉木敏也(市場) 昭和56年10月12日~58年10月11日
元株式会社移山大果 常務取締役
- (3) 勝又建治(野菜) 昭和57年1月22日~58年3月15日
元静岡県農産改良普及所長
- 短期 生野健治(技術協力一般) 昭和57年1月22日~57年7月21日
(財)国際協力サービスセンター職員

2. 研修員受入

- (1) RICARDO FORT LARGO 農産工業流通総局長
高級研修 昭和56年8月25日~56年9月8日
- (2) FELIX OCAMPO PASTOR 専門官
野菜集団コース 昭和57年3月19日~57年11月23日

3. 機械供与額 26,249千円(内繰越13,473千円)

事務用
事務機器
視聴覚機材

資料-16 カウンターパートリスト

1. 農産工業流通総局長
2. 同上次長
3. 農業生産ディレクター
4. 経済分析官ディレクター
5. 専門官(計画への協力員)
6. 同上(" ")
7. 同上(" ")

第五 農政局

1. 局長
2. 流通部次長
3. 農事畜産部次長
4. 供給部次長
5. ワラール農政支局農事畜産部長
6. ワラール支局の専門官

資料-17 農産物の流通にかかるプロジェクト(プロコンプラ)

農業省サービス局

1981年11月

政策のわく組

I. 国の目的

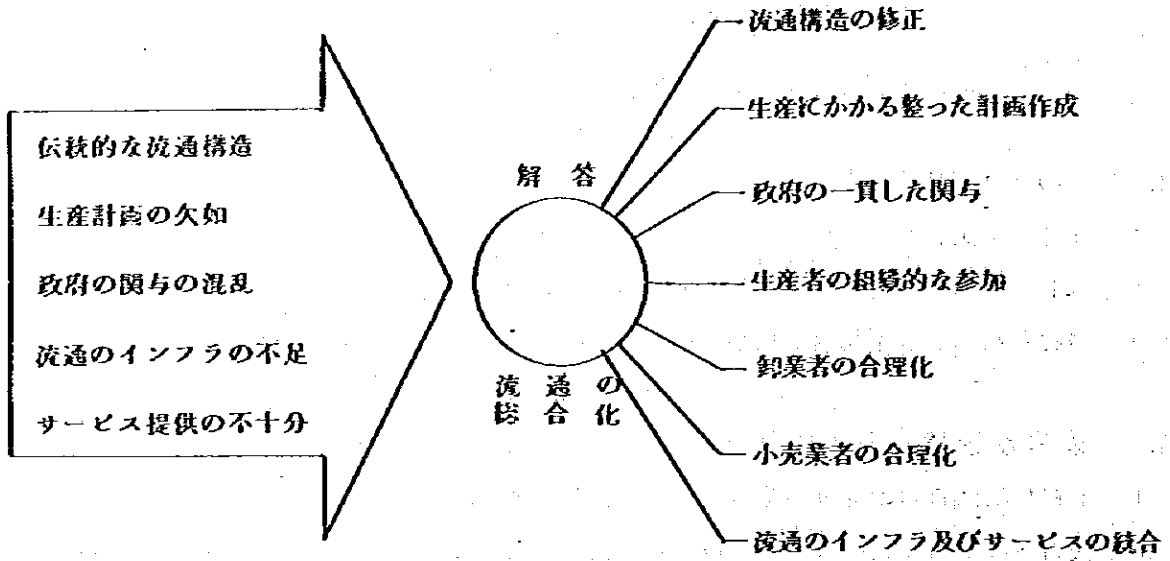
1. 生産の増大。
2. 社会・経済的に最も必要としている階層に対する適切な配分。
3. 農村と都市との不均衡の縮小。

II. 一般的な政策

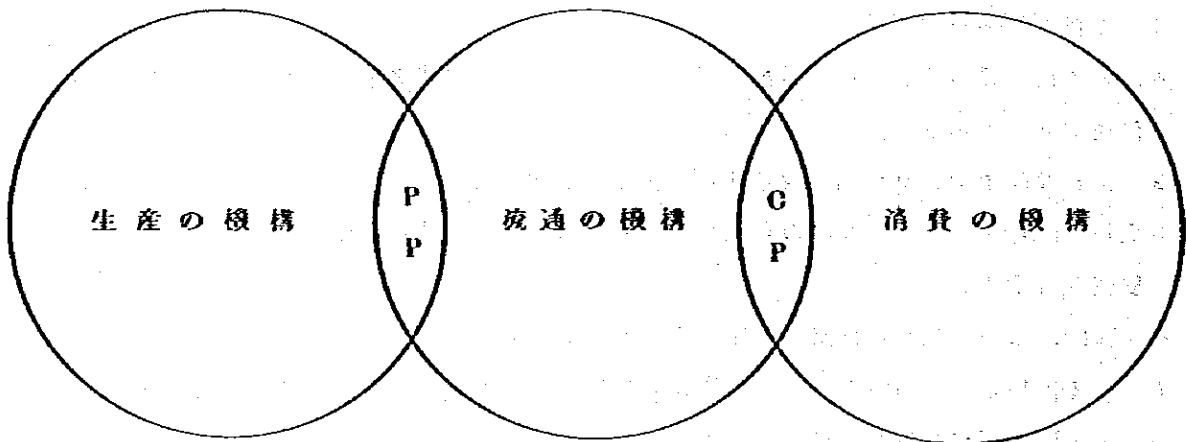
1. 農村生活条件の改善及びそのサービス基盤の整備。
2. 農村への資材提供による生産増大と、農産加工への誘因となる定着した生産の持続。
3. 農家を刺激する価格政策の適応。
4. 流通システムの改善。

III. セクター別の政策

1. 農村発展を確保する方策。
2. 都市と農村の公正な関係を維持するため現行の不均衡の縮小をはかる。
3. 生産と生産性の増進。
4. 基本的に重要な農産物の供給の調節と、生産者及び消費者に直接利得益を与える供給と流通システムの改善。
5. 流通及びインフラ整備の改善を認定する目的で主要都市並びに産地に倉庫、冷蔵施設、食糧の配給センター等を所有し民間の活動の参加を促進する流通のための物的インフラを整備改善する。
6. 全国、地方、地域の段階の農業生産者の自由組織づくりを図る。
7. 加工工場の設置の便を図り、特に食品加工場の生産地域内建設を奨励し、海外依存度の縮小と地域開発及び雇用増大に資する。

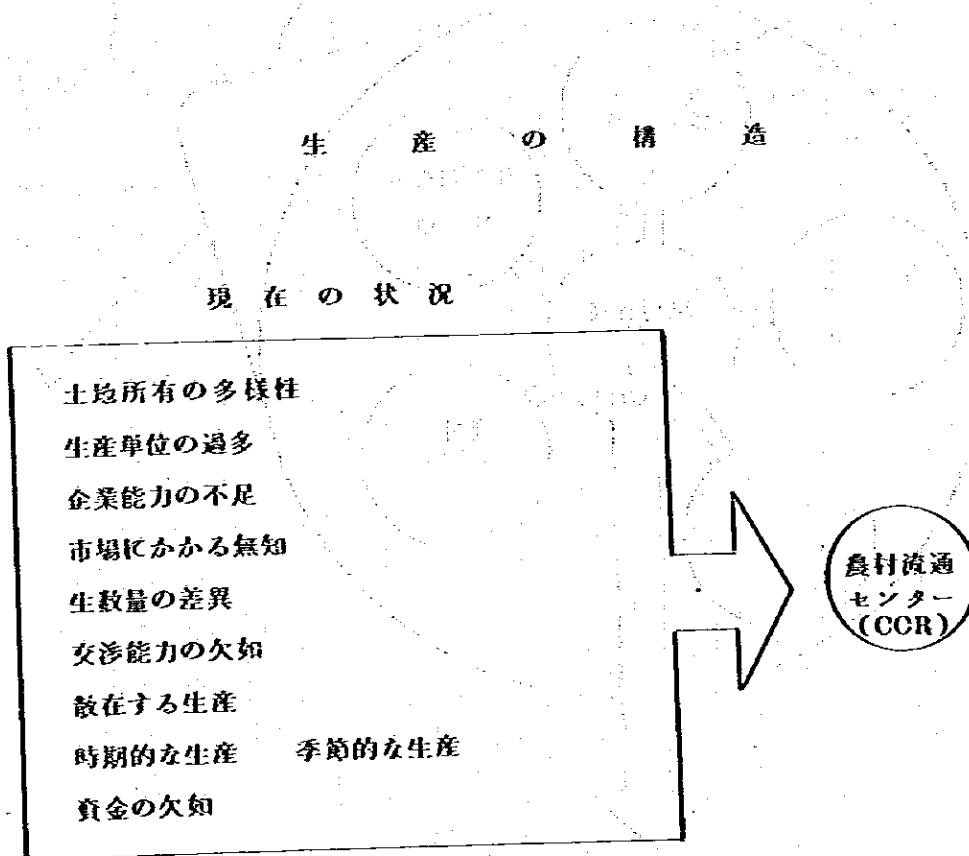


各機構の関連

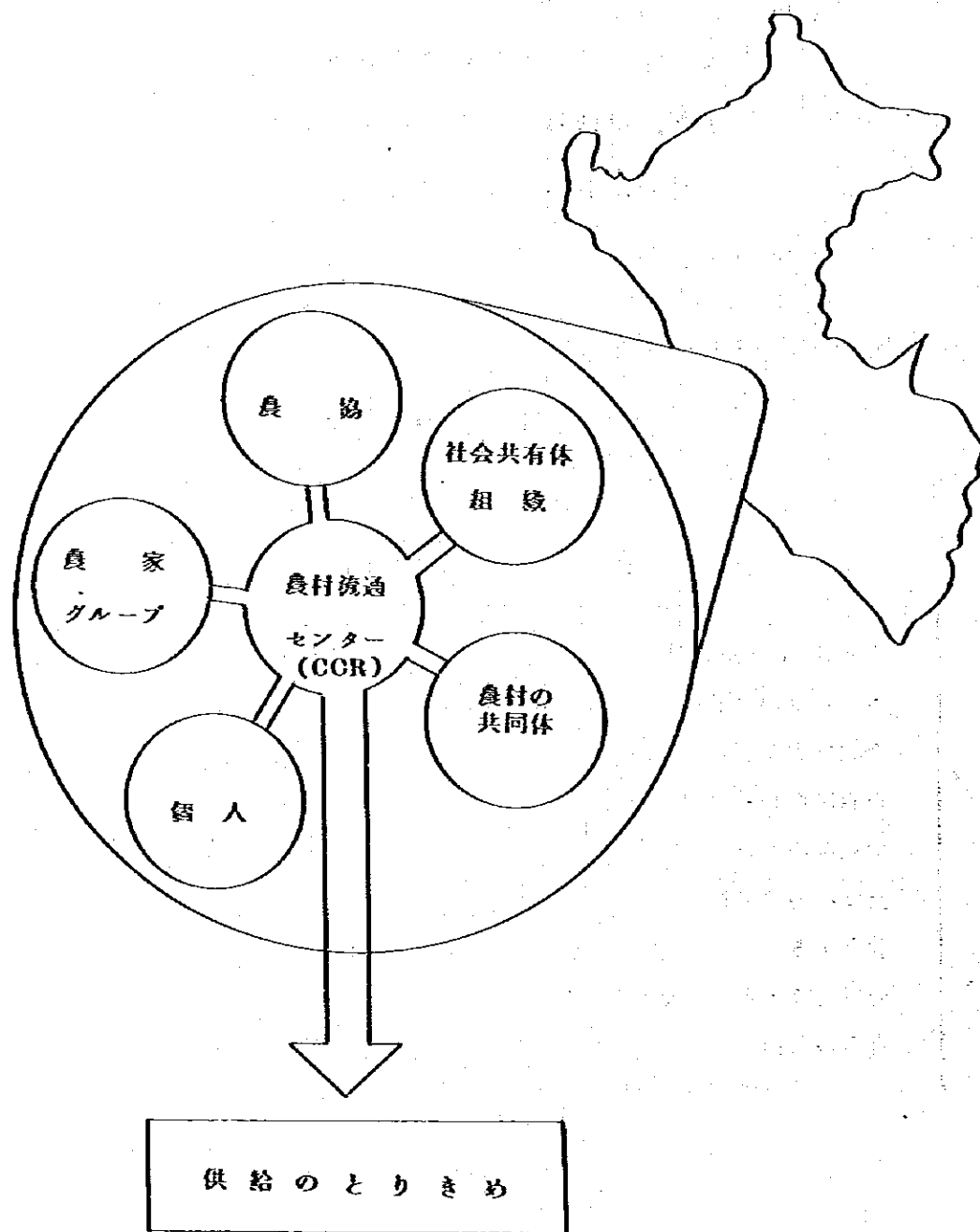


総合流通システムの定義

農産物の流通過程に含まれる生産及び消費、配給の構造を構成する要因の相互関係にかかる規定である。

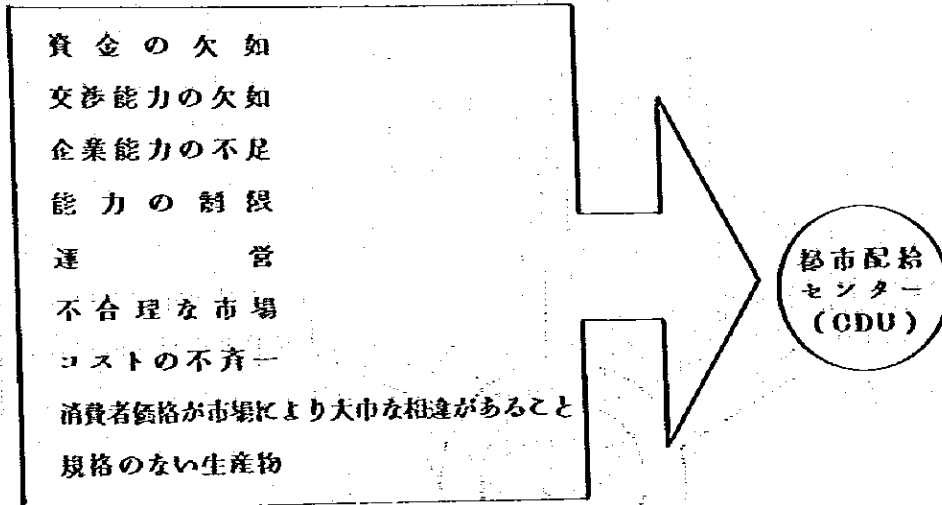


生産の組織
集出荷とサービスセンター



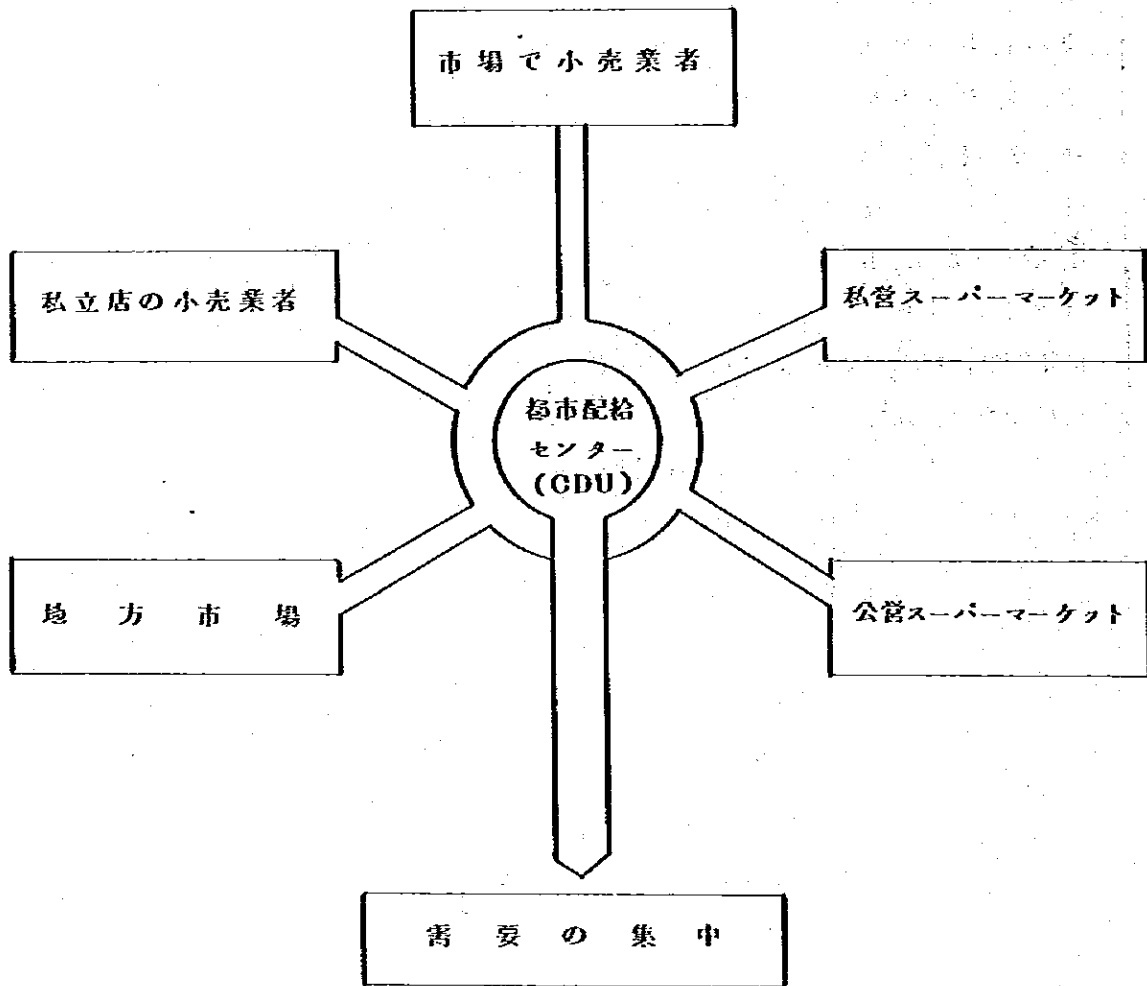
小売業者の配給構造

現在の状況

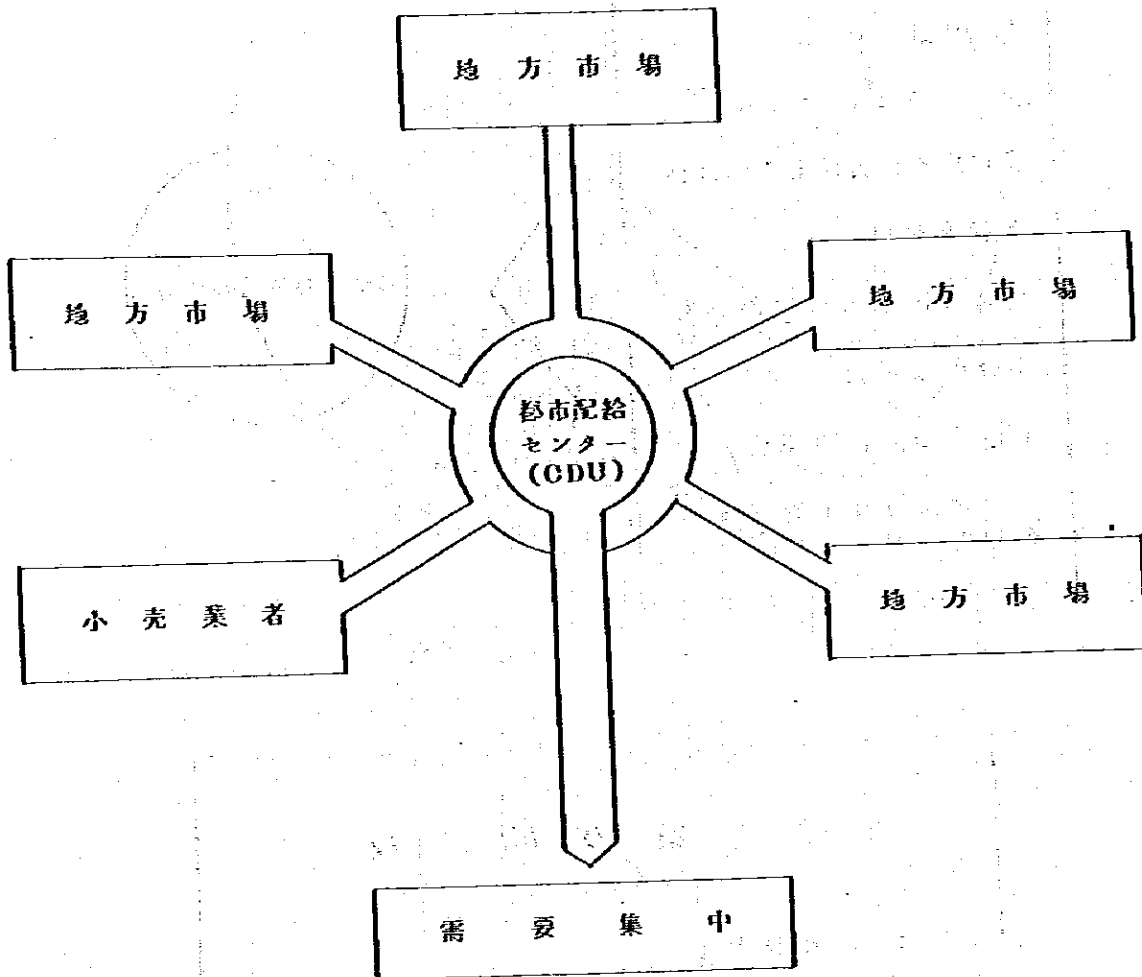


人口・百万人以下の消費センターにおける小売業者の配置組織

都市配給センター

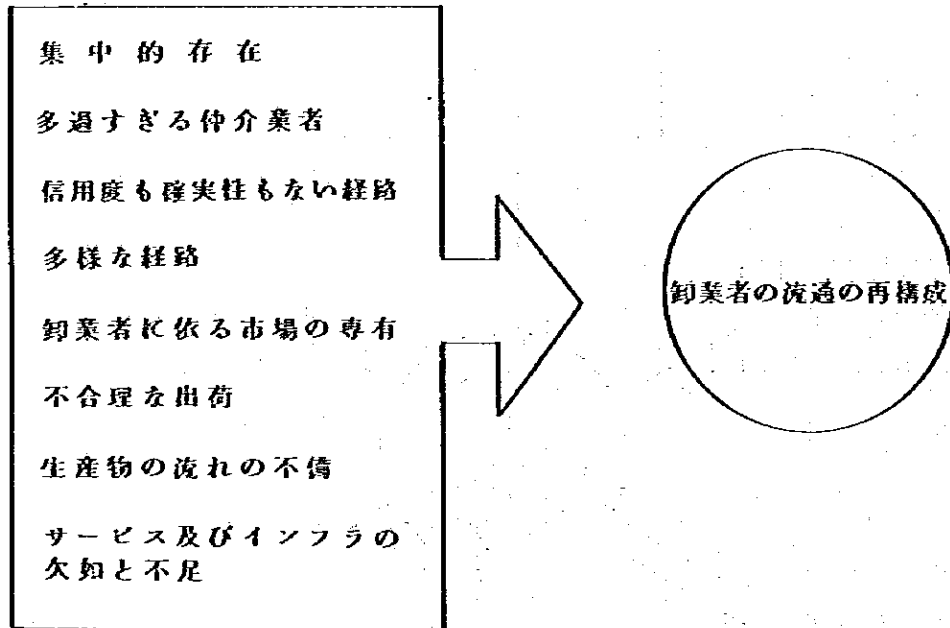


リマ都市圏の小売業者配置組織



卸売業者の構造

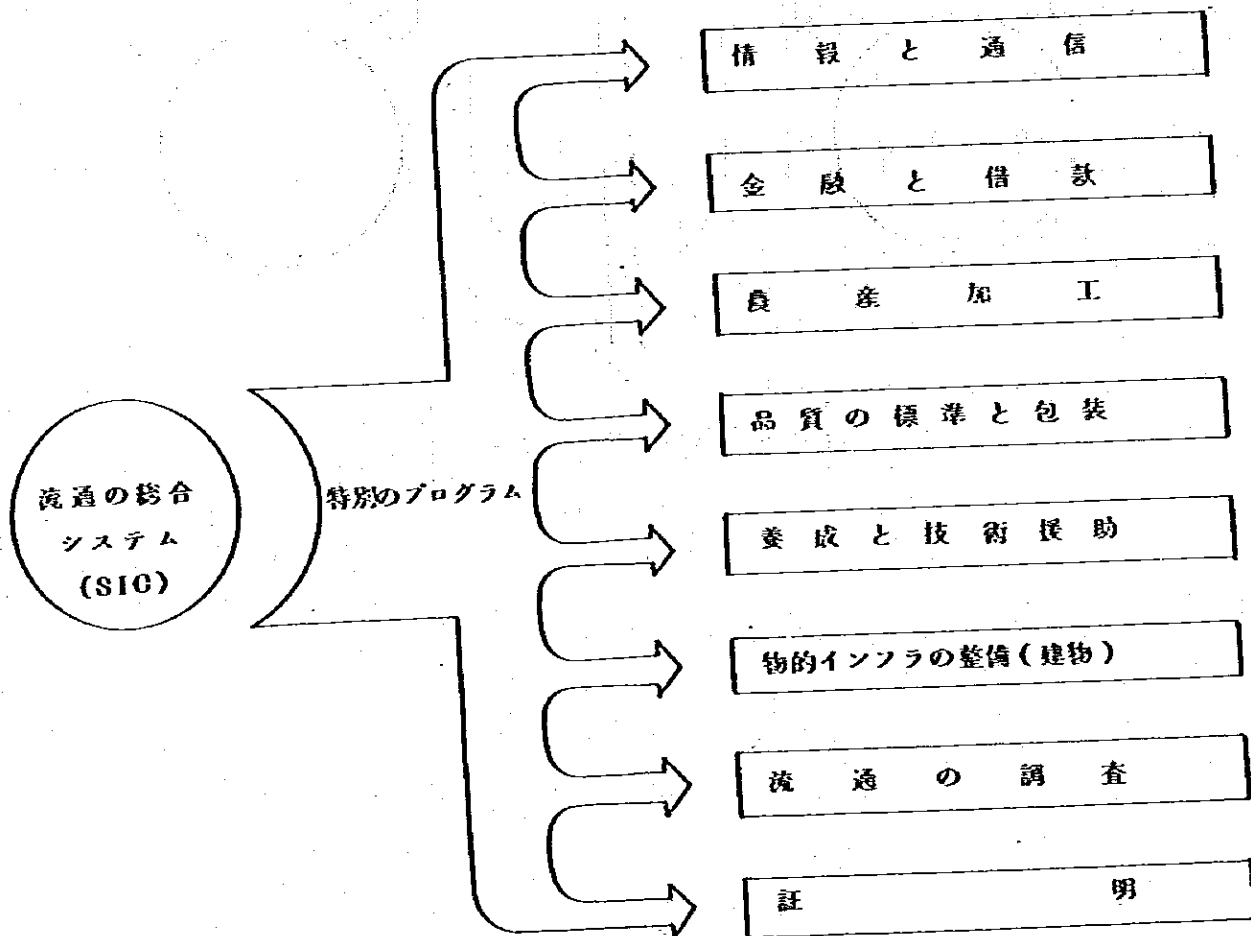
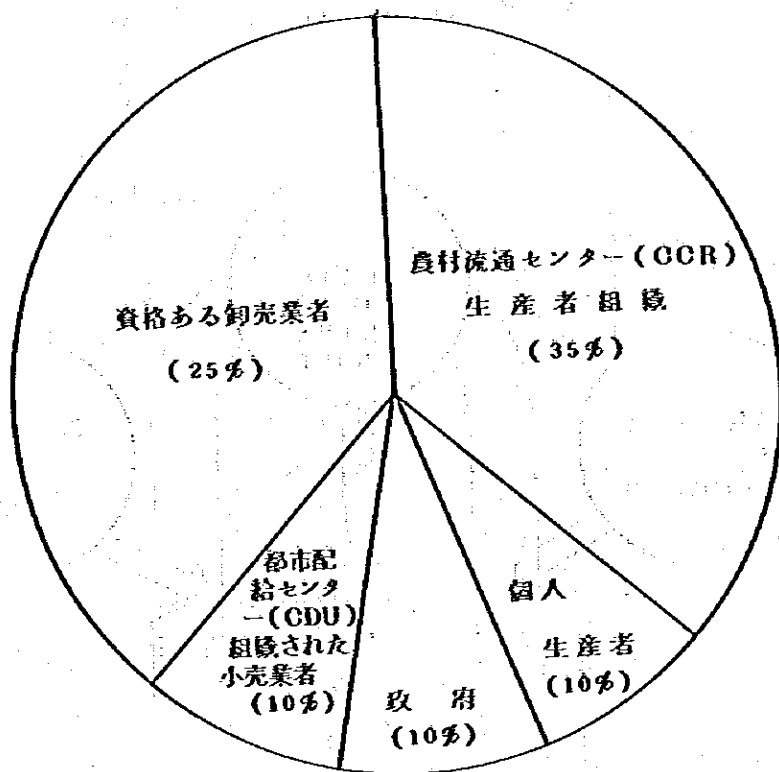
現在の状況



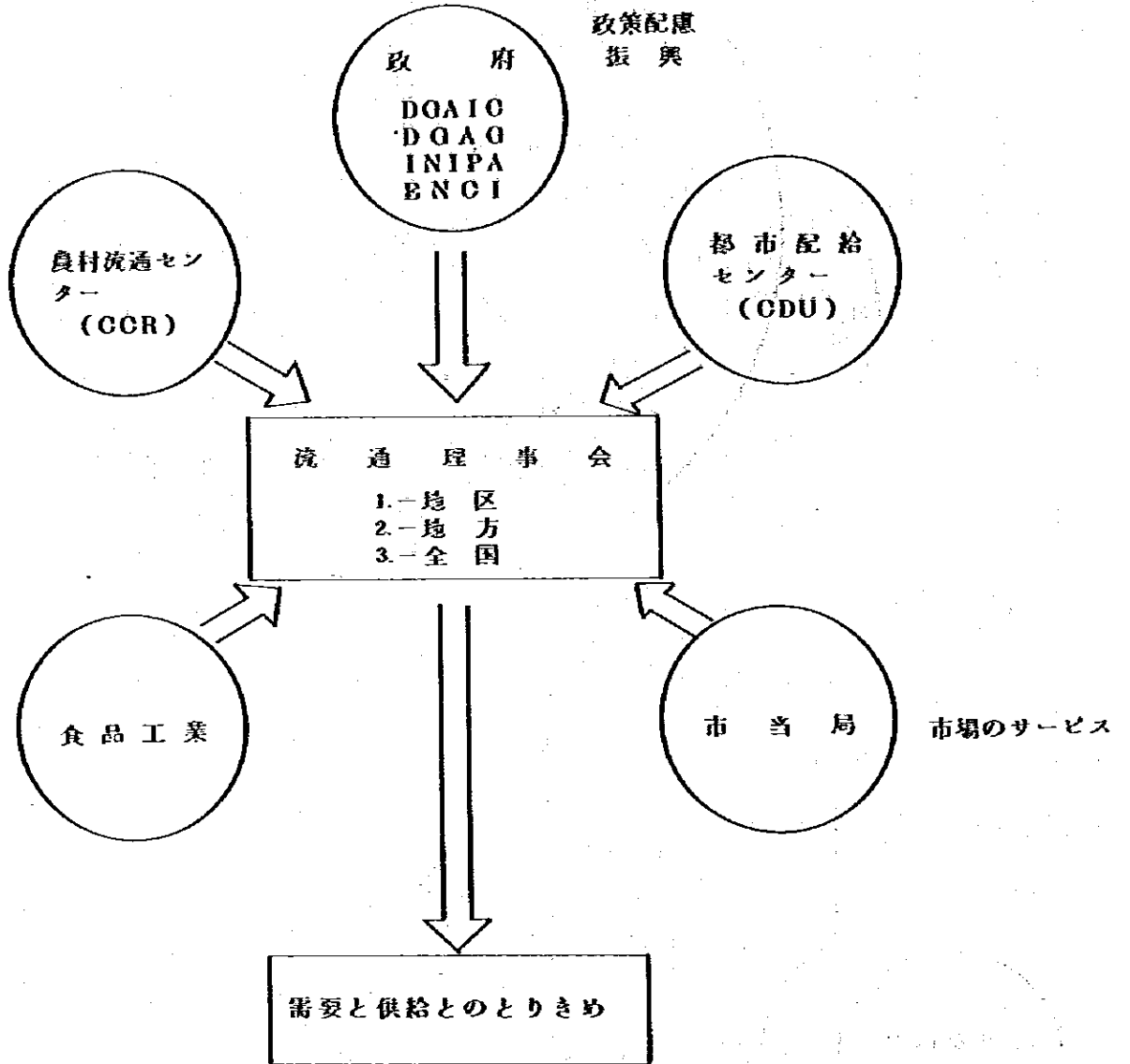
卸売業の再編成

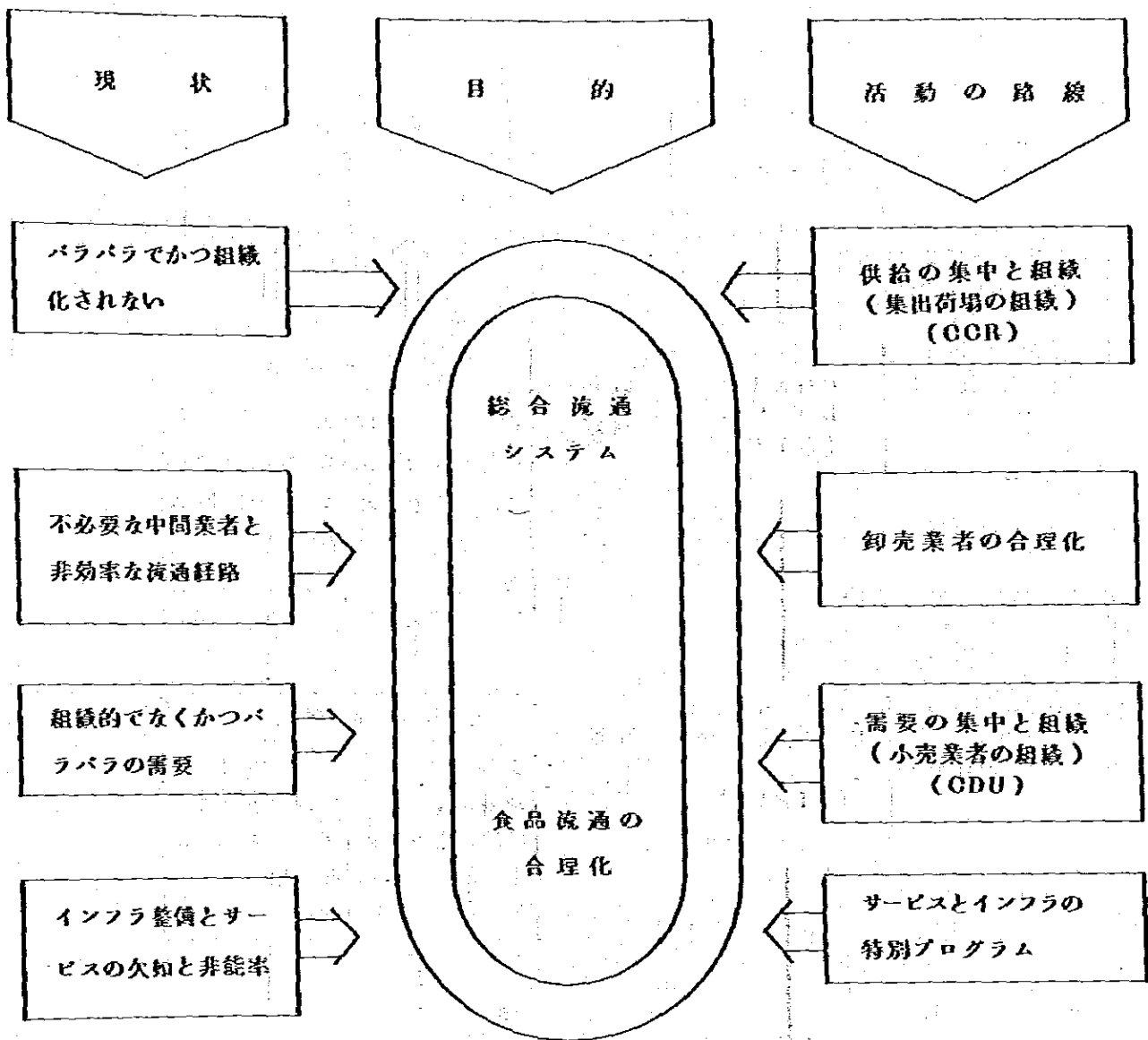
- 卸売業の分散
- 卸売業者の選別と資格
- 効率的な経路の選択
- 市場における力の均衡
- 流通のインフラとサービスの統合計画案
- 卸売市場の新しい制度的秩序
- 農業部門の制度規定

卸売市場の制度的な秩序



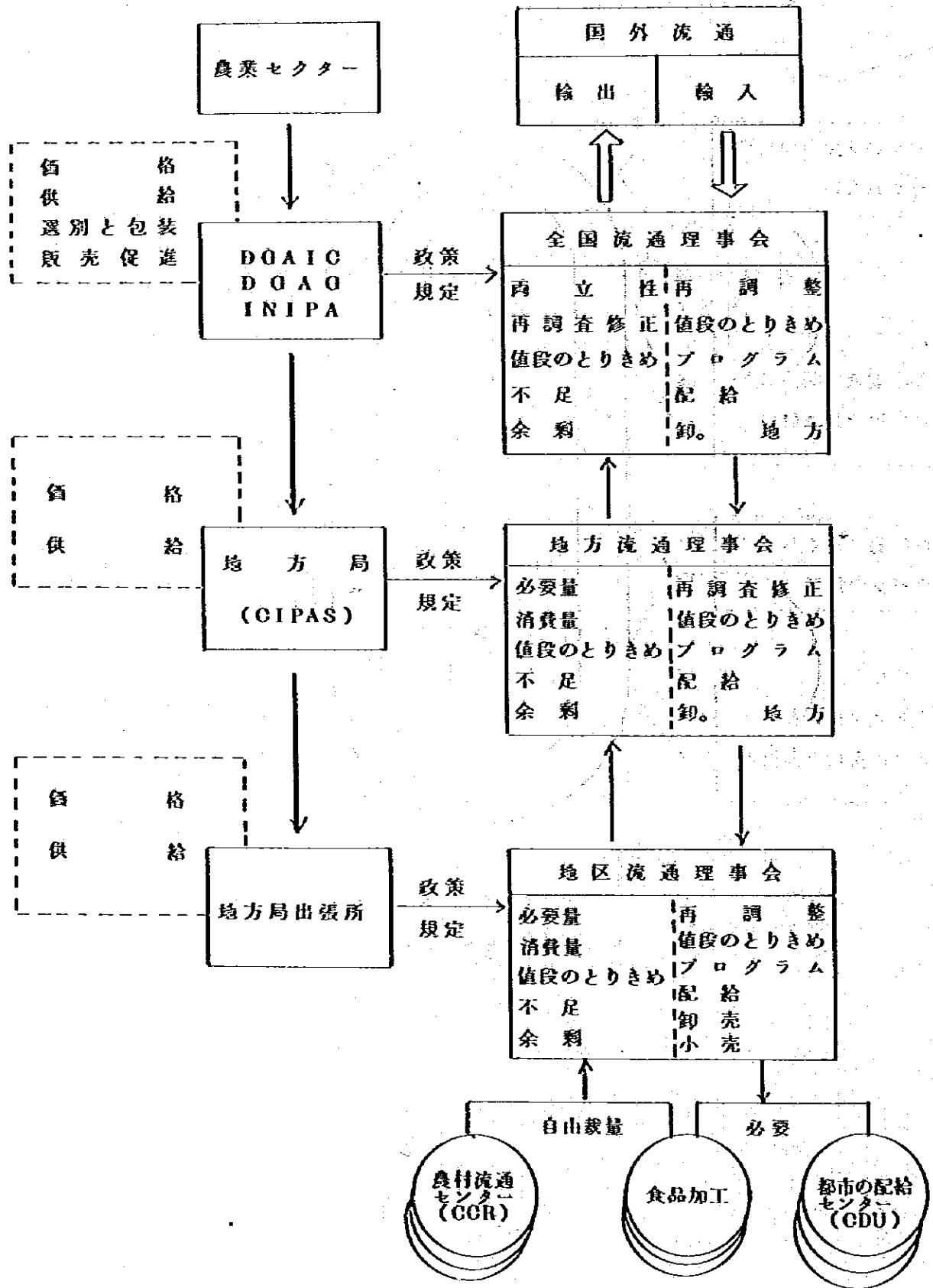
流通の組織と計画



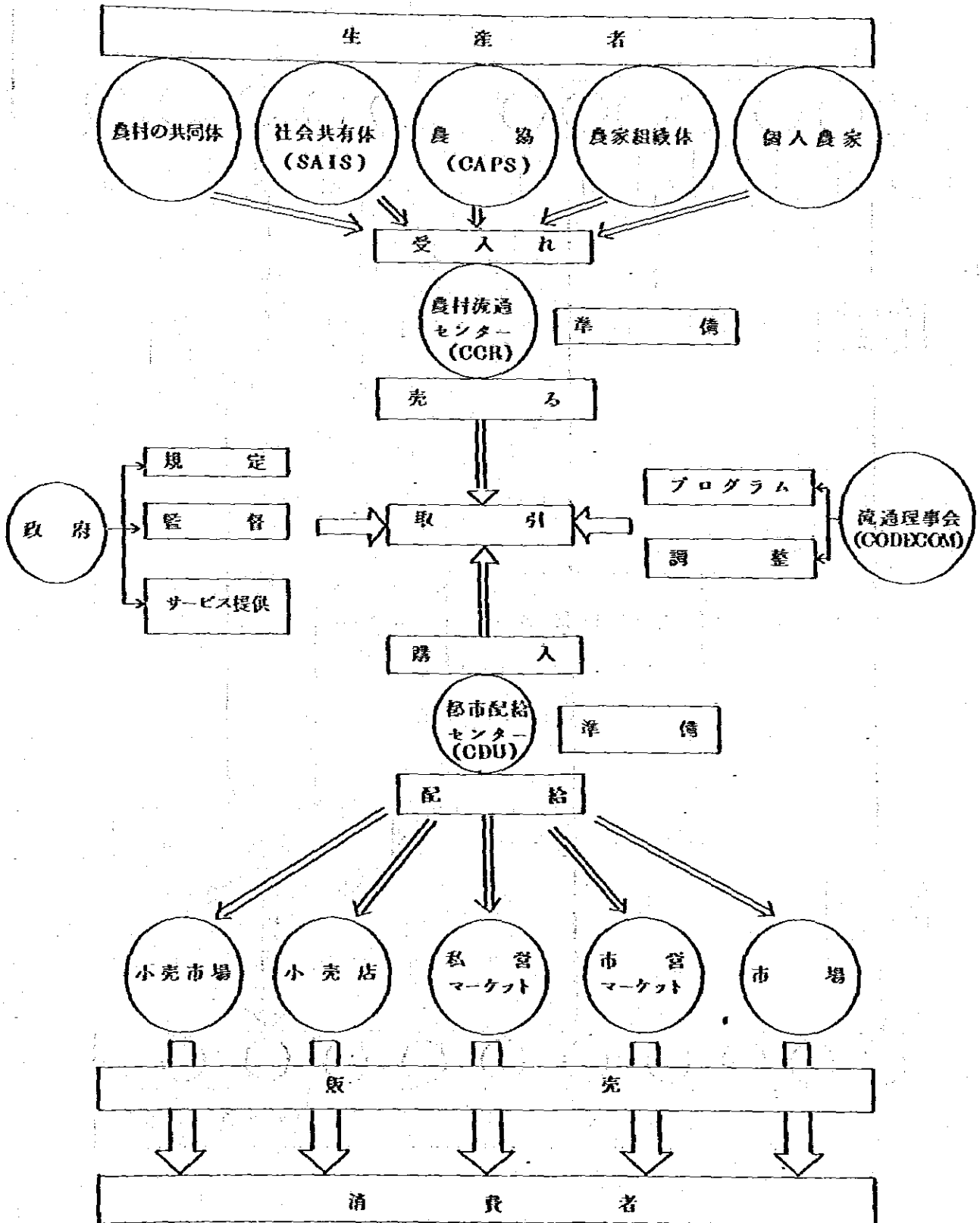


① 農村流通センター

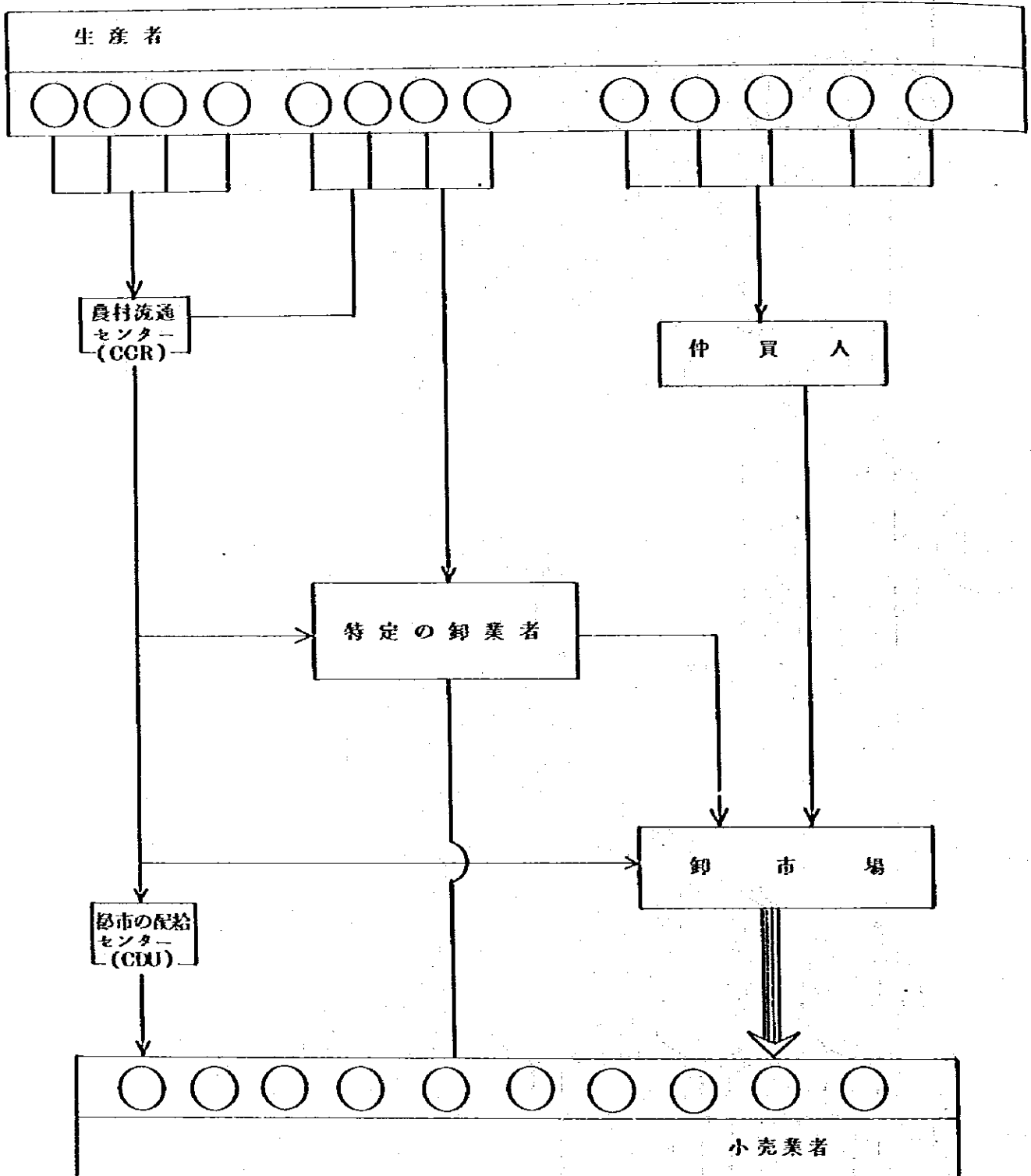
流通の計画



システムの運用



トマト・タマネギ



システムの実行

1) 進行させる

a) 法的な枠組

b) 実施の戦略策定のための一般路線

2) 実施のプロセス

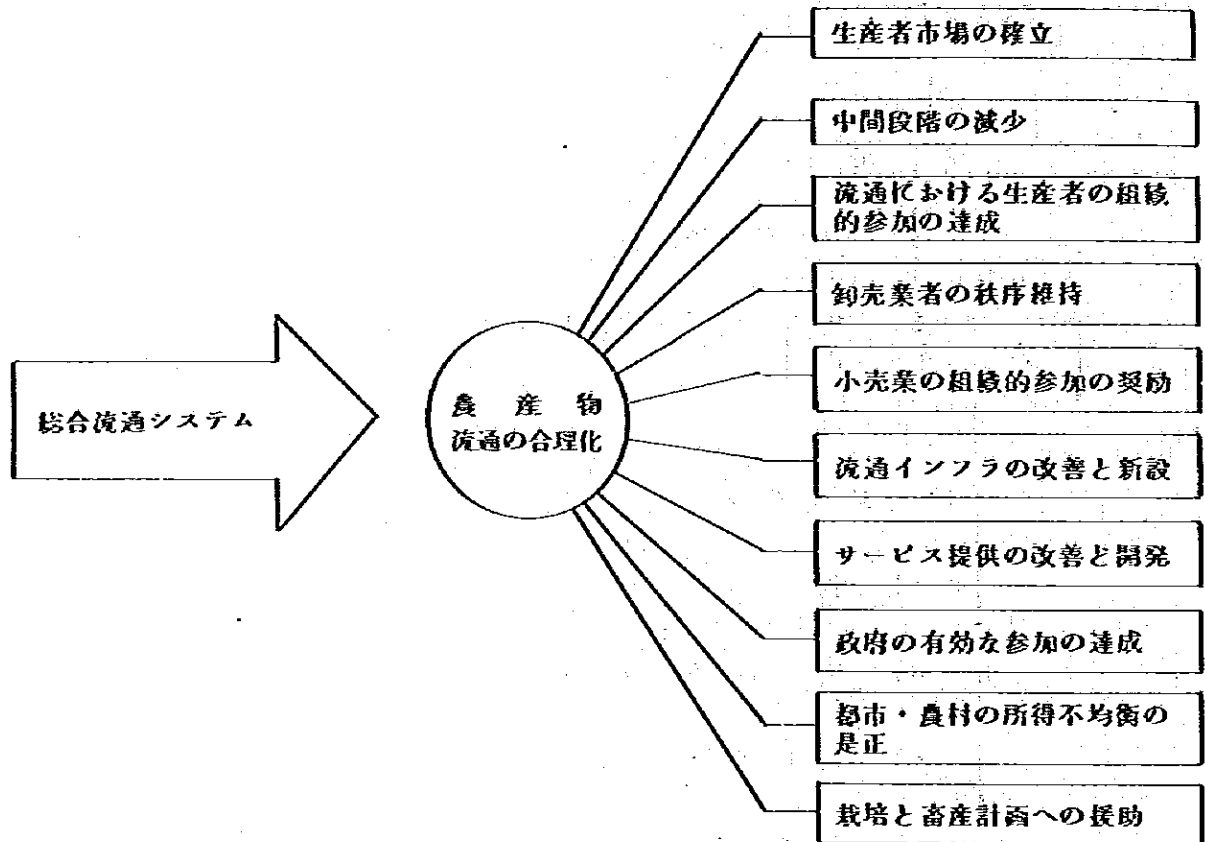
a) 戦略

b) 実施の段階

c) 実施のフェーズ

d) 実施のための行動

システムの目的



JICA

LIBRARY